

「『久高島方言辞典』 福治友邦・加治工真市 共著」 出版のために

加治工, 真市 / 福治, 友邦

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

30

(開始ページ / Start Page)

51

(終了ページ / End Page)

153

(発行年 / Year)

2006-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012539>

『久高島方言辞典』 福治友邦・加治工真市共著」出版のために

加治工真市
福治 友邦

基礎語彙 第2分野 動物

「アーガイ[「?a:gai] (名)

(動) 魚名。ブダイ科。和名、ひぶだい。成魚の体長は約60センチ。アガイ (糸満方言)。刺身にすると美味である。

「アーケージュ[「?a:ke:ɕu] (名)

(動) とんぼ (蜻蛉)。老人層の人達が使用していた。70歳代の人達からは「トンボ[「tombo] (トンボ) を使用するようになった。アーケー「ジューガ」 スウ「ルー」ン [「?ake:「ɕu:ga」 θu「ru:」ŋ] (トンボが飛んでいる)

「アイ[「?ai] (名)

(動) 蟻。「アイヌ」 グン[「?ainu」 guŋ] (蟻がいる)。「アマカイ アイヌ」
^ホ「ホーティ」^コ「アッキースイガ[「?amakai ?ainu」^pΦo:ti[」]「?akki:θiga] (あそこに蟻が這っているが)。アンチ 「アイヌ」 マン「ドゥー」ン ムノー[「?anʃi
「?ainu」 man「du:」m muno:] (なんとあんなに蟻が多いことよ)

「アイコー[「?aiko:] (名)

(動) あり(蟻)。「アイ[「?ai] (蟻)ともいう。「アイコーヌ」 グン[「?aiko:nu」 guŋ] (蟻がいる)

「アカイチャ[「?akaiʃa] (名)

(動) あかいか (赤烏賊)。2、3日間浜で天日乾燥してスルメイカに製造した。戦前はイカ釣り漁が盛んであった。

「アカイラン[「?akairan] (名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、りゅうきゅうあかひめじ。体長約40センチ。ユーアカジンバー (糸満方言)

アカ「シャー[?aka「ʃa:] (名)

(動) 魚名、スズキ科。和名、あかはた。体長約25センチ。ハンゴミーバイ (糸満方言)

アカ「リン[?aka「rin] (名)

(動) 魚名、スズキ科。和名、ゆかたはた。体長約30センチ。アカミーバイ (糸満

方言)

アサ「ヤー」[ʔasa ʔja:] (名)

(動) 魚名、イトウダイ科。和名、いっとうだいの仲間。体長約25センチ。アカユウ (糸満方言)

「アタビ」チ [ʔatabi ʔtʃi] (名)

(動) かえる (蛙)。「ミヤーフグー」[ʔmja: ʔuɡu:] (溜池) に棲息していた。

「アナヤグワー」[ʔanaja: ɡwa:] (名)

エラブウナギを獲る人達の休憩所。徳仁港の入り口の左岸にある。エラブウナギを漁獲する人達が仮眠をとる所。「穴屋小屋」の義。一晩中かけて漁獲するので休息する場所が必要であった。「アナヤグワーカイ」 ユク「タイ」 シュン [ʔanaja: ɡwa: kai ʔ juku ʔ tai ʃun] (穴小屋の休憩所で休息したりする)。「アナヤグワーヤ」 ユクイ「ルクマ」 ヤル [ʔanaja: ɡwa: ja ʔ jukui ʔ rukuma ʃaru] (穴屋小屋は休み所<休憩所>である)

「アバ」[ʔapa] (名)

(動) 魚名、オニオコゼ科。和名、おにだるまおこぜ。体長約40センチ。イシアファー (糸満方言)。和名、ひめおにおこぜ。体長約20センチ。ドルアファー (糸満方言)

アバ「スァー」[ʔaba ʔra:] (名)

(動) 魚名、ハリセンボン科。和名、ねずみふぐ。体長約40センチ。イノーアバサー (糸満方言)

「アビー」ン [ʔabi: ʔŋ] (自動)

吼える。動物が吼えることをいう。久高島には、昔は犬、牛、馬などはいなかったという。ただ、ケーブルの森には神馬がいて、ソールイガナシが神馬に跨っておられ、それが「スァティマンヌ」 ワカグラ [ʔratimannu wakagura] (鬣くたてがみ) の若駒) であるという口碑がある。鶏が鳴くのは、「スウイヌ」 ウテーン [ʔθuinu ʔute: ŋ] (鶏が鳴く) という。「スウイン」 ウタタイ 「ユーン」 「アキタイ」 [ʔθuin ʔutatai ʔju: ŋ ʔakitai] (鶏も鳴いたので夜も明けた)

アピ「ラー」[ʔapi ʔra:] (名)

(動) あひる (家鴨)。アピ「ラー」 ティ「カナトゥー」ン トゥ「クマー」 グヤピラ ンタン [ʔapi ʔra: ʔ ti ʔkanatu: ʔn tu ʔkuma: ɡujabirantaŋ] (家鴨を飼育しているところはありませんでした<おりませんでした>)

アブ「クヤー」[ʔabu ʔkuja:] (名)

(動) ハマグリ (蛤)。アブ「クヤーヌ」 ミー「ヤ」 ンマ「スァン」[ʔabu ʔkuja: nu mi: ʔja ʔmma ʔraŋ] (蛤の実はおいしい)

「アファー」[ʔaʔja:] (名)

母豚。繁殖用母豚。アファー「ワー」[ʔaʔja:wa:] (繁殖用母豚) ともいう。久高島では繁殖用母豚はいなかった。子豚を購入してきて、それを肥育して売った。

ア「マン」[ʔaʔmaŋ] (名)

(動) ヤドカリ。爪を除去して魚釣りの餌に用いた。アマン「プッティ イユ クワーシーガ」イカ[ʔʔamam ʔputti ʔiju kwa:ʃi:ga ʔika] (ヤドカリを拾って魚を釣りに行こう)。アマン「ムンダニツ」チ「イユ クワーシュン」[ʔʔamam ʔmundanitʃi ʔiju kwa:ʃuŋ] (ヤドカリを餌にして魚をつる)

「アミキヤー」[ʔamikja:] (名)

(動) フグ (河豚)。アミ「キヤーカイ アタイン」[ʔamiʔkja:kai ʔataiŋ] (フグにあたるくフグ食中毒する)

アミプイアン「ダー」[ʔamipuiʔanʔda:] (名)

(動) なめくじ。雨降りの後によく出た。アミ「プティン アトー」アミプイアン「ダー」ガ「ユウ コンギティ シューン」[ʔami ʔputiŋ ʔato: ʔamipuiʔanʔda:ʔga ʔju: ʔŋgiti ʔʃu:ŋ] (雨が降った後にはナメクジがよく出てくる)。マシュ「マキヤー」ヒースア「マシュ」[maʃu ʔmaki:ʔja ʔci:ra] (塩を撒いたら死ぬよ)

アラ「ケー」[ʔaraʔke:] (名)

しゃこ貝

アン「ダー」[ʔanʔda:] (名)

(動) 魚名、ウツボ科。和名、おながうつぼ。体長約1.5メートル。アカウナジャー (糸満方言)

「アンモーナザ」[ʔammo:naʒa] (名)

(動) 魚名、ベラ科。和名、せなすじべら。体長約20センチ。クサバー (糸満方言)

「イキグサー」[ʔikigusa:] (名)

(動) 魚名、キントキダイ科。きんときだいの仲間。体長約28センチ。マーヒチ (糸満方言)

イシ「バイ」[ʔiʃiʔbai] (名)

(動) 魚名、イスズ科。和名、かんもんはた。体長約20センチ。イシミーバイ (糸満方言)

イシャトー「メー」[ʔiʃato:ʔme:] (名)

(動) かまきり (蟻螂)。イシャトー「メー」ティ「カラ」[ʔiʃato:ʔme:ʔtiʔkaraŋ] (かまきりを捕まえた)。ワラビン「シャヤー」イシャトー「メー」ティカリ「アシルータン」[warabiŋʔʃa:ja ʔiʃato:ʔme:ʔtikari ʔaʃiru:taŋ] (子供た

ちは蟻螂を捕まえて遊んでいた)

イチ「ム」シ[ʔiʃi「mu」ʃi] (名)

(動) 獣。動物の総称。他人を罵るときにいう。イチ「ムシネー」ン「ムノ」[ʔiʃi「muʃine:」m「muno:」] (獣のような奴)。イチ「ムン」[ʔiʃi「mun」] (獣。動物全体。総称) ともいう。イチ「ムンヌ」グン[ʔiʃi「munnu」gun] (動物がいる)

イチ「ムン」[ʔiʃi「mun」] (名)

(動物) 動物。動物の総称。家畜。イチ「ムン」ティ「カナトウ」ン[ʔi「ʃimun」ti「kanatu:」] (家畜を飼育している)。イチ「ムン」ティ「カネ」ブ「シャン」[ʔi「ʃimun」ti「kane:bufaŋ」] (家畜を飼育したい)

「イチャ」[ʔiʃa] (名)

(動) いか(烏賊)。「イチャク」ワ「シュン」[ʔiʃa kwa:「ʃun」] (烏賊を釣る)。「イチャク」ワ「チャン」[ʔiʃa kwa:ʃaŋ] (烏賊を釣った)。「イチャク」ワ「サ」ラン[~kwa:sa「ran」] (~釣れない)

イチ「ヤ」ビラー[ʔiʃa「bira:」] (名)

(動) 魚名。スズメダイ科。和名、みすじりゅうきゅうすずめ。体長約10センチ。イシビキ(糸満方言)

イチ「ヤ」ユ「ユー」[ʔiʃa「ju:」] (名)

餌木。烏賊を釣るのに用いる擬餌の木片。イチ「ヤ」ユ「シャー」マ「フブン」シ「ミ」ク「ワ」シュ「ン」[ʔiʃa「ju:ʃa:ma」ʔubun「ʃimi kwa:ʃu」ŋ] (餌木で甲烏賊を釣る)

「イビ」[ʔibi] (名)

(動) えび(海老)の総称。伊勢海老。「イビ」ス「ウイ」ン[ʔibi θui「ŋ」] (海老を獲る。伊勢海老を獲る)

「イビヤ」[ʔibja:] (名)

(動) 魚名。スズキ科。和名、おきなわめぎす。体長約18センチ。アカベ(糸満方言)

「イユ」[ʔiju] (名)

(動) 魚。魚の総称。「イユ」ヌ「グン」[ʔijunu「gun」] (魚がいる)。「イユ」ク「ワ」シュ「ン」[ʔiju kwa:ʃun] (魚を釣る)。「イユ」ネ「ク」ワ「スア」リー「ヌ」イ「ユ」ン「グイ」ヤ「ヤー」[「ja:ne:」kwa:「ra:ri:nu ʔiju:」ŋ「guijaja:」] (君に釣られる魚もいるかなあ)。「イユ」ティ「キン」[ʔiju tikiŋ] (魚を突く)。「イユ」ティ「キ」ガ「イカ」[ʔiju tiki:「ga ʔika」] (魚を突きに行こう)

「イラ」チヤ[ʔira「ʃa」] (名)

鱗。魚の鱗。「イラ」チヤ「バ」ハ「ギン」[ʔiraʃa pʰagiŋ] (鱗を剥ぐ)。「バ」ハ「ガン」[pʰagaŋ] (剥がない。剥ぎ取らない)。「バ」ハ「ジャ」ン[ʔiʃaʃa「ŋ」] (剥いだ)。「イラ」チヤ

「バハジャン」[ʔɪraʃa ʔɸaʃaŋ] (鱗を剥いだ)

イ「ラブ」[ʔi ʔrabu] (名)

(動) くらげ (水母)。刺胞に強い毒をもち、それに触れると刺される。秋ごろによく現れる。イ「ラブネー」 スア「スアッタ」ン[ʔi ʔrabune: ʔ ra ʔratta ŋ] (水母にさされた)

「イラブ」チ[ʔɪrabu ʔʃi] (名)

(動) 魚名、ブダイ科。和名、ぶだいの仲間。体長約30センチ。アカグチャー (糸満方言)

「イラ」ン[ʔɪra ŋ] (名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、おうごんひめじ。体長約25センチ。ジンバー (糸満方言)

「イン」[ʔiŋ] (名)

(動) イヌ (犬)。太平洋戦争終了 (昭和20年) 前の久高島には犬は飼育されていなかった。戦後になって牛や犬が飼育されるようになった。牛は肉牛として飼育されており、農耕用牛としては飼育されていない。クダカ「ジマカヤー」 イノー 「グラント」ン[ʔkudaka ʃimakaja: ʔino: ʔgurantaŋ] (久高島には犬はいなかった)

「ウイ」[ʔui] (名)

(動) うい (海栗) の一種。食用にならないもの。畑の肥料にした。

「ウーティ」 イキン[ʔu:ti ʔikiŋ] (連)

追っていく。「ウヤ」 「ウーティ」 イキン[ʔuja ʔu:ti ʔikiŋ] (親の後を追っていく)。「ワラビ」 「ウーティ」 イキン[ʔwarabi ʔu:ti ʔikiŋ] (子供を追って行く)

「ウサギ」[ʔusagi] (名)

(動) うさぎ (兎)。標準語からの借用語か。久高島には兎は飼育されていなかった。

「ウシ」[ʔuʃi] (名)

(動) うし (牛)。久高島には牛は飼育されていなかった。明治30年生まれの久高島出身の人が沖縄本島のある初等学校の運動会で黒牛をみて驚愕し、アッ「ピ」ヌ 「ワー」[ʔap ʔpi nu ʔwa:] (あんなに大きな豚がいる) と言ったという伝承がある。久高島では牛を見る機会がなかったのである。戦後になって、肉牛を飼育する人が現れた。

「ウジ」[ʔuʃi] (名)

(動) うじ (蛆)。「ウジヌ」 「ワチューン」[ʔuʃinu ʔwaʃu:ŋ] (蛆が湧いている)。

「ハー」 「ヒティリヨーツ」チン 「ヒティラン」クトウ 「ウジヌ」 「ワチューサー」ー[ʔha: ʃitirijo:t ʃiŋ ʃitiraŋ kutu ʔuʃinu ʔwaʃu:ra] (早く捨てなさい)

いと言っても捨てないから蛆が湧いているよ)

「ウルカヤー」[「?urukaja:」] (名)

(動) 魚名、カワハギ科。和名、ごまうまづら。体長約30センチ。「ウルカヤーは「珊瑚を喰らう奴」の義か。カーガー (糸満方言)

「エー」[「?e:」] (名)

(動) 魚名、アイゴ科。和名、はなあいご。体長約25センチ。オンレー (糸満方言)

「エーン」チュ「[「?e:n」]fu」 (名)

(動) ねずみ (鼠)。「フマカイ エーンチュヌ」 グン「[「Φumakai ?e:nʃunu」 g un] (ここに鼠がいる)。「ミャーヌ 「エーンチュ」 スウ「タ」ン「[「mja:nu 「?e:nʃu」 θu「ta」η] (猫が鼠を捕った)

オー「グー」[「?o:「gu:」] (名)

(動) やどかりの大きいもの。サザエ貝の殻の中に棲息する。「オーグーアマン」[「?o: gu:ʔamanη] (大やどかり) ともいう。

オー「ナジャー」[「?o:「naʃa:」] (名)

(動) あおだいしょう (青大将)。久高島ではあまり見かけない。オー「ナジャーヤ」 アン「マリ」 ミチャン 「フトー」 ナーン「[「?o:「naʃa:ja」 ʔam「mari」 miʃan 「Φuto:」 na:η] (青大将はあまり見たことがない)

オーハマ「スアー」[「?o:hama「ra:」] (名)

(動) 魚名、カマス科。和名、おおめかます。体長約50センチ。アカバニーカマサー (糸満方言)

「オービキヤー」[「?o:bikja:」] (名)

(動) 魚名、スズメダイ科。和名、れもんすずめ。体長約8センチ。アカビー (糸満方言)

「オーベー」[「?o:be:」] (名)

(動) あおばえ (青蠅)。糞便や魚肉の腐敗したものに湧く。

「ガイ」[「gai」] (名)

(動) かに (蟹)。蟹の総称。「ガイヌ」 バハマ「カイ」 アナ 「フトゥー」ン「[「gai nu」 pΦama「kai」 ʔana 「pΦutu:」η] (蟹が浜に穴を掘っている)

「カイコ」[「kaiko」] (名)

かいこ (蚕)。標準語からの借用語。戦前には、津堅島あたりから久高島へ桑の葉を貰いに来た。ティキ「ノー」 カイコ ティカナ「トゥータクトウ」 クワーギヌ 「プハー ギーガ」 シュータ「スアー」[「tiki「no:」 kaiko tikana「tu:takutu」 kw a:ginu 「pΦa: gi:ga」 ʃu:ta「ra:」] (津堅島では養蚕をしていたので、桑の葉を貰いに来ていたよ)

「ガジャー」[「gaʒa:」] (名)

(動) か (蚊)。ガジャー「ネー クワットタン」[gaʒa:「ne: kwa:ttan」] (蚊に咬まれた)。「ガジャーヌ」 「マンディ」 「ニンダランタン」[「gaʒa:nu」 「mandi」 「nintar antan」] (蚊が多くて眠れなかった)

「ガナーバチー」[「gana:bafji:」] (名)

(動) 魚名、ブダイ科。和名、なんようぶだい。体長約70センチ。オーバチャー (糸満方言)

「カブ」[「kabu」] (名)

撒き餌。「カブ マキン」[「kabu makin」] (撒き餌を撒く)。撒き餌は、スルルグラーなどの「ムンダニ」[「mundane」] (餌) を撒いた。

「カメブ」シ「kamebu」ji (名)

鯉節の名称の一つ。小判と呼ばれる小型のカツオ (約2～3kg) を三枚下ろしにして、左、右の両身を鯉節に製造したもの。

ガラ「スアー」[gara「ra:」] (名)

(動) からす (鳥)。久高島では、鳥は不吉な鳥といわれている。「ウン ヤーヌ ウイ」カ「イ ガラ「スアー」ガ ナ「キーヤ」 ヤン「メー チューヌ」 ッチュヌ 「ヒーガ」 シュラ」ワカラン」[「ʔunja:nu ʔui」kai gara「ra:」ga na「ki:ja」 jam「me: ʃu:nu」 tʃunu 「çi:ga」 ʃura」wakaran」] (その家の上に鳥が鳴いたら、病気している人が死ぬかも知れない)

キシ「パー」[kiʃi「pa:」] (名)

(動) 魚名、スズメダイ科。和名、あまみすずめ。体長約14センチ。クルビラー (糸満方言)

「キラーハマン」[「kira:haman」] (名)

(動) 魚名、カマス科。和名、おおかます。体長約1.5メートル。ダイカマサー (糸満方言)

「グー」ブシ「gu:」buʃi (名)

鯉節の名。「雄節」のこと。カツオの背肉で製造した鯉節。高品質の鯉節とされている。

「グームン」[「gu:mun」] (名)

おす (雄)。「グーワー」[「gu:wa:」] (雄豚)。久高島では雄豚はいなかった。「スアニーワー」[「raniwa:」] (種豚) は飼育していなかった。ワッ「タ シマー グーワーヤ」ティカ「ナーナ」 ミー「ワー ビカー」ン ヤタル」[wat「ta ʃima: gu:wa:ja」 tika「na:na」 mi:「wa: bika:」n jataru」] (私達の島は雄豚は飼育しないで、雌豚ばかりであった)。「チーンチ」 ワー「グワー ホーイガ」 イ「キン」[「ʃi:nʃi」wa

- ：「gwa: ho:iga」 ?i「ki」η] (知念村へ子豚を買いに行く)
- 「グーラク」[「gu:raku」 (名)
- 雄蛸。
- クク「バー」[kuku「ba:」 (名)
- (動) 魚名、モンガラカワハギ科。和名、たすきもんがら。クク「バー」[kuku「ba:」の語源は「膨れているもの」の義という。体長約20センチ。イノーフクルビー (糸満方言)
- ク「スア」ビ[ku「ra」bi」 (名)
- (動) 魚名、ベラ科。和名、きぬべら。体長25センチ。クサバー (糸満方言)
- 「クスウ」[「kù θu」 (名)
- くそ(糞)。「スイヌ」 クスウ[「θuinu」 kù θu] (鳥の糞)。「ウシヌ」 クスウ[「?uʃinu」 kù θu] (牛の糞)
- 「クスック」[「ku θ uku」 (名)
- (動) 魚名、ニザダイ科。和名、くろぐちにぞ。体長約20センチ。クスク (糸満方言)
- ク「スググイン」[ku「θuguiη」 (動)
- こそぐる。「ワチャ」 ク「スググイン」[「waʃa ku「θuguiη」 (腋下をこそぐる)
- ク「タナ」ギ[ku「tana」gi」 (名)
- (動) 魚名、フエフキダイ科。和名、いそふえふき。体長約25センチ。クチナジ (糸満方言)。ク「タナ」ギ 「クワーシュ」ン[ku「tana」gi 「kwa:ʃu」η] (鯛を釣る)。ク「タナギヌ」 クワースア「リー」ン[ku「tanaginu」 kwa:ra「ri:」η] (鯛が釣れる)
- 「ク」ム[「kù」mu」 (名)
- (動) くも (蜘蛛)。「クムヌ」 「スイー」[「kùmunu 「θi:」 (蜘蛛の巣)。「クムヌ」 「スイー」 トウク「トゥーン」[「kùmunu θi: tuku「tu:η」 (蜘蛛が巣を作っている)
- クラー「グワー」[kura:「gwa:」 (名)
- (動) すずめ (雀)。「ヌチカイ」 クラー「グワーガ」 スイー トウク「トゥーシガヤー」[「nuʃikai」 kura:「gwa:ga」 θi: tuku「tu:ʃigaja:」 (軒に雀が巣を作っているよ)
- グル「マー」[guru「ma:」 (名)
- (動) 魚名。サバ科。和名、ぐるま。体長約30センチ。グルマー (糸満方言)
- ク「レー」[ku「re:」 (名)
- (動) 魚名、イサキ科。和名、ころだい。体長約50センチ。ジューグワークレー (糸

満方言)

「グンジャ」[「gunɕa】(名)

(動) くじら(鯨)。「グンジャ」ヌ ミー「タン」[「gunɕa」nu mi:「tan】(鯨が見えた)。「グンジャ」ヌ グン」[「gunɕanu」 gun】(鯨がいる)。「グンジャ」ヌ ウイ「ジュー」ン マー「チガヤー」[「gunɕanu」 ʔui「ɕu:」m ma:「ʃigaja:】(鯨が遊泳している。どこへ行くのかなあ)。「グンジャ」ヌ チャン「ジャチ イキスイ ミチャ」ン 「バーン」アスアー」[「gunɕanu」 ʃan「ɕaʃi ʔiki ʃi miʃa」m 「ba:ŋ」ʔaɾa:】(鯨が喜屋武岬の方へ行くのを見たこともあるよ)

「ゲー」[「ge:】(名)

(動) 魚名、ブダイ科。和名、ぶだいの仲間。クジラフツタイ(糸満方言)

「コーターイシバイ」[「ko:ta:ʔiʃibai】(名)

(動) 魚名、ゴンベイ科。和名、ほしごんべい。体長約20センチ。

サシェ「ガスアー」[saʃe「gara:】(名)

(動) 魚名、スズキ科。和名、あおのめはた。体長約35センチ。ヤワラーミーバイ(糸満方言)

「サバ」[「saba】(名)

(動) 魚名、サバ科。和名、さば。体長約50センチ。久高島では漁獲されない。最近では輸入魚を馬天港辺りで仕入れ、神行事や祝儀用に利用している。

「サンシンケーケー」[「sanʃinke:ke:】(名)

(動) 魚名、カワハギ科。和名、そうしはぎ。体長約70センチ。センスルー(糸満方言)

「サンマ」[「samma】(名)

(動) 魚名、サンマ科。和名、さんま(秋刀魚)。体長約40センチ。久高島では漁獲されない。輸入魚を利用している。

「ジーワー」[「ɕi:wa:】(名)

(動) せみ(蟬)。小型の蟬。ジーワジーワと鳴くことから命名されたという。ジー「ワーヌ」ナチューン」[ɕi:「wa:nu」 naʃun】(蟬が鳴く)ジー「ワーヌ」ナキーヤ」ウシュヌ」ピーン」[ɕi:「wa:nu naki:ja」 ʔuʃunu 「pi:ŋ】(蟬が鳴くと潮がひく)

「シェーイラン」[「ʃe:ʔiran】(名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、ごばんひめじ。体長約35センチ。ジンバー(糸満方言)

「シッブルー」[「ʃippuru:】(名)

びしょ濡れ。ア「ミネー」ンディティ」ムル シッブルー」ナタン」[ʔa「mine:

nditi muru ʃippururu: ʔ natan] (雨に濡れてびしょ濡れになった)。ʔハスタン ムタン「タクトゥ ムル シップルー」 ナタン[ʔharam mutan ʔtakutu muru ʃippuuru: ʔ natan] (傘も持たなかったので全身びしょ濡れになった)
 「シ」ビ[ʔʃiʔbi] (名)

(動) 魚名、サバ科。和名、まぐろ(鮪)。大きいのは、体長約2~3メートル。ʔシビ 「クワーチャン[ʔʃibi ʔkwa:ʃan] (鮪を釣った)。ʔシビヤー 「クワースアラ」ン ムンヌ[ʔʃibja: ʔkwa:ʔaraʔm ʔmunnu] (鮪は釣れない)

「シャ」ギ[ʔʃaʔgi] (名)

しらが(白髪)。ティ「ブノー ム」ル 「シャギ 「ナ」ティ ナー」ン[tiʔbuno: muʔru ʔʃagi ʔnaʔti ʔna:ʔŋ] (頭はすっかり<全部>白髪になってしまった)

「ジャバニ」[ʔʃabani] (名)

(動) 魚名、アイゴ科。和名、ひめあいご。体長約25センチ。アケー(糸満方言)

「シャ」ミ[ʔʃaʔmi] (名)

(動) しらみ(虱)。ʔシャミ 「スウイン[ʔʃami ʔθui] (虱を取る)。ʔシャミヌ 「フガ[ʔʃaminu ʔʔuga] (虱の卵)

ジュリクク「バー」[ʔʃurikukuʔba:] (名)

(動) 魚名、モンガラカワハギ科。体長約30センチ。ウエカタノメーカーハジャー(糸満方言)

シル「アイ」[ʃiruʔʔai] (名)

(動) しらあり(白蟻)。ʔワッタ 「ヤーヌ」 ナカバシラー シル「アイネー」 クワットウー「スイガヤー」[ʔwatta: ʔja:nuʔ nakabafira: ʃiruʔʔaine:ʔ kwa:ʔttu:ʔθigaja:] (私の家の中柱(大黒柱)は白蟻に喰われてしまっているよ)

シル「イチャ」[ʃiruʔʔiʃa] (名)

(動) 魚名、しろいか(白鳥賊)。海岸や浜辺で餌木(疑似餌)を投げては手練りしながら釣る鳥賊。「ミリイチャ[ʔmiriʔiʃa]ともいう。利尿薬としての効能もあり、昔から民間食事療法に採用され、重宝されている。赤鳥賊の3倍の値段で売られていた。

「ジンジン」[ʔʃinʃin] (名)

(動) ほたる(蛍)

「スアー」[ʔra:] (名)

(動) ばった(飛蝗)の総称。昆虫。「スアー」ヌ 「スウルー」ン[ʔra:ʔnu ʔθuru:ʔŋ] (飛蝗が飛んでいる)。シマ「カヤー」 スアーヤ チカ「グロー イキラスア」 ナトウーン[ʃimaʔkaja:ʔ ʔra:ja ʔʃikaʔguro: ʔikirara natu:ʔŋ] (島では、飛蝗は近頃少なくなっている)

スアー「ンナ」[ra:「nna」] (名)

(動) たにし (田螺)。久高島には棲息していない。

スアカン「フニー」[rakam「Phiuni:」] (名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、みなみひめじ。体長約25センチ。イジヤンカタカシ(糸満方言)

「サク」[「raku」] (名)

(動) たこ (蛸) の総称。「サク スウ「タ」ン」[「raku θu「ta」ŋ」] (蛸を獲った)

「スアティー」[「rati:」] (名)

(動) 魚名、タチウオ科。和名、たちうお。体長約1メートル。タチヌイユ (糸満方言)

「スアティマンヌ ワカグラ」[「ratimannu wakagura:」] (名)

神名。「たてがみの若駒」の義か。久高島の「スオールイガナシ」[「θo:ruigana:fi」]神はカベールの森に鎮座ましますと信じられている神馬に跨ってミズノエ (壬) の日に島を巡回されるという口碑がある。

「スアマン」[「raman」] (名)

(動) 魚名、フエフキダイ科。和名、はまふえふき。体長約70センチ。タマン (糸満方言)

「スアル」[「raru:」] (名)

(動) さる (猿)。久高島には猿は棲息していない。スアン「ドウシ」[ran「du:fi」] (申年)

スアン「ネーラー」[ran「ne:ra:」] (名)

(動) 魚名。和名、ろくせんすずめだい。体長約16センチ。アヤビカー (糸満方言)

「スイ」[「θi:」] (名)

す (巣)。獣類、鳥類、虫類のすみか、巣。「スウイヌ」スイ「θuinu」θi:」(鳥の巣)。「フムヌ スイ」[「Φumunu θi:」] (蜘蛛の巣)。^ボホ「ターヌ スイ」[pΦo:「ta:nu θi:」] (鳩の巣)。「フムヌ 「スイ」ヌ 「アヤーマ スウイ「パラタン」[「Φumunu 「θi:」nu 「?aja:ma θui「paratan」] (蜘蛛の巣があったので取り払った)。子供は蜘蛛の巣を竹の先端に巻き取り、それで蟬を捕らえて遊んだ。

スイ「トゥー」ン[θi:「tu:」ŋ] (動)

食物が饅えている。食物が腐っている。「スイター」ナー「ンクトウ」ハー「ケーバ」[「θi:ta: na:「ŋkutu」 ha:「ke:ba」] (饅えてはいないから早く食べなさい)。スイ「トゥーンシャコー」ヒ「ティリバ」[θi:「tu:ŋʃako:」 çj「tiriba」] (饅えているなら捨てなさいよ)

「スイ」トゥー[「θi」tu:] (名)

(動) 魚名、イスズ科。和名、てんじくいさぎ。体長約45センチ。ババシチュー (糸満方言)

「スィムル[^ɾθimuru] (名)

すもり (巢守)。孵化しないで巢に残る卵。^ɾフガヌ 「スィムル ナティ^ɾナーン
[^ɾʔuganu ^ɾθimuru nati^ɾna:ŋ] (卵が孵化しなく<巢守に>なってしまった)
スィラ「シュン[θira^ɾʃuŋ] (動)

卵を孵化する。卵をかえす。スィラ「チャン[θira^ɾʃaŋ] (卵を孵化した)

スィン「スアラーマッターラ[θin^ɾrara:mattara:] (名)

つばめ (燕)。スィン「スアラーマッターラ^ɾガ 「ヌチカイ^ɾ スィー トウク^ɾトウ
ーン[θin^ɾrara:mattara:^ɾga ^ɾnuʃikai^ɾ θi: tuku^ɾtu:ŋ] (燕が軒に巣を作っ
ている)

「スウイ[^ɾθui] (名)

にわとり (鶏)。「スウイ^ɾ ティ「カナトウーン[^ɾθui^ɾ ti^ɾkanatu:ŋ] (鶏を飼育
している)。「スウヤー^ɾ チャッ「ピ^ɾ ティ「カナトウーガ[^ɾθuja:^ɾ ʃap^ɾpi^ɾ t
i^ɾkanatu:ga] (鶏は何羽<いくら>飼育しているか)。「スウイヌ ナキン[^ɾθuin
u nakiŋ] (鶏が鳴く)。イチバン「ルイス^ɾ ナチャン[ʔiʃiban^ɾruinu^ɾ naʃaŋ]
(一番鶏が鳴いた)。ニバン「ルヤー ナマ ナカン[niban^ɾruja: nama nakaŋ]
(二番鶏はまだ鳴かない)。ミー「ドウイ[mi:^ɾdui] (めんどり)。「グードウイ[^ɾgu:
dui] (おんどり)

「スウイバハットウ[^ɾsuiʔattu] (名)

鶏法度。「収穫時に鶏を野放しにするな」の意味。麦、豆、粟など穀物の収穫時には
鶏を放し飼いにしてはならないという村内の取り決めがあった。青年団がそれを取
り締まった。収穫時に放し飼いにしてある鶏は青年団が自由に処分できた。「ナマ
ー スウイバハットウ ヤクトウ^ɾ フカ「チャー^ɾ ンギヤ「スェン^ɾカンバ[^ɾnam
a: θuiʔattu jakutu^ɾ ʔuka^ɾʃa:^ɾ ʔŋgia^ɾraŋ^ɾkamba] (今は鶏法度だから鶏
を外へだすなよ)

「スウイン[^ɾθuin] (動)

取る。捕える。スウ「タン[θu^ɾtaŋ] (捕えた)。「スウティ^ɾ スウラ「スイバ[^ɾθut
i^ɾ θura^ɾθiba] (取ってくれ<取ってとらせよ>)。スウラン「キバ[θuraŋ^ɾkiba]
(取るなよ)

「スウーシマーイラブ^ɾチ[^ɾθu: θima:ʔirabu^ɾʃi] (名)

(動) 魚名、ブダイ科。和名、ぶだいの仲間。体長約60センチ。ボーラー (糸満方
言)

スウカ「キン[θuka^ɾkiŋ] (名)

(動) 魚名、サバ科。和名、いそまぐろ。体長約90センチ。トカキン (糸満方言)
スウ「カジヤー」[θu「kaʧa:」] (名)

(動) 魚名、ニザダイ科。和名、かんらんはぎ。体長約30センチ。トカジヤー (糸満方言)

「スウビ」ン[「θubi」η] (動)

飛ぶ。スウ「バン」[θu「baη」] (飛ばない)。「ナマ スウラ」ン[「nama θura」η] (今飛んだ)。「スウビブシヤ」ン[「θubibuʃa」η] (飛びたい)。「スウイヌ スウビ」ン[「θuinu θubi」η] (鳥が飛ぶ)

「スウブー」[「θubu:」] (名)

(動) 魚名、トビウオ科。和名、とびうお (飛魚)。体長約30センチ。久高島ではスウブー (飛魚) は漁獲されない。「スウブー スウイン」[「θubu: θuiη」] (トビウオを漁獲する<獲る>)

「スウマトウー」ン[「θumatu:」η] (動)

止まっている。「スウイヌ」 ヒー「カイ スウマトウー」ン[「θuinu ɕi:「kai θumatu:」η] (鳥が木に止まっている)。「スウマラン」[「θumaran」] (止まらない)。「ナマ スウマタ」ン[「nama θumata」η] (今止まった)

「スウラ」[「θura」] (名)

とら (虎)。「スウラヌ ギー」[「θuranu gi:」] (虎の絵)。フタ「ビヤー スウラドゥシ ヤイビール」[ʔuta「bja: suraduʃi jaibi:ru」] (今年は寅年です)

「スオージ」[「θo:ʧi」] (名)

(動) 魚名、アジ科。和名、よろいあじの仲間。体長約80センチ。ソージ (糸満方言)

スオーミ「ナー」[θo:mi「na:」] (名)

めじろ (目白)。籠の中に餌を入れておき、めじろを籠の中に誘い込んで入り口を閉めて捕獲した。スオーミ「ナーヤ ハグ」 トウクティ 「フ」ター アキティ「ムンダ「ナー イッティ ウリ ケーガ」 ナ「カチ イーヤー」 「フ」ター チャーキクラーリクトウ」 スオーミ「ナーヤ」 スウラ「リーン」[θo:mi「na:ja hagu」tukuti ʔΦu「ta: ʔakiti」 munda「na: ʔitti ʔuri ke:ga」 na「kaʧi ʔi:ja:」 ʔΦu「ta: ʃa:ki ku:rarikutu」 θo:mi「na:ja」 θura「ri:η」] (めじろは籠を作って蓋を開けて餌をいれ、それを食べるに中へ入ってきたら蓋はすぐ閉まるので、めじろは捕えられる)

「スオールイガナシ」[「*θo:ruiganaʃi*」] (名)

神職名。竜宮の神に奉仕する役目の神職のこと。60歳前後の男性が選任される。任期は2年で、2人制。隔年に1人ずつ選任されて神職に就く。朝、昼は神前に茶湯を供え、夜は酒を供えて任期中竜宮の神様を接待する。「アラミンニー」[「*?araminni:*」] (各月の中の最初の壬<ミズノエ>)の日に「ミガー」[「*miga:*」] (禊の井戸)から水を汲んで来て禊をする。現在は「スオールイガナシ」は後継者がなく、途切れている。

タイクチャー「マティー」[*taikuʃa:「mati:*」] (名)

(動) 魚名、フエダイ科。和名、おおぐちいしちびき。体長約1メートル。タイクチャーマチ (糸満方言)

「ダニク」[「*daniku*」] (名)

(動) 魚名、ブダイ科。和名、ひぶだいの幼魚。成長したら「アーガイ」[「*?a:gai*」]になる。

チール「バー」[*ʃi:ru「ba:*」] (名)

きば (牙)。チール「バー スウガラシュン」[*ʃi:ru「ba: θugaraʃu」*η] (牙をむくく尖らせる)

チッチョ「グワー」[*ʃitʃo「gwa*」] (名)

(動) うぐいす (鶯)。チッチョ「グワーガ ナキ」[*ʃitʃo「gwa:ga naki*」]η (鶯が鳴く)。ナ「チュータン」[*na「ʃu:ta*」]η (鳴いていた)。チッチョ「グワーヤ」イテイ「グワティマングララー」ナキバハジミン「[*ʃitʃo「gwa:ja ?iti「gwatimangurara:」 nakiΦaʃimi:*」]η (鶯は一月頃から鳴き始める)

チュ「クー」[*ʃu「ku:*」] (数)

一個。-ク[-*ku*]は助数詞で卵などを数える際、数詞に下接して物を表す。「タクー」[「*taku:*」] (二個)。「ミクー」[「*miku:*」] (三個)。「ユクー」[「*juku:*」] (四個)。「イテイクー」[「*?iti「ku:*」] (五個)。「ムクー」[「*muku:*」] (六個)。「ナナクー」[*nana「ku:*」] (七個)。「ヤクー」[「*jaku:*」] (八個)。「フクンクー」[Φ*u「kuηku:*」] (九個)。「スウクー」[「*θu「ku:*」] (十個)。「ジュイーッククー」[「*ʃu:ʔik「ku:*」] (十一個)

「チュッピー」[「*ʃuppi:*」] (数)

一尾。「ッピー」[「*ppi:*」] (尾)は魚を数える助数詞。「タッピー」[「*tappi:*」] (二尾)。「ミッピー」[「*mipi:*」] (三尾)。「ユッピー」[「*jupi:*」] (四尾)。「イテイッピー」[「*?iti「pi:*」] (五尾)。「ムッピー」[「*mupi:*」] (六尾)。「ナナッピー」[「*nanapi:*」] (七尾)。「ヤッピー」[「*japi:*」] (八尾)。「フクンッピー」[Φ*u「kumpi:*」] (九尾)。「スウッピー」[「*θupi:*」] (十尾)

「チル」[「*ʃiru*」] (名)

(動) つる (鶴)。女性の名前に「チル」[「*ʃiru*」] (鶴)と命名されることがある。ハ「ミ

ヤー¹ マン¹「ネン チロー¹ シェン¹「ネンツチューヌ¹ フトウ¹「バー¹ チ¹「チャ
ン フト¹ ア¹「スア¹「[ha¹「mja:¹ man¹「nen ʃi:ro:¹ ʃen¹「nentʃu:nu¹ ʃu
tu¹「ba:¹ ʃi¹「ʃaŋ ʃuto:¹ ʔa¹「ra:¹] (亀は万年鶴は千年という言葉聞いたこと
があるよ)

チンチ¹「ナー¹「[ʃinʃi¹「na:¹] (名)

(動) ひばり (雲雀)。チンチ¹「ナー¹ ティカリ¹ ア¹「スイラ¹ンバーン¹ アスア¹「[ʃ
inʃi¹「na:¹ tikari ʔa¹「θira¹ mba:ŋ¹ ʔa¹ra:¹] (雲雀を捕らえて遊んだこともあ
るよ)

-ティ¹「[-ti] (接尾)

数詞に下接して数を表す語。「ティ¹「ティ¹「[ti:¹ ti] (一つ)。「ター¹「ティ¹「[ta:¹ ti] (二つ)。「ミー¹「ティ¹「[mi:¹ ti] (三つ)。「ユー¹「ティ¹「[ju:¹ ti] (四つ)。「イティ¹「ティ¹「[ʔititi] (五つ)。「ムー¹「ティ¹「[mu:¹ ti] (六つ)。「ナナ¹「ティ¹「[nana¹ ti] (七つ)。「ヤー¹「ティ¹「[ja:¹ ti] (八つ)。「フクン¹「ティ¹「[ʃu¹「kun¹ ti] (九つ)。「スウ¹「¹「[θu¹ ʔ:¹] (十)

ティカ¹「ネ¹「ン¹「[tika¹「ne:¹ ŋ] (動)

飼育する。飼う。養う。ティカ¹「ナトウ¹「ン¹「[tika¹「natu:¹ ŋ] (飼っている)。ティ
カ¹「ナタン¹「[tika¹「nataŋ] (飼った)。ティカ¹「ネーブシャ¹ン¹「[tika¹「ne:buʃa¹ ŋ] (飼
いたい)。ティカ¹「ネーングワ¹「[tika¹「ne:ŋgwa] (実子以外の養育した子)。「ウ¹シ
ティカ¹「ナトウ¹「ン¹「[ʔu¹ ʃi tika¹「natu:¹ ŋ] (牛を飼育している)。「ックワ¹ テ
ィカ¹「ネ¹「ン¹「[kkwa tikane:¹ ŋ] (子供を育てる)。「ワラビ¹ ティカ¹「ネ¹「ン¹「[
warabi tika¹「ne:¹ ŋ] (子供を育てる)。「ウヌ¹ ックワ¹「 ワーガ¹ ティカ¹「ナ
タン¹「[ʔunu kkwa:¹ wa:ga tika¹「nataŋ] (この子は私が育てたく養った>)

「ティビスウガヤー¹「[tibi θ ugaja:¹] (名)

(動) 貝の名。広瀬貝。高瀬貝。

ティ¹「マ¹「グ¹「[ti¹「ma¹ gu] (名)

ひづめ (蹄)。「ティマ¹グシャ¹マ¹ キ¹「ン¹「[timaguʃa:ma ki:¹ ŋ] (蹄で蹴る)

「ティミ¹「[timi] (名)

つめ (爪)。「ティミ¹ キ¹「ン¹「[timi ki:¹ ŋ] (爪を切る)。「ティミ¹「ヌ¹ ナガ¹「ス
アン¹「[timi¹ nu naga¹ raŋ] (爪が長い)

ティラ¹プ¹カ¹イ¹シ¹バイ¹「[tirapukkaʔiʃibai] (名)

(動) 魚名、ゴンベイ科。和名、いそごんべい。体長約20センチ。チンサー (糸満
方言)。「膨れ面イシバイ」の義か。

ティル¹「ビヤ¹「ラ¹「ク¹「[tiru¹「bja:ra¹ ku] (名)

(動) 夫婦蛸。つがいの蛸。交尾している蛸。「つるび<交尾> (『日本靈異記中』)

- 蛸」の義か。「フマカイ」 テイル「ビャーラ」クヌ 「グスイガ」[「Φumakai」 tiru「
bja:ra」kunu 「gu θiga」] (ここに夫婦蛸くつがいの蛸>がいるよ)
- テイル「ビン」[tiru「biŋ」] (動)
つるむ。交尾する。テイル「ルー」ン[tiru「ru:」ŋ] (つるんでいる。交尾している)。
「インヌ」 テイル「ルー」ン[「?innu」 tiru「ru:」ŋ] (犬が交尾している)
- テイル「マン」[tiru「maŋ」] (名)
(動) 魚名、ニザダイ科。和名、てんぐはぎ。体長約70センチ。ツヌマン (糸満方言)
- ナガジュー「マティー」[nagaʤu:「mati:」] (名)
(動) 魚名、フエダイ科。和名、はまだい。体長約1メートル。アカマチ (糸満方言)
- 「ナキ」ン[「naki」ŋ] (動)
鳴く。「スウイヌ ナキ」ン[「θuinu naki」ŋ] (鳥が鳴く)。「ミャーヌ 「ナキ」ン
[「mjɑ:nu 「naki」ŋ] (猫が鳴く)。ジー「ワーヌ ナキ」ン[ʤi:「wa:nu naki」ŋ]
(蟬が鳴く)
- 「ナシュ」ン[「naʃu」ŋ] (動)
産む。「ックワ ナシュ」ン[「kkwa naʃu」ŋ] (子供を産む)。ナ「スアン」[na「raŋ」]
(産まない)。「ナチャン」[「naʃaŋ」] (産んだ)。ナスィ「ディ」キ[na θi「di」ki] (産み
月。臨月)。ナスィ「ブシャン」[na θi「buʃaŋ」] (産みたい)。ナスィ「ミー」ン[na θi「
mi:」ŋ] (産ませる)
- ニシ「バン」[niʃi「baŋ」] (名)
地名。久高島の西海岸に外間ノロがエラブ漁をするために与えられた場所の地名。
フカマ「ヌルネー」 スアボー「チューン」 ンナギ 「スウイン」 スウク「マー」
ニシ「バン」 ヤル[Φukama「nurune:」 rabo:「ʃu:n」 nnagi 「θuin」 θuku「
ma:」 niʃi「baŋ」 jaru」] (外間ノロに賜ったウナギくえらぶ>の漁場はニシバン
だ)
- 「ヌミ」[「numi」] (名)
(動) のみ (蚤)。戦後米軍のDDT散布により駆除され、現在はいない。ヌミ「ネー」
スア「スアッタン」[numi「ne:」 ra「raʤattan」] (蚤にさされた)。「ユビャーヌ 「ミ」ヌ
「マンディ」 「ニンダランタン」[「jubja: nu「mi」nu 「mandi」 nindarantan」]
(昨夜は蚤が多くて眠れなかった)。チカ「グロー」 ヌー「ガラ」 ヌミン グ「ラン
ナタン」[ʃika「guro:」 nu:「gara」 numiŋ gu「rannatan」] (近頃はなぜか蚤もい
なくなった)
- 「ハー」[「ha:」] (名)
かわ (皮)。「イキムシヌ 「ハー」[「?ikimuʃinu 「ha:」] (動物の皮)。「ハー 「ハギ

ン[¹ha: ²ɸagiŋ] (皮を剥ぐ)。「ウシヌ ハー[¹ʔuʃinu ha:] (牛の皮)。

「スアバナ ハー[¹ɾabanu ha:] (鮫の皮<鱧の皮>)

ハー「エー[ha: ¹je:] (名)

(動) 魚名、アイゴ科。和名、ごまあいご。体長約40センチ。カーエー (糸満方言)

ハー「ブヤー[ha: ¹buja:] (名)

(動) こうもり (蝙蝠)。

「ハーミ[¹ha:mi] (名)

(動) かめ (亀)。海亀。スアティ「バマ マングラー」ハー「ミヤー」フガ「ナシ
ー」ガ ユー「アガイタン[¹ɾati ¹bama maŋgura: ¹ha: ¹mja: ¹ɸuga ¹naʃi
:¹ga ju: ¹ʔagaitaŋ] (スアティ浜<島の東側にある浜>あたりは、亀は産卵に
よく上がってきていた)。ハー「ミノ」フガ「ナ」チ「グン[ha: ¹minu ¹ɸuga
¹na ¹ʃi ¹guŋ] (亀が卵を産んでいる<現在産んでいる>)。「フガ「ナ」チューン
[¹ɸuga ¹na ¹ʃu:ŋ] (卵を産んだ<既に産んでいる>)

ハカ「リー」ン[haka ¹ri: ¹ŋ] (動)

かかれる (搔かれる)。ハカッ「タン[hakat ¹taŋ] (搔かれた)。ハ「カリ」ティ「ナ
ー」ン[ha ¹kari ¹ti na: ¹ŋ] (搔かれてしまった)。

「ハキン[¹hakiŋ] (動)

搔く。「フシヌ」ゴー「スアヌ」ハキ「バ[¹ɸuʃinu go: ¹ɾanu haki ¹ba] (背
中が痒くて、搔けよ)。「フシヌ」ゴー「スアヌ」ハキン[¹ɸuʃinu go: ¹ɾanu
hakiŋ] (背中が痒いので搔く<搔いている>)

ハジ「ゲー[haʃi ¹ge:] (名)

豚舎から排出される肥料。豚舎で茅や草の葉を豚に踏ませたものを肥料に利用した。
ワー「ブンラ」ンギーヌ「ヘーヤ」ハジ「ゲー」ツ「チール[wa: ¹punra ¹ʔŋgi:
nu ¹he:ja ¹haʃi ¹ge:t ¹ʃi:ru] (豚舎から出る肥料はハジゲーという)

「ハスター[¹hara:] (名)

(動) 魚名、スズキ科。和名、しろぶちはた。体長約50センチ。ハヤーミーバイ (糸
満方言)

ハ「タ」チ[ha ¹ta ¹ʃi] (名)

(動) うに (海栗)。食用にならないものは「ウイ[¹ʔui] (食用にならないウニ) と
いう。うに (海栗) の卵巣を塩漬けにしたものは美味である。戦前は久高島の海に
ハ「タ」チがたくさん棲息していたが、最近は減少している。

「ハトゥー[¹hatu:] (名)

(動) 魚名、サバ科。和名、かつお。体長約90センチ(大判)になる。体長40~50セ
ンチのものは小判といわれていた。久高島の漁師は八重山や南洋諸島のパラウでカ

ツオ漁業を営み、鯉節を製造した。戦前の八重山では四人の久高島出身者が四箇所の鯉節工場を経営していた。

ハ「トゥー」ブシ[ha「tu:」buʃi] (名)

かつおぶし(鯉節)。単に「ブシ」[「puʃi] (節)ともいう。ミー「ブシ」[mi:「buʃi] (雌節)、「グー」ブシ[「gu:」buʃi] (雄節)、「カメブ」シ[「kamebu」ʃi] (亀節)がある。「カメブ」シは小判以下のカツオを三枚下ろしにして製造した鯉節で、品質の上からいうと、雄節、雌節より落ちる。雄節や雌節は四つ割りにして製造したものである。

ハ「トゥールイ」[ha「tu:rui] (名)

(動) ウミネコ(海猫)。「鯉鳥」の義。「スウイマキ」[「θuimaki] (鳥巻き。ウミネコの群れ)を見てカツオの魚群を追い続け、餌付けをして釣った。

「バハ」チ[「pʰa」tʃi] (名)

はち(蜂)。赤蜂のみにいう。「スアムン」 「スウイ」ガ イキヤーマ 「バハチネー」 スアスアッティ「 チャン」[「ramun 「θui」ga ʔikja:ma 「pʰaʃine: ɾaratti」 ʃaŋ] (薪を取りに行つて蜂に刺されてきた<刺されてきている>)

「バハニ」[「pʰani] (名)

はね(羽)。翼。「スウイン」 「バハニ」[「θuim pʰani] (鳥の羽)。「バハニ」 ヌギン[「pʰani」 nuɡiŋ] (羽を抜く)。占い。ト占にも用いる。「バハニ」 アティン[「pʰani ʔatiŋ] (元祖を受け継ぐ日取りをとる<ト占で決める>)

「バハラ」イ[「pʰarai] (名)

カツオが一匹も釣れないこと。縁起が悪いこと。間がわるい。「シューヤ」 「ヌー」ン クワー「スアムン」 「バハラ」イヤル[「ʃu:ja 「nu:」ŋ kwa:「ɾantam pʰara」 ijaru] (今日は何も釣れなかった。縁起がわるい。パライだ)

ハビ「ラー」[habi「ra:」] (名)

(動)、ちょう(蝶)の総称。ハビ「ラーガ」 スウルー「ン」[habi「ra:ga θuru:」ŋ] (蝶が飛んでいる)

「バン」[「baŋ] (名)

「当番」の義か。昔久高島では、知念の番所からノロシ(烽火)の合図が出ると船を漕いで行く制度が出来ていた。その当番をバン「フギ」[baŋ「ʰugi]という。

「ハン」ジュ[「han」tʃu] (名)

とさか(鶏冠)。「ハンジュ」ヌ 「ミーティ」チヤン[「hanʃu」nu 「mi:ti」ʃaŋ] (鶏冠が生えてきた)。「アン」 スウイヌ 「ハンジョ」ー マギ「スアヌ」[「ʔan θuinu hanʃo」: magi「ɾanu] (あの鶏の鶏冠は大きい)。マギ「ハンジュ」 ヤンミヤ「[magi「hanʃu jammja:」] (大きな鶏冠だなあ)

「ヒー」[「çi:」] (名)

毛。体毛。「スウイヌ ヒー[[∘]θuinu çi:] (鳥の毛。羽毛)。「ヒーミー」 ジュールク[[∘]çi:mi:∘ ɕu:ruku] (陰毛の生えるのは十六歳)

ピー「チャー[bi:[∘]ʃa:] (名)

(動) はつかねずみ (二十日鼠)。

ピーピ「ジャー[pi:pi[∘]ʃa:] (名)

(動) 山羊。久高島では山羊を沢山飼育し、それを売って婦人達は反物を購入した。山羊は女性の「ワタグ」シ[[∘]watagu[∘]ʃi] (へそくり) のために飼育された。ピーピ「ジャー」 ティ「カナトウ」ン[pi:pi[∘]ʃa:∘ ti[∘]kanatu:∘ŋ] (山羊を飼っている)。ピーピ「ジャーヤ ウジニームン ナイン[pi:pi[∘]ʃa:ja[∘] ʔuɕini:mun[∘] nain] (山羊は滋養食になる)。昔は、産前産後にウジニームンとして山羊肉汁を産婦に与えていた。

「ヒー」ムシ[[∘]çi:∘ muʃi] (名)

(動) けむし (毛虫)。「ヒームシヌ」 グン[[∘]çi:muʃinu[∘] guŋ] (毛虫がいる)。

「ヒー」ン[[∘]çi:ŋ] (動)

死ぬ。キヤー「チ」ン ヒ「ヤンキバ[kja:[∘][ʃi[∘]n çi[∘]jaŋkiba] (決して死ぬなよ)。「ヒヤン[[∘]çijaŋ] (死なない)。「ヒジャ」ン[[∘]çiʃa[∘]ŋ] (死んだ)。「ヒーブ」シャン[[∘]çi:buʃaŋ] (死にたい)。「ヒーブ」シャン「シャコー」 ハー 「ヒーバ」[[∘]çi:buʃaŋʃa ko:∘ ha:∘ ʃi:ba] (死にたければ早く死ねよ)。「ヒースター」 ワッ「スア」ン[[∘]çi:r a: war[∘]ra[∘]ŋ] (死ぬのは悪い)。「ヒヤ」シュン[[∘]çijaʃuŋ] (殺す<死なす>)。「ヒヤ」チャン[[∘]çijaʃaŋ] (殺した<死なせた>)。久高島では、人が死ぬと門に竈の灰と棒(物干し竿)を横に倒して置き、悪霊が進入するのを防ぐ風習があった。

「ピ」ジ[[∘]pi[∘]ʃi] (名)

ひげ(髭)。「ピ」ジヌ」 ミー「ン[[∘]piʃinu[∘] mi:∘ŋ] (髭が生える)。「ピ」ジヌ」 ミー「ティ」チャ」ン[[∘]piʃinu[∘] mi:tiʃa[∘]ŋ] (髭が生えてきた)。「シル」ピ」ジ[ʃiru[∘] pi[∘]ʃi] (白髭)

ピ「シャ」[pi[∘]ʃa] (名)

足。ピ「シャ」ヌ」 ナガ「スア」ン[pi[∘]ʃa[∘]nu naga[∘]raŋ] (足が長い)。ピ「シャ」ナガ」ー[pi[∘]ʃanaɡa:] (足の長い人)。ピ「シャ」ヌ」 イン」キヤ「スア」ン[pi[∘]ʃa[∘]nu ʔiŋkja[∘]raŋ] (足が短い)。「イン」キヤ」ー」 ピ「シャ」[ʔiŋkja[∘]: pi[∘]ʃa] (短い足)。「ピ」シヤ」ー」 ナガ「スア」タン[[∘]piʃa:∘ naga[∘]raŋ] (足は長かった)。「メー」ビ」シャ」ー[[∘]me:biʃa:] (前足)。アトウ」ビ」シャ」[ʔatu[∘]biʃa] (後ろ足)。「メー」ビ」シャ」 スア」ッチ[[∘]me:biʃa[∘]ratʃi] (前足を立てて。<積極的に行動する、先頭に立って行動する>の意)

ビタ「ラー」[bita[∘]ra:] (名)

(動) 魚名、フエダイ科。和名、ろくせんふえだい。体長約25センチ。ピタロー (糸満方言)

「ピタロー[「bitaro:」] (名)

(動) 魚名、フエダイ科。和名、にせくろほしふえだい。体長約25センチ。ヤマトビー (糸満方言)

「ビヒーラー[「pʰi:ra:」] (名)

(動) ごきぶり。ㇿアンチ 「ビヒーラーヌ」 マン「ドゥー」ン 「ムノー[「ʔanfʰi 「pʰi:ra:nu」 man「du:」m 「muno:」] (あんなにもゴキブリが多いことよ)

「ビヒギン[「pʰigi」ŋ] (動)

へぐ (剥)。削る。鯉節を削る。「ハトゥーブシ ビヒギン[「hatu:buʃi pʰigi」ŋ] (鯉節を削る)。「ビヒガン[「pʰiga」ŋ] (削らない)。「ビヒジャ」ン[「pʰiɕa」ŋ] (削った)。「ビヒジ スウラ」スィバ[「pʰiɕi θura「θiba」] (削ってくれ<取らせ>)

「ビヒジガスアー[「pʰiɕigara:」] (名)

鯉節の削り殻。鯉節を製品化する際に表面を削って出来る削り殻。「剥ぎ殻」の義か。

ピヤー「バハチー[pija:「pʰaʃi:」] (名)

(動) 魚名、ブダイ科。和名、いろぶだい。体長約80センチ。アーガチャー (糸満方言)

「ピュールカー[「pju:ruka:」] (名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、もんつきあかひめじ。体長約30センチ。フルヤー (糸満方言)

「ピヨピヨグワー[「pijopijogwa:」] (名)

(動) ひよこ。雛鳥。ピヨピヨ「グワーガ スェーラカ」 ン「マッタン[pijopijo「gwa: ga θe:raka」 m「mattan」] (ひよこ<雛鳥>がたくさん生まれた)

「フー[「ʰu:」] (名)

こうら (甲羅)。ハー「ミンヌ フー[ha:「minu ʰu:」] (亀の甲羅)

「フガ[「huga」] (名)

たまご (卵)。「スウイヌ フガ[「θuinu ʰuga」] (鶏の卵)。^ホホー「ターヌ フガ[pʰo:「ta:nu ʰuga」] (鳩の卵)。「アピ」ラーヌ フガ[ʔapi「ra:nu ʰuga」] (家鴨の卵)。「ハ」ブヌ フガ[ha「bunu ʰuga」] (蛇の卵)。「ンナ」ギヌ フガ[nna「ginu ʰuga」] (エラブウナギの卵)。「フガ」ナシュン[「ʰuga 「naʃu」ŋ] (卵を産む)

フ「クンナ[ʰu「kunna」] (名)

(動) さざえ。フ「クンナ フフリーン[ʰu「kunna pʰuri:」ŋ] (さざえ貝を拾う)

フフ「シイチャ[pʰu「ʃiʔiʃa」] (名)

干し烏賊。するめ。烏賊を開いて内臓を除去し天日に乾燥したもの。

「フミキ」[^ɸumi^ːki] (名)

熱気。ほてり。「ほめく<熱く、火めく>」の義か。「フミキヌ」 チュー「スアン」[^ɸumikinu^ː ʃu:^ːraŋ] (熱気が強い。夏の真っ盛りの暑さが厳しい)

「フルワーシュン」[^ɸuruwa:^ːʃuŋ] (動)

育てる。成長させる。「フルワーチャン」[^ɸuruwa:^ːʃaŋ] (育てた。成長させた)。
「フルワースアン」[^ɸuruwa:^ːraŋ] (育てない。成長させない)。「フルワーチュー
ン」[^ɸuruwa:^ːʃu:^ːŋ] (育てている)。「ウン クウー ワー「ガル フフルワーチ
ュール」[^ʔuŋ kwa^ː: wa:^ːgaru^ː ɸuruwa:^ːʃu:^ːru] (この子は私が育ててい
る)

フブン「シミー」[ɸubuŋ^ːʃimi:] (名)

(動) 魚名、コウイカ科。和名、こぶしめ。体長約50センチ。ク「ル」スメー (鳩間
方言)。フブン「シミー クワーシュン」[ɸubuŋ^ːʃimi:^ː kwa:^ːʃuŋ] (コブシメを釣る)

「フルイ」[^ɸurui] (名)

稲光。「フルイヌ」 ピチャ「タン」[^ɸuruinu^ː piʃa^ːtaŋ] (稲光が光った)。「フル
イヌ」 ピチャ「イヤー」 アミノ「プイン」[^ɸuruinu^ː piʃa^ːija:^ː ʔaminu^ː
ˈpuiŋ] (稲光が光ると雨が降る)

「フルシュン」[^ɸuruʃu^ːŋ] (動)

ころす (殺す)。動物を殺す。「ヒヤシュン」[çiʃaʃu^ːŋ] は (人を殺す) 意。「フル
チャン」[^ɸuruʃa^ːŋ] (殺した)。「フルスアン」キバ[^ɸuruʃaŋ^ːkiba] (殺すな)。
「フルシブシャン」[^ɸuruʃibuʃa^ːŋ] (殺したい)。「ワー 「フルシュン」[wa:^ː
ɸuruʃuŋ] (豚を屠殺する<豚を殺す>)。ム「チー」[mu^ːʃi:] (旧暦12月8日子供
たちに月桃の葉で包んだ餅を作って与える行事)の前後に門中を中心に、大体五家
族一組で正月用の豚 (ショーグワチ「ワー」[ʃogwafɪ^ːwa:]) を屠った。子供たちは
豚の膀胱を膨らませて鞠の代用にして遊んだ

「べー」[^ɸe:] (名)

はえ (蠅)。「べーヌ」 スウルーン[^ɸe:nu^ː θuru:^ːŋ] (蠅が飛んでいる)。「べ
ーヌ」 マンディ「ムヌン」ウカラン[^ɸe:nu^ː mandi^ː munuŋ^ː ʔukara
ŋ] (蠅が多くて食べ物も<物も>置いておけない)

べー「ムシャー」[^ɸe:^ːmuʃa:] (名)

(動) ごきぶり。べー「ムシャーヌ」 マンディ ヒ「タナスアン」[^ɸe:^ːmuʃa:nu^ː
mandi^ː çi^ːtanaraŋ] (ゴキブリが沢山いて汚い)。「べー「ムシャー」 スウイン」[^ɸe:^ː
muʃa:^ː θuiŋ] (ゴキブリを捕る)。「ビナスアン」 トウ「クマカイル」 べー「ムシ
ャーヤ」 マン「ドローロ」[^ɸinaʃaŋ^ː tu^ːkumakairu^ː ɸe:^ːmuʃa:ja^ː man^ː
du:ro] (不潔なところにゴキブリはたくさんいるのだ)

「ホージャーイラン[^ho:ʧa:ʔiraŋ] (名)

(動) 魚名、ヒメジ科。和名、まるくちひめじ。体長約35センチ。ジンバー (糸満方言)

ボーフ「ジャー[bo:Φu「ʧa:] (名)

(動) ぼうふら。ミリ「ガーミカイ」 ボーフ「ジャーヌ」 ワ「チューン[^miri「ga:mi kai」 bo:Φu「ʧa:nu」 wa「ʃu:ŋ] (水瓶にぼうふらが湧いている)

^ホホー「ター[^pΦo:「ta:] (名)

(動) はと (鳩)。山鳩。^ホホー「ターガ」 フガ 「ナチャ」ン[^pΦo:「ta:ga」 Φuga 「naʃa」ŋ] (鳩が卵を産んだ)。ミカ「シャー」 ^ホホーター ウ「チャー」ガ シュータ「スアー[^mika「ʃa:」 ^pΦo:ta: ʔu「ʃa:」ga ʃu:ta「ra:] (昔は鳩撃ちが来ていたよ)

「マーマティー[「ma:mati:] (名)

(動) 魚名、フエダイ科。和名、おおひめ。体長約80センチ。マーマチ (糸満方言)

「マカ」ブ[「maka」bu] (名)

(動)、ベラ科。和名、くさびべら。体長約30センチ。イノーマクブ (糸満方言)

「マタブイン[「matabuin] (動)

じゃれる (戯れる)。「まつわる (纏)」の義。イン「グワーガ」 マタブイン[ʔiŋ「gwa:ga matabuin] (子犬がじゃれる)。イン「グワーガ」 マタブティ キャー」ン ナ「ラン[ʔiŋ「gwa:ga matabuti kja:」n na「raŋ] (子犬がじゃれてしょうがない)

「マテー[「mate:] (名)

(動) 魚名、アイゴ科。和名、じゃばあいご。体長約35センチ。オンレー (糸満方言)

マラ「ラー[mara「ra:] (名)

(動) 和名、アオマダラウミヘビ。エラブ漁では、「ブヤー[「buja:] (雄のエラブ)、フ「ガー[Φu「ga:] (雌のエラブ) の二種のエラブが漁獲される。漁期は旧暦6月24日から12月31日まで。ンナギ 「スウイヌ」 ジ「キヤー」 ドウク「グワティ」 ニ「ジュ」ー 「ユッカラー」 スウスイン「ユルマリー」 ヤル[「nnagi 「θuinu」 ʧi「kja:」 duku「gwati」 ni「ʧu:」: 「jukkara:」 θu θiŋ「juru:mari:」 jaru] (エラブの漁期は旧暦6月24日から大晦日<年の夜>までである)

「ミーバイ[「mi:bai] (名)

(動) 魚名、スズキ科。和名、まだらはた。体長約60センチ。ユダヤーミーバイ (糸満方言)

ミー「ブ」シ[mi:「bu」ʃi] (名)

めぶし (女節)。鰹節の一つで腹部を含む鰹節。

「ミームン[「mi:muŋ] (名)

めす(雌)。「女もの」の義。「ミーワー[「mi:wa:] (雌豚)。久高島では子豚(雌)を購入してきて肥育し、正月用に屠殺したり、換金用の肉豚として輸出版売したりした。

ミー「ラ」ク[「mi:「ra」ku] (名)

(動) 雌蛸。「女蛸」の義。

「ミヤー[「mja:] (名)

(動) ねこ(猫)。ミカ「シラ」 ミヤーヤ 「グヤビースア[mika「ʃira」 mja:ja 「gujabi:ra] (昔から猫はいますよ)。「ミヤーヌ 「ナキン[「mja:nu 「nakiŋ] (猫が鳴く)。「ミヤーヌ 「ナキスイガ」 スー「ガヤー[「mja:nu 「nakiθiga」 nu:「gaja:] (猫が鳴いているが何かあるのかなあ<何かなあ>)

「ミヤーリク」ク[「mja:riku」ku] (名)

(動) ふくろう(梟)。主に夜間に活動する。クラカ「ジマカヤー ミヤーリクン」グサー[「kuraka「ʒimakaja: mja:rikukun」 gura:] (久高島には梟もいるよ)

「ミリイチャ[「miriiʃa] (名)

(動) 魚名、いか(烏賊)の一種。みずいか(水烏賊)の義。シル「イチャ[「ʃiru「ʔiʃa] (白烏賊)ともいう。

「ミンバ」ニ[「mimba」ni] (名)

(動) 魚名、ブダイ科。おおもんはげぶだい。体長約35センチ。

ミン「バ」ハー[「mim「pʰa:] (名)

(動) 魚名、テンジクダイ科。和名、みなみふとすじいしもち。体長約8センチ。イシウフミー(糸満方言)

ミンブター「アカイユ[「mimbuta:「ʔakaiju] (名)

(動) 魚名、イトウダイ科。和名、あかまつかさの仲間。体長約20センチ。ミンタマー(糸満方言)

「ムカリ[「mukari] (名)

(動) むかで(百足)。ムカ「リネー」 スア「スアッタン[muka「rine:」 ʀa「rattan] (百足にさされた)

「ムシ[「muʃi] (名)

(動) むし(虫)。「ヒーム」シ[「çi:mu」ʃi] (毛虫)。「ヒームシヌ」 アン「スア」キアティ「マ」ティ 「グン[「çi:muʃinu」 ʔan「ra」ki ʔati「ma」ti 「guŋ] (毛虫が沢山集まっている)。「ムシネー」 スアスアリ「ヤー」マ 「ティラー」 「プッキトゥー」ン[「muʃine:」 ʀaʀari「ja:」ma 「tira: 「pukkitsu:」ŋ] (虫に刺されて顔が膨れ<腫れ>ている)

「ムジョー」リ [「muɕo:ʔri」] (名)

(動) 魚名、フエダイ科。和名、ささむろ。体長約27センチ。ヒラーグルクン (糸満方言)

「ムシワー」 [「muʃiwa:」] (名)

(動) 寄生虫のいる豚。昔は人糞も与えて養豚したため、豚に寄生虫の発生することがあった。「ワースァー」 [「wa:ra:」] (屠殺業者) は豚の目と口を開けて寄生虫の有無を調べた。寄生虫のいる豚は半値以下にしか売れなかった。

「ム」チュー [「muʔtʃu:」] (名)

(動) 魚名、トラギス科。和名、ななめとらぎす。体長約20センチ。ムチュー (糸満方言)

「ムル」ー [「muruʔ:」] (名)

(動) 魚名、フエフキダイ科。和名、ほおあかくちび。体長約30センチ。オームルー (糸満方言)

「ム」ン [「muʔŋ」] (名)

餌。動物の飼料。「スウイヌ」 「ムン」 [「θuinu ʔmuŋ」] (鳥の餌)。「ウシ」ヌ 「ムン」 [「ʔuʃiʔnu ʔmuŋ」] (牛の飼料)。「ムン」 「ダニ」 [mun ʔdani] (魚の餌)。「ワー」 「ムン」 [「wa: ʔmuŋ」] (豚の餌、豚の飼料)

ムン「ダニ」 [mun ʔdani] (名)

魚の餌。「アマ」ン [「ʔamaʔŋ」] (やどかり)、スアク「ヌ」 スィー [raku ʔnu θi:] (蛸の手)などを魚の餌にして魚釣りをした。ムン「ダニ」ヌ プスクッチ「ヘー」 「ティール」 チャル [mun ʔdaninu pusukutʃi he: ʔtiru ʃaru] (魚の餌が不足して、帰ってきた)。「ムン」 「ダナー」 「アマン」 「ヤタル」 [mun ʔdana:ʔ ʔamaŋ ʔjataru] (餌はヤドカリであった)。「ヤドカリ」の爪の部分は潰して撒き餌にした。

ヤー「ルー」 [ja: ʔru:] (名)

(動) やもり (守宮)。「ティン」 「ジョーカイ」 ヤー「ルー」ヌ 「グン」 [tin ʔɕo:kai ʔja: ʔru:ʔnu ʔguŋ] (天井に守宮がいる)。「ヤー」 「ルー」ヤ ナティナイヤー「ンギティ」 シュー「スァー」 [ja: ʔru:ja natinaija:ʔ ŋiti ʃu: ʔra:] (守宮は夏になると出てくるよ)

「ヤキ」ー [「jakiʔ:」] (名)

(動) 魚名、フエフキダイ科。和名、あまみふえふき。体長約70センチ。ヤキ (糸満方言)

ヤマ「ギャー」 [jama ʔgja:] (名)

(動) 魚名、ベラ科。和名、みつばもちのうお。体長約35センチ。イノーヒロサ (糸満方言)

ヤマハブ「ヤー[jamahabu「ja:]」(名)

(動) いもり(井守)。ヤマハブ「ヤーガ グ」ン[jamahabu「ja:ga gu」η] (井守がいる)。ヤマハブ「ヤーヤ」 アン「マリ」 ミチャン フ「トー」 ナーン[jamahabu「ja:ja」 ?am「mari」 miʃaŋ Φu「to:」 na:η] (井守はあまり見たことはない)
ユーシ「バーアカイ」ユ[ju:ʃi「ba:ʔakai」ju] (名)

(動) 魚名、イトウダイ科。和名、うけぐちいっとうだいの仲間。体長約25センチ。ナガーアカユー(糸満方言)

「ルー」[「ru」:] (名)

尾。「ルー」ヌ ナガ「スアン」[「ru:」nu naga「raŋ」] (尾が長い)。ナガ「ルー」[naga「ru:」] (長い尾。長尾)。「ワース」 「ルー」[「wa:nu 「ru:」] (豚の尾)。「イユヌ ルー」[「?ijunu ru:」] (魚の尾)。

「ワーギン」[「wa:giŋ」] (動)

追っ払う。「スウイ ワーギン」[「θui wa:gi:ŋ」] (鳥を追っ払う)。「ワーギランキバ」[「wa:giraŋkiba」] (追っ払うな)。「ワーギリバ」[「wa:giriba」] (追っ払いなさいよ)

「ワタ」[「wata」] (名)

はらわた(腸)。「ワース」 「ワタムン」[「wa:nu 「watamuŋ」] (豚の臓物。豚の腸)。「ワース」 「ワタムンシャーマ スィームン」 トウ「クイン」[「wa:nu 「watamuŋʃa:ma θi:mun」 tu「kuiŋ」] (豚の臓物<腸>で中身の吸い物を作る)

「ワタブター」[「watabuta:」] (名)

(動) おたまじゃくし。「ミヤーフブ」[「mja:Φubu」] (地名)の池に沢山生息していたので「ミヤーフブヌ ワタブター」[「mja:Φubunu watabuta:」] (学校の前にあるため池のおたまじゃくし) といった。

「ワチャ」[「waʃa」] (名)

わきのした(腋の下)。腋。「ワチャ」 ク「スウグイン」[「waʃa ku「θ ugiŋ」] (腋の下をこそぐる)

「ンナ」[「nna」] (名)

貝の総称。「にな(蝸螺)」の転訛したものか。「ティビスウガヤー」[「tibi θugaja:」] (高瀬貝、広瀬貝)。「クンナ」[Φu「kunna」] (さざえ)などが棲息している。

「ンナギ」[「nnagi」] (名)

(動) 和名、えらぶうみへび。「エラブウナギ」の総称。「ショーンナギ」[「ʃo:nnagi」] (正真のエラブウナギ)、または「ショームン」[「ʃo:mun」] (正真のもの) という。「グー」ムン[「gu:」mun] (雄エラブウナギ)、「ウサー」[「?uʃa:」] (雄)ともいう。雌は、「ミーンナギ」[「mi:nnagi」] (雌エラブウナギ) という。ンナ「ギヌ イース」

アナ[nna ʔginu ʔi:nu ʔana] (エラブウナギが入る穴。巢)。「アナチ」ンナギ「スウイ」ガ「イキン」[ʔanaʔi ʔnnagi ʔθui ʔga ʔʔikiŋ] (穴へエラブウナギを捕りに行く)

「ンマ」[ʔmma] (名)

(動) 馬。ワツ「ター」シマー「ンマン」ウシ「ン」グラン[wat ʔta: ʔima: ʔmmaŋ ʔʔuʔi ʔŋ ʔguraŋ] (私達の島は馬も牛もない)。ミ「カシャー」イヌン「グラントスィガ」ナマー「グスアー」[mi ʔkaʃa: ʔʔinuŋ ʔguranta ʔiga nama: ʔ ʔgura:] (昔は犬もいなかったが、今はいるよ)。「ミーンマ」[ʔmi:ʔmma] (雌馬)。「グーンマ」[ʔgu:ʔmma] (雄馬)

基礎語彙 第3分野 植物

「アーミシー」[ʔa:miʃi:] (名)

ブランコ (秋千)。アミ「シー」[ʔamiʃi:] (ブランコ) ともいう。木の枝に縄を結んでブランコを作り、それを漕いで遊ぶ。主に女の子のする遊びであった。アーミ「シー」フギン[ʔa:miʃi: ʔugiŋ] (ブランコを漕ぐ)。ユナ「グヌ」アスイビ[junaʔgunu ʔaθibi] (女の子の遊び)。旧暦6月24日のハシャ「キー」[haʃaʔki:]の時には女の子たちがブランコをして遊んだ。

アカー「クロー」[ʔaka:ʔkuro:] (名)

たそがれ時。夕方の明るさと暗さが交錯している時間帯。アカー「クロー」ヌ「ジブン」ハマー「ローエーヌ」ウグワ「ノー」ツチャスアー「[ʔaka:ʔkuro:nu ʔɕibuŋ] hama:ʔro:je:nuʔugwaʔno:ʔtʃara:] (黄昏の時刻<時分>にハマーローエーの神事はしたよ)

「アカガー」[ʔakaga:] (名)

芋の一種。「赤皮」の義。皮の赤い芋。

「アカデーク」[ʔakade:kuŋ] (名)

にんじん (人参)。「赤大根」の義。人参は戦前から久高島で作付けされてきた。アカデーク「ノー」ナマン「トウク」トウ「ン」[ʔakade:kuʔno: namanʔtukuʔtu:ŋ] (人参は今も作っている)。ミカシ「ヨーカー」ナマ「ル」ウプ「スアー」トウク「トゥール」[mikaʃiʔjo:ka: namaʔruʔupuʔʔa:ʔtukuʔtu:ru] (昔より今が多く作っている)。今は人参を島外に出荷している。

アカトウキ「ガー」[ʔakatukiʔga:] (名)

早朝に井戸へ水汲みに行くこと。「暁井戸」の義。「ビヒヤーイ」ン「バー」イヤー「ユナ」カラ「ン」ウキティ「バン」マツチル「ミラー」クミタスアー「[ʔɕja:iʔm ba:ʔja:ʔjunaʔkaraŋʔʔukitiʔbamʔmatʃiruʔmira:kumitaʔa:] (早の時は夜中から起きて順番を待って水を汲んでいた)

アカマー「ミー」[ʔakama:ʔmi:] (名)

あずき (小豆)。アカマー「ミー」ウイン「[ʔakama:ʔmi:ʔuin] (小豆を植える)。アカマー「ミー」トウ「クイン」[ʔakama:ʔmi:ʔtuʔkuiŋ] (小豆を作る)。アカマー「ミー」チャー「マ」アカメー「トウク」イ「ル」[ʔakama:ʔmi:ʃa:maʔakame:ʔtukuʔiʔru] (小豆で赤飯を作る)。アカマー「ミー」ヤ「アン」ナ「チ」アン「ム」チャー「トウクイ」タン「[ʔakama:ʔmi:jaʔʔan naʔʃiʔamʔmuʔʔa:ʔtukuiʔtaŋ] (小豆は餡にして餡餅を作った)

ア「スアン」ハリ「[ʔaʔʔaŋhaʔri] (連)

各家。家々。「家の数」の義か。ヤー「ヤー[ja: ja:] (家々)と同じ意味。「アムトウカラ」 アスアン「ハリ」[ʔamutukara ʔaraŋhari] (三アムトウから各家庭に至るまで)

ア「チョールー」[ʔa ʔo:ru:] (名)

商人。戦前、烏賊釣り漁の時期に知念村辺りからやって来た漁師の仲買人。この人たちが知念より「ハン」メー「ham me:」(「食料、飯米」の義で、芋のこと)を持参し、帰りには久高島の烏賊を買って知念に帰り、それを売りさばく商売をした。

「アラカ」[ʔaraka] (名)

(植)和名、ナガミボチョウジ。「あざか」(『おもろさうし』)。クボー御嶽で「アラカ」[ʔaraka] (あざか)を採り、外間殿に供えたマ「ブツ」チ[ma ʔbut ʔji] (米飯の供物)の上をそのアラカの葉で祓い清める。「ヤグルガー」[ʔjaguruga:] (井戸)から汲んできた聖水は「ティブルガーキー」[ʔtiburuga:ki:] (瓢箪)に入れて、ノロの祈願が済んだ後に「ウンシヤク」[ʔuŋʃaku] (ノロに神酒を捧げる役職の巫女)がノロに聖水を捧げてマブッチの上を祓い清める。

アラ「ケー」[ʔara ʔke:] (名)

(動)シャコ貝。シャコガイ科ヒレジャコは珊瑚礁の中に埋没しない。水深3～4メートルの砂の上または枝珊瑚の間に棲息している。ヒメジャコは珊瑚礁の中に埋没して成長する。「ピシ」[ʔpiʃi] (干瀬)で沢山とれる。

アラ「ナ」シ[ʔara ʔna ʃi] (名)

(植)アダンの気根。この繊維でサバニのアンカーロープを編んだり、ワラ「グ」ティ[wara ʔgu ti] (草鞋)を編んだりした。ワラ「グ」ティは潮干狩りに行く時に履いた。スアバ「ニヌ アンカーディナー」 アラ「ナシ ノーティル」 トウク「イタル」[ʔraba ʔninu ʔaŋka:dina: ʔara ʔnaʃi no:tiru ʔtuku ʔitaru] (サバニのアンカー綱はアダンの繊維を編んで作った)

ア「リンナー」[ʔa ʔrinna:] (名)

(植)アザミ (薊)。チ「バナ」ン「ギ」[ʃi ʔbanaŋ gi]ともいう。浜辺に自生していた。昔は食用に供されていた。

「アワ」[ʔawa] (名)

(植)アワ (粟)。「アワヌ」 「スアニ マキン」[ʔawanu ʔrani makin] (粟の種を蒔く)。「アワ」 「ウイトゥーン」[ʔawa ʔuitu:ŋ] (粟を植えてある)。「アヌ」 「バハノー」 アワ 「ウイトゥーン」[ʔanu ʔbano: ʔawa ʔuitu:ŋ] (あの畑は粟を植えてある)。「グン」 「グワティマティ」[ʔguŋ ʔgwatimati:] (五月祭り)は「粟の穂祭り」であり、「ルク」 「グワティマティ」[ʔruku ʔgwatimati:] (六月祭り)は「粟の収穫祭」である。

「イチュビ」[ʔiʃubi] (名)

(植) 野いちご。畑仕事の帰りに母親達が採って、それを束ねて子供の土産に持ち帰った。美味しかった。実は小さくて真っ赤に熟れた「イチュビは3～4月頃に採れた。「イチュビヌ べハナヌ」 スァ「チューン」[ʔiʃubinu ʔʰananu ɾaʃu:] (野苺の花が咲いている)

「イラキニンジャナ」[ʔirakininʒana] (名)

麦焦がしと煮芋を混ぜて捏ねた食品。

「イリクミー」[ʔirikumi:] (名)

通いの使用人。本島では住み込みの使用人。豪農や篤農家に住み込みで働く人。

「イン」ドー」[ʔin do:] (名)

(植) エンドウ (豌豆)。「インドーヌ べハナヌ」 スァ「チューン」[ʔindo:nu ʔʰan anu ɾaʃu:] (豌豆の花が咲いている)。豌豆の花は冬に咲いた。「インドーマミ」[ʔindo:mami] (豌豆豆)。「インドーマミ イッティ メー スァキ」[ʔindo:mami ʔitti me: ɾaki] (豌豆豆を入れて米を炊く)

「インドーマーミ」[ʔindo:ma:mi:] (名)

(植) エンドウマメ (豌豆豆)。「インドーマーミャー メーチ イッ」タイ 「シンチ イッ」タイ 「ツチ」ル 「ケータル」[ʔindo:ma:mja: me:ʃi ʔit tai ʃinʃi ʔit tai ʔʃi ru ʔke:taru] (豌豆豆はご飯に入れたりお汁に入れたりして食べた)

「ウイ」[ʔui] (名)

うり (瓜)。「ウヤー」 ジー「ウイ ヤタル タナ トウクター ウイランタン」[ʔuja: ʒi:ʔui jataru tana tukuta: ʔuirantaŋ] (瓜は露地栽培であった。棚を作っては植えなかった)

ウイ「グワー」[ʔui ʔgwa:] (名)

うり (瓜)。きゅうり (胡瓜)。「モーウイ」[mo:ʔui] (路地栽培の瓜) のこと。ウイグワー「ドゥネーヤ」 ハク「トー マンキーヤ」 デー「ジナ」 ンマスァ「タン」[ʔuigwa: ʔdune:ja ʔhaku to: maŋki:ja de:ʔina ʔmmaʒa taŋ] (瓜の和え物は白糖を混ぜると大変美味しかった)。ウイ「グワーヤ」 ジー「ウイ」 ヤクトウ べハタキ「カイル ウイタル」[ʔui ʔgwa:ja ʒi:ʔui jakutu ʔʰataki ʔka iru ʔuitaru] (胡瓜は露地栽培だから畑に植えた)

「ウイ」[ʔui] (動)

植える。「ハンダ」 「ウイ」[ʔ handa ʔui] (芋蔓を植える)。「ウイラ」[ʔuira] (植えない)。「ウイタン」[ʔuitaŋ] (植えた)。「ウイブシヤン」[ʔuibuʃaŋ] (植えたい)。「ウイ」ンバー「イ」[ʔui mba:i] (植えるとき)。「ウイリバ」[ʔuiriba] (植

えなさい)。ㇰヤシエー 「ウイン[^ㇰjaʃe: ^ㇰuiŋ] (野菜を植える)。ㇰヒー
「ウイン[^ㇰçi: ^ㇰuiŋ] (木を植える)

ウスィ[^ㇰu^ㇰθi] (名)

うす(臼)。碾き臼。搗き臼。ウスィ「シャーマ」 ムジ ピ「キ」ン[^ㇰu^ㇰθi^ㇰʃa:ma^ㇰ
muʃi pi^ㇰki^ㇰŋ] (石臼で麦を挽く)。ウスィ「シャーマ」 ティ「キ」ン[^ㇰu^ㇰθi^ㇰʃa:ma^ㇰ
a^ㇰ ti^ㇰki^ㇰŋ] (臼で搗く)

「ウティー」ン[^ㇰuti:^ㇰŋ] (動)

落ちる。ウティ「タン」[^ㇰuti^ㇰtaŋ] (落ちた)。ウティ「ラン」[^ㇰuti^ㇰraŋ] (落ちない)。
ウティ「ランタン」[^ㇰuti^ㇰrantaŋ] (落ちなかった)。ウ「ティーヤ」[^ㇰu^ㇰti:ja] (落ちたら)。
ㇰクンプヌ 「ナイ」ヌ ウティ「タン」[^ㇰkumbunu ^ㇰnai^ㇰnu ^ㇰuti^ㇰtaŋ] (九
年母の実が落ちた)

「ウブン」[^ㇰubuŋ] (名)

ご飯と煮魚を供物としたもの。

ウブン「ナー」[^ㇰupun^ㇰna:] (名)

なのはな(菜の花)。「ウブンナーヌ」 スァチュー」ン[^ㇰupunna:nu ^ㇰraʃu:^ㇰŋ]
(菜の花が咲いている)

オー「バ」ハー[^ㇰo:^ㇰʔa:] (名)

野菜の総称。葉野菜。「青葉」の義か。「ヤシエー」[^ㇰjaʃe:]ともいう。オー「バ」ハーヌ
ハリラン」チ 「シュ」ンバー「イヤ」 ハンナーリ」 ミリ」 ハキ「ランバ」 アン」
サンニーヤ」 ハ「リー」ン」 ロー[^ㇰo:^ㇰʔa:nu hariran^ㇰʃi ^ㇰʃu^ㇰmba:^ㇰija hann
a:ri miri^ㇰ haki^ㇰramba^ㇰ ^ㇰan^ㇰsanni:ja^ㇰ ha^ㇰri:n^ㇰro:] (野菜が萎びれかか
る<萎びれようとする>時は必ず水を遣らないと<水をかけないと>いけないよ。
そうしないと枯れるよ)。「オー「バ」ハー」 ハラー 「イキラ」スァタン[^ㇰo:^ㇰʔa:^ㇰ har
a:^ㇰ ^ㇰikiraŋataŋ] (野菜<菜っ葉>は種類<数>は少なかった)

オーマー「ミー」[^ㇰo:ma:^ㇰmi:] (名)

緑豆。やえなり。モヤシ(萌やし)の原料にした。「青豆」の義。オーマー「ミー」
シャーマ」 マ」マミナ トウ「クイン」[^ㇰo:ma:^ㇰmi: ʃa:^ㇰma ^ㇰmamina tu^ㇰkuiŋ]
(緑豆でモヤシを作る)

ガ「ギナー」[ga^ㇰgina:] (名)

(植)野菜の一種。

「カブ」[^ㇰkabu] (名)

切り株。木の切り株。キリ「カブ」[kiri^ㇰkabu] (切り株)ともいう。ㇰヒーヌ キリ」
カブ[^ㇰçi:nu kiri^ㇰkabu] (木の切り株)。

「グジ」[^ㇰguʃi] (名)

砂糖きび。「をぎ(萩)」の義。シティ「グワティーヤ」 グリー「ジンカヤー」 グジ
トウ スイクワ トウ「クイン トウクマー」 スイ「クワ」ン 「ウシャギタスアー
[ʃiti ʔgwati:ja ɡuri: ʔɕiŋkaja: ɡuʃitu ʔsuikwa tu ʔkuin tukuma: ʔ
sui ʔkwa ʔŋ ʔuʃagitara:] (七月のお盆には砂糖きびと、西瓜を作っているところ
は西瓜もお供えしたよ)。アラリン「クワー ウシャギン トウクマン」 アタン
パリ 「ヤシガ ミチャン クトー」 ナーン「タン[ʔarariŋ ʔkwa: ʔuʃagin tu
kumaŋ ʔatampari ʔjaʃiga miʃaŋ kuto: ʔna:n ʔtaŋ] (アダンの実を供え
るところもあったはずだが見たことはなかった)

グシ「キ[guʃi ʔki] (名)

(植) ススキ(薄)。シ「キダムトウ[ʃi ʔkidamutu] (祭りに参加する巫女が座ると
きに敷いて用いるもの。直径約五寸ほどにススキの茎を束ねたもの。蓆の代用品)
に用いた。グシキで作ったサンは旧暦八月のハ「ティグワティマティー[ʔɕa ʔtigw
atimati:] (八月祭り)のときに各家の四隅の軒に桑の葉と一緒に差して悪霊祓いを
するのに用いた。ノロと根神のシキダムトウは特製のシキダムトウでススキの束を
二、三箇所て結わえたものを用いた。

「グジナグ」ジ[ʔguʃinagu ʔɕi] (名)

お盆に供える砂糖きび。霊前に供えた供物をあの世へ担いで行くのに用いると信じ
られている。「グジナ[ʔguʃina]は「杖」の意。「杖に用いる砂糖きび」のこと。グ
ジナ「グジャー スイキラットウーヌ」 クワッチー 「ハタミティ イキ」ン バー
「イヌ グジ ヤタロ[ʔguʃina ʔguʃa: ʔikirattu:nu ʔkwatʃi: ʔhatamiti ʔi
ki ʔm ba: ʔinu ʔguʃi ʔjataro] (グジナグジは供えてあるところのご馳走を担いで
行くときの杖<棒>だそう)

ク「スア[ku ʔra] (名)

(植) くさ(草)。ク「スアヌ ミー「トウ」ン[ʔkuraŋu mi: ʔtu: ʔŋ] (草が生え
ている)。ク「スア 「ハリバ[ʔkura ʔhariba] (草を刈りなさい)。ク「スア 「ヤキ
ン[ʔkura ʔjakiŋ] (草を焼く)

ク「スア「リーン[kura ʔri:ŋ] (動)

くされる(腐れる)。ク「スアッ「トウ」ン[kuraʔ ʔtu:ŋ] (腐れている)。ク「スア「リ
ラン[kura ʔriran] (腐れない)。「キヤー」チ ッ「チ」ン ク「スア「リラン[ʔkja: ʔʃi
t ʔʃi ʔŋ kura ʔriran] (どんなにしても腐れない)。ク「スア「リ「トウ」ン シャコー
カーラランクトウ」 ヒ「ティリバ[kuraʔ ʔri:ŋ ʃako: ka:raraŋkutu ʔɕi ʔtiri
ba] (腐れていたら食べられないから捨てなさい)

「クン」ブ[ʔkum ʔbu] (名)

蜜柑。九年母。久高島で蜜柑を栽培している家は少なかった。「クン」ン アン

「トウクマー」　　メー「ニシミグワー」　　チュ「キネ」ー　　「ヤタル　　アン「シュクトウ」
 ウンドー「クワイヤー」　　ウプ「シマーラ」ル　　「ホーティ」　　シュー「タル」[「kumbu」
 ŋ ʔan「tukuma:」　　me:「niʃimigwa:」　　ʃu「kine」:　　「jataru ʔaŋ「ʃukutu」
 ʔundo:「kwaija:」　　ʔupu「ʃima:ra」ru　　「ho:ti」　　ʃu:「taru」(蜜柑のある家は前
 西銘小一軒だけであった。それで運動会には沖縄本島<大島>から買ってきた)。ク
 ン「ブ」ヌ　　「ナトゥーン」[kum「bu」nu　　「natu:ŋ」(蜜柑<九年母>が生っている)。
 「クンブヌ　　ナイ」[「kumbunu　　nai」(蜜柑の実)

グン「ボー」[gum「bo:」(名)

ごぼう(牛蒡)。グン「ボーヤ」　　トウク「ランタン」　　ホーティル」　　シュー「タル」[g
 um「bo:ja」　　tuku「rantaŋ　　ho:tiru」　　ʃu:taru」(牛蒡は作らなかった。買ってきた)。
 シティ「グワティ」　　ウシャギー」ン　　バー「イル」　　ホーティ」　　シュー「タル」[ʃi
 ti「gwati ʔuʃagi:」m　　ba:「iru　　ho:ti」　　ʃu:「taru」(七月のお盆にお供えする
 ときに買ってきた)。マル「フィージーヤ　　カーンタン」[maru「ʃi:ʃi:ja　　ka:ntaŋ」(常
 日頃は食べなかった)。日用雑貨は与那原で購入した。与那原から中頭までは軌道馬
 車が走っていた。与那原には馬車が多く、馬天港には山原からチャーターで薪を運
 ぶマーラン船が碇泊していた。

「サキガ」ク[「sakiga」ku」(名)

アルコール中毒。酒を飲みすぎて中毒症状を発症した人。アルコール分が欠如する
 と手が震える症状をしめした。

「サクラ」[「sakura」(名)

緋寒桜。桜。もともと久高島には桜の木は自生してなかったが、浜福治家に一本の
 山桜が生えていた。その後、「ナーデーラ」[「na:de:ra」(宮平家)の周太郎氏が本
 部町の教員をしていたときに、本部から宮平家に移植したものがある。戦後は各家
 に植えたところもある。パハマ「フクジグワーカイ」　　ヤマザク「ラヌ」　　チュキー
 アタ「スアー」　　ナーレー「ラヌ」　　シュータロー「サンガ」　　シェンジェン　　「ムトゥ
 「ブヌ　　シンシー　　チュータ」ン　　「バーイ　　ムトゥ「ブラ　　ムツ」チッチー　　ナー「レ
 ーラーカイ　　ウイトゥースィ」ヌ　　「ナマ」　　アスアー[ʔPama「ʃukuʃigwa:kai」
 jamaʔaku「ranu」　　ʃuki: ʔata「ra:」　　na:re:「ranu」　　ʃu:taro:「sanga ʃenʃe
 m」　　mutu「bunu ʃiŋʃi: ʃu:ta」m　　「ba:i　　mutu「bura　　mut」ʃitʃi:　　na:「re
 :ra:kai ʔuitu: ʃi」nu　　「nama」　　ʔara:」(浜福治小に山桜が一本あったよ。宮平
 の周太郎さんが戦前本部町の先生していたときに本部から持ってきて宮平家に植え
 たのが今まであるよ)

「ザクロ」[「ʔakuro」(名)

(植) ざくろ(石榴)。標準語からの借用語。「シェンジェノー　　ザクロー」　　ナーン

「タン ナマン」 ナーン「パハリ」[ʃenɕeno: ɬakuro:ʔ na:nʔtan namanʔ
na:mʔpɕari] (戦前には、石榴はなかった。今もないはずです)

サン「グワティマティ」[saŋʔgwatimati:] (名)

三月祭り。三月中旬に行われる麦の収穫祭。月の中の「ミンニー」[ʔminni:] (干支の
ミズノエ、ミズノトの日) に執り行われる。

ジー「マミ」[ɕi:ʔmami] (名)

落花生。「地豆」の義。地下に繭形のきょうか(莢果)を結ぶことから命名されたもの。
ジー「マミヤ」 ミカシャ」 トウク「ヤビランタン」[ɕi:ʔmamja: mikaʃa:ʔ
tukuʔjabirantanʔ] (落花生は昔は作りませんでした)。トウク「ランタン」[tukuʔran
tanʔ] (作らなかった)

シカチ「ギー」[ʃikaʃiʔgi:] (名)

(植) シャリンバイ。果実が生り、食用となる。おやつ(お八つ)として食された。
ワラビ「チューイヤ」ヌーン」 ナーンクトウ」シカチヌ」ミ」スウイガ」ユー
「イキタン」[warabiʔʃu:ija nu:nʔ na:nʔkutu ʔʃikaʃinu ʔmi: ʔuigaʔ ju:
ʔʔikitanʔ] (子供の頃は何も無かったのでシカチの実を採りによく行ったものだ)

シ「キダム」トウ」[ʃiʔkidamuʔtu] (名)

ススキの茎を束ねて、祭祀の場で座る際に用いる敷物。ノロのシキダムトウはウヤ
ウンシャクが作り、その他は各自で作った。ウンシャクに当たった人が島外在住の場合
は、身寄りの神女に頼んで代役を務めてもらった。ムラガシラも同様に依頼して
努めてもらった。スォールイガナシはムラガシラを経験した人のみ就任することが
出来たからである。

シ「ビラー」[ʃiʔbira:] (名)

カツオ(鰹)の背びれ。鰹節製造工場ではシビラーを捨てたが、これを集めて畑に
入れると肥料となった。

「シブ」イ」[ʃibuʔi] (名)

冬瓜。久高島ではそんなに多くは作っていなかった。シブ「ヤー」シェンジェノー」
アン「マリ」 トウク「ター」 ナーン「タン」[ʃibuʔja: ʃenɕeno:ʔ ʔamʔmariʔ
tukuʔta:ʔ na:nʔtanʔ] (冬瓜は、戦前はあまり作っていなかった)。「シブヤー」
シマー」トウク「ランタン」パハリ「ロー」ウ」フシ「マーラル」ホーティ」シェ
ー「タル」[ʃibuja:ʔ ʃima: tukuʔrantamʔ pɕariʔro:ʔ ʔupɕuʃiʔma:raru h
o:tiʔ ʃu:ʔtaru] (冬瓜は島では作らなかったはずだ。本島から買ってきていた)。
「シブヤー」シンチ」イッティル」ケータル」[ʃibuja: ʃinʃi ʔittiru ke:taru]
(冬瓜はお汁に入れて食べた)。「シブイ」ンブシーヤ」カタンフトー」 ナーン「
タン」[ʔʃibui ʔmbuʃi:ja katanʔɕuto:ʔ na:nʔtanʔ] (冬瓜の煮つけは食べたこと

はなかつた)

「シブリーン[「fiburi:ŋ] (動)

しばむ(萎む)。「シブマン[「fibuman] (萎まない)。「シブリトゥーン[「fiburitu:ŋ] (萎んでいる)。「シブルーン[「fiburu:ŋ] (萎んでいる)。「シブリーイキン[「fiburiʔikiŋ] (萎んでいく)。「シブミン^ㇿパハナ[「fibumim^ㇿ pʰana] (萎む花)。「シブミヤ^ㇿ[「fibumija:] (萎んだら)。「シブ^ㇿミヤ^ㇿナ^ㇿ「シブ^ㇿリ^ㇿナ^ㇿ「ン^ㇿ ス^ㇿア^ㇿキ^ㇿス^ㇿイ^ㇿル^ㇿ マ^ㇿツ^ㇿ「チュ^ㇿエ^ㇿタ^ㇿス^ㇿイ^ㇿガ^ㇿ ミ^ㇿエ^ㇿハ^ㇿン^ㇿチ^ㇿ ナ^ㇿン^ㇿ[「pʰananu 「fiburi^ㇿ na: 「n ɾaki θiru^ㇿ mat^ㇿʔu:ta θiga mi:pʰan^ㇿʔi^ㇿ na:ŋ] (花が萎んでしまった。咲くのを待っていたが見損なってしまった<見はずしてしまった>)

「ジャガイモ[「ʧagaimo] (名)

ジャガイモ。標準語からの借用語。戦前は栽培しなかった。戦後になって栽培するようになった。

シューキ「ギー[ʃu:ki「gi:] (名)

(植) モンパの木。久高島の東海岸のシューキ「ギー[ʃu:ki「gi:]の群落は沖縄県指定の文化財となっている。昔は、この木の幹を削って加工し、ガラスを嵌めて水中眼鏡を作った。シューキ「ギー シャ^ㇿマル^ㇿ ミ^ㇿエ^ㇿハ^ㇿガ^ㇿ「ノ^ㇿ ト^ㇿウ^ㇿク^ㇿ「イ^ㇿタル^ㇿ[ʃu:ki「gi: ʃa:maru^ㇿ mi:haga「no: ʔ^ㇿtuku「itaru] (モンパの木で水中眼鏡は作った)

「ショーガー[「ʃo:ga:] (名)

(植) しょうが(生姜)。生姜は久高島では昔から栽培していない。本島の与那原あたりから買ってきた。

「スアキン[「ɾaki^ㇿŋ] (動)

咲く。「シ^ㇿブ^ㇿミ^ㇿヤ^ㇿナ^ㇿ「ス^ㇿア^ㇿキ^ㇿン^ㇿ[「pʰananu 「ɾakiŋ] (花が咲く)。「シ^ㇿブ^ㇿミ^ㇿヤ^ㇿナ^ㇿ「ス^ㇿア^ㇿキ^ㇿン^ㇿ[「pʰana: 「ɾakan] (花は咲かない)。「シ^ㇿブ^ㇿミ^ㇿヤ^ㇿナ^ㇿ「ス^ㇿア^ㇿキ^ㇿン^ㇿ[「na: 「ɾaʃan] (もう咲いた)。「シ^ㇿブ^ㇿミ^ㇿヤ^ㇿナ^ㇿ「ス^ㇿア^ㇿキ^ㇿン^ㇿ「ハ^ㇿリ^ㇿ「ン^ㇿ[「ɾaʃi^ㇿŋ 「hari:ŋ] (咲いても枯れる)。「シ^ㇿブ^ㇿミ^ㇿヤ^ㇿナ^ㇿ「ス^ㇿア^ㇿキ^ㇿン^ㇿ「ハ^ㇿリ^ㇿ「ン^ㇿ[「pʰananu 「ɾaʃu:ŋ] (花が咲いている)。

「スアニ[「ɾa^ㇿni] (名)

たね(種)。「ヤ^ㇿシ^ㇿエ^ㇿヌ^ㇿ ス^ㇿア^ㇿニ^ㇿ[「jaʃe:nu ɾani] (野菜の種)。「ス^ㇿア^ㇿニ^ㇿ「マ^ㇿキ^ㇿン^ㇿ[「ɾani 「makiŋ] (種を蒔く)

「スアムトゥ[「ramutu] (名)

六十歳以上の神女で神事に関するすべての労役を免除された人。この人たちは、ノロやニーガン(根神)のお供をする。「ス^ㇿア^ㇿム^ㇿトゥ^ㇿミ^ㇿヤ^ㇿ[「ramutumja:]で「ウン^ㇿシ^ㇿャ^ㇿク^ㇿ[「ʔuŋʃaku]からノロの後に神酒を頂いた。ウヤウンシャクの神酒注ぎはニブ「ス^ㇿウ^ㇿイ^ㇿ[nibu^ㇿθui]が行い、ウンシャクに対してはム^ㇿラ^ㇿハ^ㇿッ^ㇿシ^ㇿャ(村頭)が神酒

を注ぐのが仕来りであった。神酒は各組（畑の組のウヤ）から順番に供出された。

スイークワー「スアー」[θi:kwa:「ra:」] (名)

(植) ヒラミレモン。芭蕉布を洗濯する際にヒラミレモンの汁を使って漂白した。刺身にもヒラミレモンの汁をたっぷりかけて酢の代用にすると美味しかった。スイークワー「スアーヤ」 バシャー「ギー アライ」ン バー「イ」 ティ「ケータン」[θi:kwa:「ra:ja」 ba:ʃa:「gi: ʔarai」m ba:「i」 ti「ke:taŋ」] (ヒラミレモンは芭蕉着を洗濯する際に使った)。スイークワー「スアーヤ」 ショー「グッチーヤ ウカマガナシー スッパシリ スウク グリージンカイ アカハビヌ ウイカイ ウチ」ハラ「イ」タン」[θi:kwa:「ra:ja」 ʃo:「gwaʃi:ja ʔukamaganafi: θuʔaʃiri θuku guri:ʃiŋkai ʔakahabinu ʔuikai ʔuʃi」 harai「taŋ」] (ヒラミレモンは旧正月には、火の神、トッパシリ神、床の神、そしてご霊前に、赤紙の上に置いて供え飾った)

スイ「クワ」[sui「kwa」] (名)

(植) すいか (西瓜)。戦前から久高島に西瓜を栽培していた。久高島は砂地が多く、西瓜の栽培に適しており、糖度が高く美味しいという定評があった。昔は「モーウイ」[「mo:ʔui」] (露地栽培) が普通で、自家用に栽培していたが、現在は出荷用に栽培している家もある。ミカ「シャー」 ドゥーヌ 「ケーン ウッピル」 トウクイ「タル (昔は自分が食べる分しか作らなかつた<食べる分を<ぞ>作った>)。ドゥーヌ 「ケーユール」 トウク「トゥータル」[「du:nu 「ke:ju:ru」 tuku「tu:taru」] (自分の食べる分を作っていた)。クラ「カヌ スイクワー」 デー「ジナ アマステーヌ」 ンマ「スアタン」[kura「kanu suikwa:」 de:「ʃina ʔamaʃunu」 mma「ra taŋ」] (久高島の西瓜は非常に甘くておいしかった)。「ンチャギャビーヤ」[「nʃagjabi:ja」] (召し上がりますか)。「ンチャギーンシャコー」 ムッチシャー「ビンドー」[「nʃagi:ŋʃako:」 mutʃiʃa:「bindo:」] (召し上がるなら持って参りますよ)

スイン「マガー」[θim「maga:」] (名)

びく (魚籠)。釣った魚を入れたり、餌を入れるのに用いる竹製の籠。丸型の籠で紐を首に掛けて吊るした。芋のお握りを入れて弁当にすることもあった。女性が「イライ」[「ʔirai」] (潮干狩り<漁り>)に行くときに用いるのは「ミーミンコー」[「mi:miŋko:」] (魚籠) という。漁獲した蛸やアラ「ケー」[ʔara「ke:」] (しゃこ貝)を入れるのに用いた。

「スオープマ」ミ」[「θo:puma」mi」] (名)

(植) だいず (大豆)。「豆腐豆」の義。シマ「カヤー ナマン」 スオープ「マミヤー」 トウク「トウースアー」[ʃima「kaja: nama」n θo:pu「mamja:」 tuku「tu:ra:」] (島では今も大豆を作っているよ)。「シチビ」[「ʃitibi」] (節日) や「スージ」[「su:ʃi」] (祝

チャー「ガク」[ʃa:「gaku」] (名)

お茶中毒になった人。アルコール中毒のようにお茶を飲む人。「サキガ」ク「sakiga」ku」(アルコール中毒<酒中毒>)

チュ「キリ」[ʃu「kiri」] (数)

一区切り。各組(久高島を10区間に区切ったもの)に分散して配分された農地。小石を並べて境界をしめした。チュ「キリ」[ʃu「kiri」](一切れ)、「タキリ」[「takiri」](二切れ)、「ミキリ」[「mikiri」](三切れ)と数える。昔は、男性は農業に従事しなかったため、自分の配分地の所在を知らなかったという。一人に対して、一箇所に「ミキリ」[「mikiri」](三切れ)以上の畑を配分されることはなかった。ただし「ヌンジー」[「nunʒi:」](ノロ地)、「ニーツチュ」ジー「ni:ʃuʒi:」(根人地)は専属の土地であり、世襲の土地であった。

「チュジー」[「ʃuʒi:」] (数)

畑の広さを表す単位。約一反(300坪)。「チュジー」[「ʃuʒi:」]、「タジー」[「taʒi:」]と数える。正人の数によって配分される畑の面積。その畑で五穀を栽培した。大家族の場合、「チュジー」バン「ʃuʒi:pʰan」(1反半)、または「ミジー」[「miʒi:」](3反)が配分された。

「チリーン」[「ʃiri:ŋ」] (動)

散る。「バハナヌ」 「チリタン」[「pʰananu ʃiritan」](花が散った)。「チラン」[「ʃiran」](散らない)。「バハナヌ」 「チリーヤ マタ」 ソージ 「スイバル」 ナイル「[「pʰananu ʃiri:ja mataʒi ʰibarunairu」](花が散ったら、また掃除をしないといけない<すればぞなる>)

「チンタク」ク「ʃinta」ku」(名)

(植)がじまる(榕樹)。チンタク「ギー」[ʃintaku「gi:」]ともいう。チンタク「ギーヌピジ」[ʃintaku「gi:nu piʒi」](ガジマルの木の気根<ひげ>)。「ピジ」ヌ ミー「トウサー」 アン「マリ」 ミチャー 「ミヤン」[「piʒinu mi:ʒa:ʒam ʰari miʃa: ʰijan」](気根が生えているのはあまり見たことがない)「チンタクヌ ミー」 ニン「ジャラッチ ケータサー」[ʃintakunu mi:ʒa: ninʒaraʃi ke:ʒa:ʒa:」](ガジマルの実を潰して捏ねて食べたよ)

ディーグ「ギー」[di:gu「gi:」] (名)

(植)でいご(梯梧)。イザイホーの祭りに用いる盆を造る原料となる。ディー「グヌ」バハナヌ 「スアチャン」[di:「gunu pʰanaʒi nu ʒaʃaʒi」](デイゴの花が咲いた)

「ティバナン」ギ「tibanan」gi」(名)

(植)あざみ(薊)。久高島の海岸に自生しており、刺がある。「ティバナンギ」ヌ

ミー「トゥーン」[「tibanangi」nu mi:「tu:」η] (薊が生えている)

ティ「バハタン」[ti「pΦataη】(名)

(植) ふき (蓴)。野生植物で、久高島では食用に供しなかった。海岸の原野に自生している。

「ティプグ」[「tipugu】(名)

枯れ葉が沢山積もっているもの。島では枯れ葉は燃料、各家庭で薪の代用に供された。「ティプグ」アティミティ「プッティ」チャン[「tipugu」?atimiti「put ti」ŋaη] (枯葉を集めて拾ってきた)

「ティプミ」[「tibumi】(名)

つぼみ (蕾)。「ティプミス」プ「クルーン」[「tibuminu」pu「kuru:」η] (蕾が膨らんでいる)。「ナー」ヤガティ「バハナン」スアキン「バハリ」ヤー[「na:」jagati「pΦanan」rakim「pΦari」ja:] (もうじき花も咲くだろうねえ)

ティ「ブルガー」キー[ti「buruga:」ki:] (名)

瓢箪で作った柄杓に「ヤグルガー」[「jaguruga:】(聖なる井戸、清泉)から汲んできた聖水を入れ、その水を手で掬って供物にふりかけ清め祓うことにもちいた。

「ティブ」ン[「tibu」η] (名)

(植) ひょうたん (瓢箪)。ゆうがお (夕顔) の変種。食用に供するほか、完熟した果実は柄杓にして用いた。旧暦1月の麦の穂祭と5月の粟の穂祭の時には、ティ「ブルガー」キー[ti「buruga:」ki:] (瓢箪の容器の聖水かけ) といって、瓢箪柄杓の容器に「ヤグルガー」[「jaguruga:】(聖なる井戸)から汲んできた聖水を入れ、その水を手で供え物 (マ「ブツ」チ[ma「but」ŋi] <ご飯の供え物。昔は麦の粥、ムジアンデーを供えた>) にふりかけて清め祓うのに用いた。「ティブ」ンは福木にはわせて栽培し、棚を架けて栽培することはしなかった。「ティブ」ン シン「チ イッティル ケータル」[「tibuη」ŋin「ŋi」?ittiru ke:taru] (瓢箪はお汁に入れて食べたよ)。「ティブ」ン ンブシーン カタン フトー アイビラン「タン」[「tibum mbu:ŋi:η k ataη Φuto: ?aibiran」taη] (瓢箪の煮つけも食べたことはございませんでした)。「ティブ」ンヌ ミー「トゥーン」[「tibun」nu mi:「tu:」η] (瓢箪が生えている)。「ティブ」ンヌ 「ナトゥーン」[「tibun」nu 「natu:」η] (瓢箪が生っている)

「ティミン」[「timinη】(動)

つむ (摘む)。「デー」クンヌ「バハナ」ティミン[de:「kunnu pΦana timi」η] (大根の花を摘む)。「ティマン」[「timaη] (摘まない)。「ティラ」ン[「tira」η] (摘んだ)。「ティマン」[「timaη] (摘まない)。「ティミブシャ」ン[「timibu:ŋa」η] (摘みたい)。「ティミバ」 スィミ「ムン」ヌ[「timiba」θimi「mun」nu] (摘めば良いのに)

「ティル」[「tiru】(名)

つる (蔓)。「ハンダヌ」 ティル[^hhandanu^t tiru] (いもの蔓、いもかずら)
 デー「クン[de:^hkuŋ] (名)

(植) 大根。戦前の久高島では「ウイ[^ʔuⁱ] (海栗の一種で食用に適しない黒いウニ)を畑に入れて肥料にし、大根を栽培した。ミカ「シャー」ヘース「ハワイ」ウイ「イ「リータン[mika^hʃa:^h he:nu^h hawai^h ʔui ʔi^hri:taŋ] (昔は肥料の変わりにウイを入れた)。久高島の大根は美味で砂地に適し、収穫量も多かった。デー「クノー ウイガー イカントン^hハリ」フシ「カブナチ」アトゥ「ラー デークン」ンブ「シーッチ ケータン[de:^hkuno:^h ʔuiga:^h ʔikantam^hʔari^h p^hʔu^hʃi^h kabu^h naʃi^h ʔatu^hra:^h de:kum^h mbu^hʃi:tiʃi^h ke:taŋ] (大根は売りには行かなかった。干し蕪にして、あとで大根煮つけにして食べた)。クダ「カヌ デークノー」ンマ「スアタン[kuda^hkanu^h de:kuno:^h ʔmma^hra:taŋ] (久高島の大根は美味しかった)

「トウイフワツ」トウ[^htuiʔat^h tu] (名)

鶏法度。穀物の収穫時に鶏を放し飼いにすることを禁じた島内のおきて。その期間は鶏舎にいて飼育し、屋敷内に放さぬよう青年団が強く管理していた。放し飼いにしてある鶏は青年団によって処分することが認められていた。

「トゥブシ[^htubuʃi] (名)

松の幹を削って灯明に用いるもの。久高島では旧暦6月24日のハシャ「キー[haf^ha^hki:]の時と12月31日のスウシン「ユル[^hθuʃiŋ^h juru] (大晦日、<歳<の夜>)に「ウカマガナシー[^hʔukamaganaʃi:]に「トゥブシを灯して健康祈願をする行事がある。従来は「スィーンユタ[^hθi:nju:ta]が祈願していたが、現在は各家庭でイザイホーの祭りに参加した婦人が祈願している。トゥブシを「ナナ」プシ[^hnana^hpuʃi] (七片)を灯して今までの健康生活に対して感謝の祈願をし、次に「イティ」プシ[^hʔiti^hpuʃi] (五片)を灯して今後の健康祈願を行う。シマ「カヤー」スウシン「ユル」トウ」ルク「グワティヌ ハシャキーン バーイ」ウカマガナ「シーネー」スウブ「シ スウブ」チ 「^hʔah^hʒimi^hnu^h nana^hpuʃi^h nama^hma^hri^hnu^h kenko:nige:^hru^h guri:^h ʔunra^h mata^h ʔiti^hpuʃa:^h nama^hranu^h kenko:nige:^hnu^h ʔunige:^h ʃuŋ ʔunu^h nige:^hja^h θi:n^hjutaga^h ru^h ʃuta^hθiga^h nama:^h ʔiʃai^h nigatanu^h ʃuŋ^hʃa:garu^h na:me:^hme:

nige:ꞑru] (島では大晦日と六月のハシャキーの時に火の神<竈の神>さまにトゥブシ<松のやにの多い幹を削り灯明にするもの>を灯して、初めの七節<片>は今までの健康祈願のお礼、それからまた五節<片>は今後の健康祈願のために灯して祈願をする。この祈願はスィーンユタがやったが今はイザイホーの祭りに祈願をした人たちが各自祈願している)

トマꞑトー[tomaꞑto:] (名)

(植) トマト。戦前は栽培していなかったの、あまり食べなかった。トマꞑトーヤꞑメーヤꞑウイタꞑナーンꞑタン[tomaꞑto:ja me:ja ꞑuitaꞑ: na:nꞑtan] (トマトは、以前は植えてなかった)

ナイꞑムン[naiꞑmuꞑ] (名)

果実。果物。果実の総称。「生子物」の義。「クンꞑブ[ꞑkumꞑbu] (九年母、蜜柑)。スィークꞑワーꞑスァー[ꞑhi:kwa:ꞑra:] (ヒラミレモン)。バンシꞑルー[banꞑsiꞑru:] (グワバ。蕃石榴。バンシロー)。バシヤꞑナイ[baꞑjaꞑnai] (バナナ。芭蕉の実) など。

ꞑナイン[ꞑnaiꞑ] (動)

なる(生る)。植物の実が付く。「ミーꞑヌꞑナイン[ꞑmi:ꞑnu ꞑnaiꞑ] (実が生る)。「ナトꞑウーꞑン[ꞑnatu:ꞑꞑ] (生っている)。ナイꞑムンꞑヌꞑナトꞑウーꞑン[naiꞑmunꞑnu ꞑnatu:ꞑꞑ] (果物が生っている)。「ミーꞑヌꞑナイꞑマンꞑディ[ꞑmi:ꞑnu ꞑnai ꞑmanꞑdi] (実が生って沢山ある。実が沢山生っている)。「ナマꞑミーꞑヤꞑナꞑラン[ꞑnama ꞑmi:ꞑja ꞑnaꞑran] (まだ実は生らない)。ハーꞑミーꞑナꞑリバꞑスィミンꞑムンꞑヌꞑ[ha: ꞑmi:ꞑ nariba ꞑimimꞑmunꞑnu] (早く実が生ればよいのに)

ナꞑシリ[naꞑfiri] (名)

桑の実。「ナシリꞑヌꞑミーꞑヌꞑウルꞑン[ꞑnaꞑfirinu ꞑmi:ꞑnu ꞑuru:ꞑ] (桑の実が熟れている)。「ウルꞑヌꞑナシリꞑヌꞑミーꞑヤꞑデーꞑジꞑナꞑンꞑマꞑスァꞑタン[ꞑuru:ꞑnu ꞑnaꞑfirinu ꞑmi:ꞑja ꞑde:ꞑɕina ꞑmmaꞑɾatan] (熟れた桑のみは大変美味しかった)

ナシリꞑギー[naꞑfiriꞑgi:] (名)

(植) 桑の木。「クꞑワーꞑギー[ꞑkwa:ꞑgi:] (桑の木) ともいう。「ナシリꞑヌꞑマꞑクꞑルーꞑッチーꞑンꞑミーꞑヤꞑデーꞑジꞑヌꞑンꞑマꞑスァꞑタン[ꞑnaꞑfirinu ꞑnaiꞑnu makꞑkuru:ꞑtɕi:ꞑꞑmmi:ꞑja:ꞑ de:ꞑɕinu ꞑmmaꞑɾatan] (桑の実が真っ黒に熟れたら大変美味しかった)。「ヤꞑヒꞑガꞑンꞑディꞑンꞑイルꞑヌꞑハꞑワꞑランꞑスィꞑンꞑアꞑタꞑスァꞑー[ꞑjaꞑciꞑga ꞑndiꞑ ꞑꞑirunu ꞑhawaran ꞑiꞑ ꞑataꞑra:] (しかし熟れても色の変わらないのもあったよ)

「ナンクワー[*ˈnaŋkwaː*] (名)

(植) カボチャ (南瓜)。昔のカボチャは水分が多く、美味しくなかった。自家用に栽培していた。「ナンクワーヤ」 ドゥーヌ 「ケースイ」 ビカーンドゥ 「トクイール[*ˈnaŋkwaːjaː duːnu ˈkeːθiˈbikaːndu ˈtukuiru*] (カボチャは自分の食べる分しか作らないく食べる分だけぞ作る)。ミカ「スイヌ」 ナン「クワーヤ ミーヌ」 ヤバハラ「スアヌ」 ンマ「スア」 ナーン「タン[*mikaˈθinuˈ naŋˈkwaːja miːnuˈ jaˈp̄araˈɾanuˈ mmaˈraːˈ naːnˈtaŋ*] (昔のカボチャは実が柔らかくて美味しくなかった)。「ナンクワー トクイール」[*ˈnaŋkwaː tukuiˈŋ*] (カボチャを栽培する)

ナン「ピャー[*namˈpjaː*] (名)

(植) しばふ (芝生)。ナン「ピャー ウイン[*namˈpjaː ʔuin*] (芝生を植える)

ナン「ベラーヤ[*namˈbeːraː*] (名)

(植) へちま (糸瓜)。ナン「ベラーヤ カーリーン[*namˈbeːraːja kaːriːŋ*] (糸瓜は食べられる)。ナン「ベラーヤ」 ンブ「シーツチャー」 ンマ「スアタスア」[*namˈbeːraːjaˈ ʔmbuˈʃiːtʃaːˈ ʔmmaˈɾataːaː*] (糸瓜は煮物にしたら美味しかった)。「ナンベラーヤンブシー」[*ˈnambeːrambuʃiː*] (糸瓜の煮物)。「ナンベラーヤ トクイール トクマンガル」 トク「イタル ムロー」 トク「ランタン」[*ˈnambeːraja tukuin tukumangaruˈ tukuˈitaru muroːˈ tukuˈrantaŋ*] (糸瓜は作るどころ<家>が作った。みんな<全家庭>は作らなかった)。「ナンベラーヤン」 シン「チ イッタイ」 ンブ「シーツチル ケータル」[*ˈnambeːraŋˈ ʃinˈʃi ʔittaiˈ ʔmbuˈʃiːtʃiru keːtaru*] (糸瓜もお汁に入れたり、煮つけにして食べたよ)

「ニー」[*ˈniː*] (名)

根。木の根。「ニーヌ」 プカ「スア」[*ˈniːnuˈ pukaˈɾaŋ*] (根が深い)。「ヒーヌ」 「ニー」[*ˈçiːnuˈ ˈniː*] (木の根)。「ニー」 「プフィン」[*ˈniː ˈp̄uin*] (根を掘る)

ニギ「ヤー[*nigiˈjaː*] (名)

芋を搗って澱粉を取り、その糟を握って天日乾燥したもの。これを保存食にしたり、あるいは常食にすることもあった。「ニギヤーアンデー」[*ˈnigijaːʔandeː*] (ニギヤーを粥状に炊いたもの)を食する家庭は、ピンスー「キネ」ー[*p̄insuːˈkineː*] (貧乏家庭)といわれていた。ミカ「シャー」 ニギ「ヤー」ハンメー シュスア「ウブ」[*mikaˈʃaːˈ nigiˈjaːˈp̄ammeː ʃuːsaːˈ uːb*] (昔はニギヤーを食糧にする人が多かったよ)

ニン「ジャナ」[*ninˈʃana*] (名)

芋を煮て捏ねておにぎり団子にしたもの。ンム「クリニンジャナ」[*ʔmmuˈkurininʃ*]

ana] (芋を輪切りにして天日乾燥したものを煮て、潰して捏ねたもの) の二種類があった。団子にしないで、羊羹のように切って食することもあった。

ヌ「ビ」ン[nu「bi」ŋ] (動)

伸びる。ヌ「ビラン」[nu「biraŋ] (伸びない)。「ヌルー」ン[nuru:ŋ] (伸びている)。
ヌ「ビーヤ」[nu「bi:ja] (伸びたら)。「プフルヌ」ヌルー[n「pΦuru」uru:ŋ] (身長が伸びている)。「ユラヌ」ヌルー[n「juranu」uru:ŋ] (枝が伸びている)。「アンチャー」スア「キ」プフル「ウチャー」ティ[n「ʔanʃo:」ra「ki」pΦuru「ʔuʃa:」ti] (あの人は身長と体格<背丈>の均整がとれた人だ)

「ネー」イン[n「e:iŋ] (動)

しおれる(萎れる)。「オーブハ」ネー「トゥーン」[「ʔo:pΦa」ne:「tu:ŋ] (野菜が萎れている)。「ネーティ」ナーン[n「e:ti」na:ŋ] (萎れてしまった)。「ネー」ティ「イキ」ン[n「e:ti」ʔiki」ŋ] (萎れていく)。「ネー」ラン[n「e:」raŋ] (萎れない)。「ナマ」ネー「ラン」[「nama」ne:「raŋ] (まだ萎れない)。「ネー」タ「ナー」ン[n「e:」ta:「na:」ŋ] (萎れてはない)。「ヤシェーヌ」ネー「イン」バー「イヤ」ミリ「ハキ」ランバ[n「jaʃe:nu」ne:「im」ba:「ija miri」haki「ramba] (野菜が萎れるときは水を掛けないといけないよ)。「アンサンニーヤ」ハリーンロー[n「ʔansanni:ja hari:nro:] (そうしないと枯れるよ)

ハーシャ「ギー」[ha:ʃa「gi:] (名)

(植) オオハマボウ(ユーナ)。円形の葉は直径約15センチあり、芋団子を握ったり食物の皿の代用に使用された。また、ちり紙の無かった時代には、トイレットペーパーとしても利用された。ハーシャ「ギー」ヌ「ハナー」シュラ「スアン」[ha:ʃa「gi:nu」pΦana:」ʃura「raŋ] (ユーナ<オオハマボウ>の花は美しい)

「ハイ」ン[haiŋ] (動)

刈る。「ムジ」ハイ「ン」[「muʃi」haiŋ] (麦を刈る)。「ムジ」ハタン[「muʃi」hataŋ] (麦を刈った)。「ムジ」ハティ「フー」バ[n「muʃi」hati」Φu:「ba] (麦を刈ってきてなさい)。「ムジ」ハイヤー「エーリ」スィバ[n「muʃi」haija:」ʔe:ri「θiba] (麦を刈るなら合図しなさい)。「ムジ」ハタン「シャコー」エーリ「スィバ」[「muʃi」hataŋʃako:」ʔe:ri「θiba] (麦を刈ったなら合図しなさい)。「マジョー」イ「シャーマ」ムジ「ハラネー」[「maʃo:」i「ʃa:ma」muʃi「harane:] (一緒に麦を刈らないか)。「ワナー」ムジ「ハラン」[「wana:」muʃa:「haraŋ] (私は麦は刈らない)。「ヤーヤ」ムジ「ハリバ」[「ja:ja」muʃi「hariba] (君は麦を刈れよ)。「ワヌン」ムジ「ハイ」ン[「wanum」muʃi「haiŋ] (私も麦を刈る)。「スアガ」ムジ「ハイガ」[「ra:ga」muʃa:「haiga] (誰が麦を刈るか)。「ムジ」ハイ「ン」チュヌ「グラン」[「muʃi」hai」n「ʃun

u guraŋ] (麦を刈る人がいない)。「ヤーガ」 ムジ 「ハイヤー」 ワヌン 「ハイ
 スアー」[「ja:ga」 muɕi 「haija:」 wanuŋ 「haira:」] (君が麦を刈るなら私も刈
 るよ)。「ムジ」 「ハイガ」 イキン[「muɕi 「haiga」 ʔikiŋ] (麦を刈りに行く)。
 「ワヌン」 ムジ 「ハ」ティミン[「wanum」 「muɕi」 「ha」timi:ŋ] (私も麦を刈
 ってみる)。「ムジ」 「ハタン」[「muɕi」 「hataŋ] (麦を刈った)。「ムジ」 ハ「トウ
 タン」[「muɕi」 ha「tu:taŋ] (麦を刈っていた)。「ナマ」 ムジ ハ「トウ
 ン」[「na
 ma」 muɕi ha「tu:ŋ] (今麦を刈っている)。「ナマ」 ムジ ハ「トウ
 クトウ
 イキョースァン」[「nama」 muɕi ha「tu:kutu」 ʔikijo:raŋ] (今麦を刈っているの
 で行けない)。「ナマ」 スアーガ」 ハ「トウ
 ガ」[「nama」 ra:ga」 ha「tu:ga」] (今誰が刈っているか)。「アリーガ」 ハ「トウ
 クトウ」 スィ「ミン」[「ʔari:ga」
 ha「tu:kutu」 θi「miŋ] (あが刈っているから、いいよ)。「ムジヤ」 「アリガ
 ル」
 ハイ」[「muɕa:」 「ʔarigaru」 hairu] (麦はあれがぞ刈る)。「ワーガ」 「ハイビ
 スアー」[「wa:ga」 「haibi:ra」] (私が刈ります)。「アン」 「シャコー ヤー」 ハ「リバ」[ʔ
 aŋ「fako: ja:」 ha「riba」] (それなら君が刈れよ)

バシヤ「ナイ」[baʃa「nai」] (名)

(植) 島芭蕉。沖縄原産の芭蕉。台湾産よりも美味しい。バシヤ「ナヤ」 ウィン
 トクマン」 アイ ドウ「シャーマ ケン トクマン」 アタ「スアー」[baʃa
 「naja: ʔuin tukuman」 ʔai du:ʃa:ma ke:n tukumaŋ」 ʔata「ra:」]
 (芭蕉<バナナ>は売るところもあり、自家用にする<食べる>家も<ところ>もあ
 ったよ)

「ハッティ」[「hatti」] (名)

経験者。産婆の役目をしている人。取上げ婆。専門家。漢方医療の経験者。「勝手」
 の義。「アヌ ッチョー ハッティ」 ヤル[「ʔanu tʃo: hatti:」 jaru] (あの
 人は産婆の経験者<取上げ婆>である)。「アヌ アンマ」 ハッティ ヤン」シエ
 ール[「ʔanu ʔamma: hatti: jaŋ」 ʃe:ru] (あのお母さんは産婆の役目の経験者
 (取上げ婆) であられます)

「バハー」[「pʰa:」] (名)

は (葉)。植物の葉。「デークンヌ」 「バハー」[「de:kunnu」 「pʰa:」] (大根の葉)。ヒ
 ーヌ 「バハー」[「ci:nu」 「pʰa:」] (木の葉)。「バハーヌ」 ウッ」タン」[「pʰa:nu」 ʔut」
 taŋ] (葉が落ちた<落葉>)。ワッ」ター ミャー」ヤ 「バハー」ヌ 「ウティ」 「マン」
 ディ 「スオージ」 「スン」チ ナガ」レー」 ハカタン」[wat」ta: mja:」ja
 「pʰa:」nu」 ʔuti」 「man」di」 ʔθo:ɕi」 「sun」ʃi naga」re:」 hakataŋ] (私の家
 の庭は木の葉が沢山落ちて、掃除するのに長くかかった)

「バハ」タニ」[「pʰat」tani」] (名)

初種。久高島では従来、旧暦の11月に巳年生まれの人が、「ミーアムトゥ」[「mi:ʔa mutu」] (外間ニーッチュ、外間ノロ、久高ノロ) のノロ地と「ニーッチュ」ジエ[「ni: tʃuʔɕi:」] (根人の土地)、大里家の「ハタ」ス[「hataʔsu」] (五穀の入った壺を埋めたとされる) ところで、フボーウタキの近く、「ウプラトゥ」[「ʔupuratu」] <大里家> が管理している) に初種を下ろして後に、一般家庭では種蒔きをすることになっていた。「アスタンハリ」[「ʔaraŋhari」] (各家庭) の種蒔きは「バハッタ」ニの後に行われたのである。「ナママリーヤ」 シム「ティキヌ」 バハッタナー ミーヌ ッチュヌ ミーアムトゥヌ ニーッチュジエトウ」 ヌン「ジーカイ」 ムジヌ 「スアナー マチヌ アトウ」 ヤー「ヤーヤ」 スアナー 「マキタル」[「namamari:jaʔ ʃimu ʔtikinu ʔʔattana: mi:nu tʃunu mi:ʔamutunu ni:tʃuʔɕi:tuʔ nunʔɕi:kaiʔ muʃinu ʔrana: maʃinu ʔatuʔ ja:ʔja:jaʔ rana: ʔmakitaru」] (今までは霜月の初種は、巳年生まれの人がミーアムトゥの根人地とノロ地に麦の種を蒔いて後に、家々は種を蒔いたのだ)

「バハナ」[「ʔʔana」] (名)

(植) ①はな(花)。「バハナヌ」 「スアチャ」ン[「ʔʔananu ʔraʃaʔŋ」] (花が咲いた)。②花柳界の女性。辻の女性。これに対して一般家庭の女性は「ジク」[「ɕiku」] (家庭の婦女。「俗」の義か) という。「アンチャー」 バハナ 「ヤタツチスア」[「ʔanʃo:ʔ ʔʔana ʔjatatʃira:」] (あの人は遊女だったそうだ)

「バラカーガー」[「ʔʔaraka:ga:ʔmi:」] (名)

ほおずき (酸漿)。女の子が口に入れて音を鳴らして遊んだ。「バラカーガー」[「ミーナラ」]チ ア「スイルー」ン[「ʔʔaraka:ga:ʔmi: naraʔʃi ʔaʔθiru:ʔŋ」] (酸漿を鳴らして遊んでいる)。「ア」[「スイリ」] グン[「ʔaʔθiriʔgun」] (遊んでいる)

「バラカーム」ジ[「ʔʔaraka:muʔɕi」] (名)

(植) はだかむぎ (裸麦)。大麦。オオムギ (大麦) の変種で果実とエイ (穎) が離れやすいという。久高島ではこの品種しか栽培しなかった。

「バハン」[「ʔʔaʔŋ」] (名)

畑。「バハン」チ イ「キーン」[「panʔʃi ʔiʔki:ŋ」] (畑へ行く)

「バハンアツ」[「ʔʔaŋʔakʔkja:」] (名)

農夫。百姓。「畑歩き人」の義。畑仕事に従事する人の義。

「バハン」[「ʔʔaŋʔkiŋ」] (動)

はじく (弾く)。剃刀で軽く額や背中 of 皮膚を切って血液を出す。「バハナシキ」チ 「ニティヌ」 アンバー「イヤ」ハン「トウイシャーマ」 ピ「チャイ」 「バハン」キタン[「ʔʔanaʃikiʔʃi ʔnitinu ʔamba:ʔija:ʔ hanʔtuisa:maʔ piʔʃaiʔ ʔʔaŋʔkiʔtan」] (風邪をひいて熱があるときは剃刀で額を弾いた<剃刀で軽く額の皮膚を切

って血液を出した>)

「バハンジー[^ɸʔanɕi:] (名)

チュジーの半分(約150坪)。女所帯の家に配分された。

「ハマーローエー[^ɸhama:ro:je:] (名)

竈神<火の神>に対する感謝の神事。各家庭が一年間、家族一同が健康に過ごすことが出来たことに対する感謝の祈願。旧暦12月24日に竈神が昇天され、大晦日に降臨されると信じられている。その12月24日のユク「ネー[juku^ɸne:] (夕方。午後6～7時頃。「アークロー[^ɸ?aka:kuro:]の時刻)に竈神<火の神>の前で行われる。供物は特にない。板香「チュユー[^ɸtju:ju:] (四枚、一束二十四本)をウカマ、トゥ^ɸハシリへ供え、床の神には十二本供える。

「バラ[^ɸbara] (名)

(植) バラ (薔薇)。観賞用植物。もともと久高島にはなかった植物で少数の家庭で庭木として植栽されていた。

「ハラ^ɸハイ[^ɸhara^ɸɸai] (名)

羅針盤。コンパス。「からはり (唐針)」の義か。進貢船時代に中国(明)より導入されたという。久高島から進貢船の船頭や船員が輩出したので、漁師たちは「ハラ^ɸハイを利用し続けているという。船の針路を決定する貴重な機器である。

「ハリーン[^ɸhari:ŋ] (動)

枯れる。^ɸヒーナ 「ハリーン[^ɸɕi:nu^ɸhari:ŋ] (木が枯れる)。「ハリラ^ɸン[^ɸharira^ɸŋ] (枯れない)。「ハリトゥー^ɸン[^ɸharitu:^ɸŋ] (枯れている)。^ɸナー 「ハリティ^ɸナーン[^ɸna:^ɸhariti^ɸna:ŋ] (もう枯れてしまった)。「キッサ ハリティ^ɸナーン[^ɸkissa^ɸhariti^ɸna:ŋ] (とっくに枯れてしまった)。「ダン^ɸダ^ɸン 「ハリティ^ɸイキシイガヤー[^ɸdan^ɸda^ɸŋ^ɸhariti^ɸ?iki^ɸθigaja:] (だんだん枯れていくがなあ)。「ハリー^ɸン バー^ɸイ[^ɸhari:^ɸm^ɸba:^ɸi] (枯れるとき)。「ハーヌ ミラー^ɸピヤーイ ナヤーマ 「ハリ^ɸティナーン[^ɸha:nu^ɸmira:^ɸpja:i^ɸnaja:ma^ɸhari^ɸtina:ŋ] (井戸の水は早になって枯れてしまった)。「チュタ^ɸイ^ɸン ^ɸナーン[^ɸtuta^ɸi^ɸn^ɸna:ŋ] (一滴もない)

「ハリバ^ɸー[^ɸhariba^ɸ:] (名)

枯れ葉。落ち葉。「ティプグ[^ɸtipugu] (枯れ葉)ともいう。「ハリバ^ɸーが沢山積もっているものをテプグという。

バンシ^ɸルー[^ɸbanɕi^ɸru:] (名)

ばんじろう (蕃石榴) の実。グワバ。久高島には野生のバンジロウが多かった。実は熟れると美味であり、芳香をはなつた。沢山食べると便秘の原因になるといわれていた。バンシ^ɸルーヤ^ɸ ヤシキ^ɸカイ^ɸ アントウク^ɸマン^ɸ アイ^ɸヌン^ɸジーヤ^ɸ ヤマ

「カイン」 アタ「スアー」[baŋʃi「ru:ja」 jaʃiki「kai」 ʔantuku「maŋ」 ʔai
 nun「ɕi:ja」 jama「kaiŋ」 ʔata「ra:」 (蕃石榴は屋敷内にあるところもあり、ノ
 ロ地や山にもあった)。バン「シルーヌ」 ナイ「ヤー」 ワラビン「シャー スアマス
 イー」 ヤタル[baŋ「firu:nu」 nai「ja:」 warabiŋ「fa: ɾama θi:」 jataru]
 (蕃石榴の実は子供達に配分<分け前>されたものであった)。バンシ「ルー」ヌ ナ
 「トゥーン」[baŋʃi「ru:」nu na「tu:ŋ」 (蕃石榴の実が生っている)。ヌン「ジー」ヌ
 バンシル「ギー」ヤ ナイ 「マンドウークトゥ」 ムイガ 「イカナ」[nun「ɕi:」n
 u baŋʃiru「gi:」ja nai 「mandu:kutu」 muiga 「ʔikana」 (ノロ地の蕃石榴
 の木は実が沢山生っているので挽ぎに行こうよ)

「ヒー」[「ɕi:」 (名)

(植) 木。樹木。「チンタクギー」[「ʃintakugi:」 (ガジマル。榕樹)。「ヒーヌ」 ミー
 「トゥーン」[「ɕi:nu」 mi:「tu:」ŋ] (木が生えている)

「ヒーヌ」 ナカ「グイ」[「ɕi:nu naka「gui」 (連)

木の幹。木の中心となるところ。「ウヌ ヒー」ヤ ナカ「グイヌ」 チュー「スアヌ
 マットー」バ スアツ「チューン」[「ʔunu ɕi:」ja naka「guinu」 ʃu:「ɾanu mat
 to:」ba ɾat「ʃu:ŋ」 (この木は幹が強くて、真直ぐに立っている)

「ヒーヌ」 「ハー」[「ɕi:nu 「ha:」 (連)

木の皮。樹皮。「ヒーヌ」 「ハー」バ「ハギン」[「ɕi:nu 「ha: ʔɸagi」ŋ] (樹皮を剥ぐ)。

「シカチギーヌ」 「ハー」[「ʃikaʃigi:nu 「ha:」 (シャリンバイの樹皮)

「ヒーヌ」 「スウラ」[「ɕi:nu 「θura」 (連)

こずえ (梢)。「木末」の義。「ユダヌ スア」キ[「judanu ɾa」ki] (枝の先、先端)。
 ヒーヌ 「ユラヌ スアキカイ」 ʔホー「ターヌ」 スィー 「トゥクティ」 グン
 [「ɕi:nu 「juranu ɾakikai」 ʔɸo:「ta:nu」 θi: 「tukuti」 guŋ] (木の枝の先
 にく梢に>鳩が巣をつくっている)。「スィー」 「トゥクティ」 グ「スィガ」 ヤガテ
 イ」 フガ 「ナシュン」 バハリ「ロー」[「θi: 「tukuti」 gu「θiga jagati」 ʔu
 ga 「naʃum」 ʔɸari「ro:」 (巣を作っているが、やがて卵を産むだろう<生むはず
 だ>)

「ピザイサンニ」[「piʒaisanni」 (名)

祈願に用いる平たいおにぎり。直径約10センチ、厚さ約3センチ程度に握ったもの。

「ピジュイ」[「piʒui」 (名)

体の冷え込み。病気の原因となる体の冷え込み。冷え性。破傷風。「ピンノー」 ピ
 ジュ「イヌ」 クス「イ」 ヤル[「pinno:」 piʒu「inu」 kusu「i」 jaru] (にんにく
 <大蒜>は冷え性の薬である)

ヒティミ「ティムン」[ɕitimi「timuŋ」 (名)

朝食。朝ご飯。「つとめてもの」の義。ヒティミティ「ムノー チャー」 シチジ
「マンガラル ケータル」[çitimiti ʔmuno: ʃa: ʃiʃiçi ʔmaŋɡuraru ke:taru]
(朝食はいつも7時ごろに食べたよ)

「ピコン」[ʔpi ʔŋ] (名)

(植) ニンニク (大蒜)。自家用として、久高島では戦前から栽培していた。砂糖漬
けにして保存した。泡盛の酒漬けにする人もいた。「ピンザ」キ「pinða ʔki」(蒜酒)
は瓶に大蒜をいれ、それに酒を入れて二週間以上おいて飲んだ。「ピジュイ」[ʔpiç
ui] (冷え症)や風邪予防に飲むと効果があった。「バハナ」シキ「ʔpʰana ʃiki」(風邪)
の予防のため、大蒜の実に糸を通して数珠にし、それを首に掛けた。

「ピンザ」キ「pinða ʔki」(名)

大蒜酒。「蒜酒」の義。大蒜を泡盛酒に漬けたもの。薬用として愛飲した。「ピジュ
イ」[ʔpiçui] (冷え性)や風邪、破傷風に効くといわれている

「ビラ」[ʔbira] (名)

(植) ニラ (菰)。普通の菰。キリ「ビラ」[kiri ʔbira]のこと。キリ「ビラー」 スェー
「ゲー」 ヤシキ「ウチカイル ウイタル」[kiri ʔbira: ʔ ʰe: ʔge: ʔ jaʃiki ʔʔuʃikai
ru ʔuitaru] (菰は、大概是屋敷内に植えたものだ)

ピル「マームン」[ʔpiru ʔma:mun] (名)

昼食。「昼間もの」の義。ピル「マー」[ʔpiru ʔma:]ともいう。ピル「マーヤ」 ウ「ミ」チ
ン「ジャイ スクトウ ジカノー」 スアダ「マランタン」[ʔpiru ʔma:ja ʔu ʔmi ʃi
ʔn ʔçai sukutu ʔçikano: ʔ ʔada ʔmarantaŋ] (昼間は海に行ったりするから時
間は定まらなかった)

「ビワ」[ʔbiwa] (名)

(植) ビワ (枇杷)。久高島では戦前、浜福治家にだけ植栽されていたが、「屋敷に
植えるものではない」という人がいて切り倒した。幼少の頃、大きな実が生って
いた。「ビワヌ ヒーヤ」 ワツ「ター ヤービケーンカイル」 アタル「biwanu ʔi:ja
wat ʔta: ja:bike:ŋkairu ʔataru」(枇杷の木は私の家にだけしかなかった<家
にばかりぞありたる>)

ブー「ブー」[bu: ʔbu:] (名)

しゃけつ (瀉血)。漢方治療の一つ。治療の目的で背中などの患部を泡盛で消毒し、
剃刀で軽く皮膚に切り傷をつけ、ガラスコップかコップ状に切った竹筒に度数の強
い酒を入れ、それに点火して患部の切り傷の上に被せる。アルコールが燃えきって
真空状態になると体内の静脈より血液が吸い出される。それによって患部の治療が
出来るという昔から民間に伝えられた治療法。「ウチチャンメー フシカイ」 ブ
ー「ブー スウラシュタン」[ʔʔuʃiʃijamme: ʔuʃikai bu: ʔbu: ʰuraʃutaŋ]

(打撲傷には背中に瀉血をさせた<ブーブーを取らせた>)。ウチ「チ スォーンムヌ バーイヤ」 ブー「ブー スウラシュタン」 ベハリ [ʔuʃi ʃi θo:mmunu ba:ija] bu: ʔbu: θurafutam ʔʔari] (打撲傷をしている場合はブーブー<瀉血>を取らせたはずだ)

「プシ」 [ʔuʃi] (名)

ふし (節)。竹の節。「ダキヌ プシ」 [ʔdakinu ʔuʃi] (竹の節)。「プシヌ マギ」 スァン [ʔʔuʃinu magi ʔraŋ] (節が大きい)。「ウヌ ダキヌ プシャー」 マギ」 スァン [ʔʔunu dakinu ʔuʃa: ʔ magi ʔraŋ] (この竹の節は大きい)

「フシカ」ブ [ʔʔuʃika ʔbu] (名)

大根を細く千切りにし、天日乾燥して保存したもの。デー「クン スィッティ」 フシ「カブ ナチ」 ハー「ミカイ」 スァ「ブイン」 [de: ʔkuŋ θitti ʔʔuʃi ʔkabunaʃi ha: ʔmikai ʔra ʔbuiŋ] (大根を摺ってフシカブにして乾燥し、甕に入れて保存する)

「ブ」ティ [ʔbu ʔti] (名)

くき (茎)

「フバ」 [ʔʔuba] (名)

(植) ビロウ (蒲葵)。フバは神木とされ、お嶽 (聖域) には必ず自生している。葉は蓑や笠、扇、釣瓶などを作るのに利用される。オー「ジャー フバナ ベハーシャーマル」 トウクイタル [ʔo: ʔʔa: ʔʔubanu ʔʔa:ʃa:maru ʔtukuitaru] (扇はクバの葉で<ぞ>作った)。クラカ「ジマー フバナヒーヤ」 マン「ドゥーン」 [kuraka ʔʔima: ʔʔubanuʃi:ja ʔman ʔdu:ŋ] (久高島はクバの木が多い)。ミカ「シャー フバジマツチン」 イ「ヤットゥーン」 [mika ʔʃa: ʔʔubaʃimatʃiŋ ʔi ʔjattu:ŋ] (昔はクバ島とも言われている)

フバハ「グスァ」 [ʔʔuʔʔa ʔgura] (名)

(植) オヒシバ (雄日芝)。路傍に生える強靱な雑草。茎は扁平で葉は細く、色は濃緑で細長い。「硬草 (力草)」の義か。

「プフー」 [ʔʔu:] (名)

穂。植物の穂。「ムジヌ プフー」 [ʔmuʃinu ʔʔu:] (麦の穂)。「ムジヌ プフーヌ」 ング「タン」 [ʔmuʃinu ʔʔu:nu ʔŋgi ʔtaŋ] (麦の穂が出た)

フフ「ティ」 [ʔʔu ʔti] (名)

もぐさ (艾)。よもぎ (蓬) を乾燥して綿のようにしたもの。これに火をつけて灸治をする。ヤ「チュー」 [ja ʔʃu:] (お灸) に用いる。「ヤーチューヤ」 フフティ 「ティキティ」 ル シュル [ʔja:ʃu:ja ʔʔuti ʔtikiti ʔru ʔʃuru] (お灸は艾を付けて<ぞ>すえる<する>のだ)

プフティ「バー」[pʰuti ʔba:] (名)

(植) よもぎ (蓬)。プフティ「バーヌ」 ミー「トゥーン」[pʰuti ʔba:nu mi: ʔtu:ŋ] (蓬が生えている)。プフティ「バーヤ」 クスイ 「ナイン」[pʰuti ʔba:ja kusui ʔnaiŋ] (蓬は葉になる)。プフティ「バー シギチ」 ヌマチ 「ニティ」 「スアマスィミー」[pʰuti ʔba: ʃigiʃi numafi ʔniti ʔrama θimi:ŋ] (蓬を煎じて飲ませて解熱く熱を冷まさせる)。「バハナシキン バーイヤー」 プフティ「バー シギチ」 ヌマシュ「タン」[ʔpʰanaʃikim ba:ija: ʔpʰuti ʔba: ʃigiʃi numafu ʔtaŋ] (風邪のときには蓬を煎じて飲ませた)

プフ「ルイン」[pʰu ʔruin] (動)

成長する。育つ。大きくなる。プフ「ルイトゥーン」[pʰu ʔruitu:ŋ] (成長している)。プフ「ルイラン」[pʰu ʔruiran] (成長しない)。「ナマ」 プフ「ロー」 イ「カン」ムンヌ「[nama ʔpʰu ʔro: ʔi ʔkam ʔmunnu] (まだ背丈が伸びていない)。プフ「ルイチャン」[pʰu ʔruifʃaŋ] (成長した)。ウツ「ピル」 プフ「ルイル」[ʔup ʔpiru ʔpʰu ʔruiru] (それだけしか成長しない<それだけぞ成長する>)。ジョー「ブン」 プフ「ルイトゥーン」[ʔo: ʔbum ʔpʰu ʔruitu:ŋ] (十分成長している)

「プフルワーシュン」[ʔpʰuruwa:ʃuŋ] (動)

養育する。成長させる。育てる。ティカ「ネーン」[tika ʔne:ŋ] (養う)と同じ意味。

「フミ」[ʔʰumi] (名)

米。「フミ」ホー「ティ」フー「バ」[ʔʰumi ho: ʔti ʰu: ʔba] (米を買ってこいよ)。「フミヤー」 マチャ「グワーヤ」 ユラ「バンド」ホー「ティ」 シャー「マル」ウイタル「[ʔʰumja: ʔmafija ʔgwa:ja ʔjura ʔbanda ho:ti ʃa: ʔmaru ʔuitaru] (米は小売店が与那原から買ってきてから売っていたよ)。

「ボーコー」[ʔbo:ko:] (名)

(植) 芋の一品種。「ボーコーンム」[ʔbo:ko:ʔmmu]のこと。クダカ「カヤー」ボーコー「チュヌ」 ナーヌ「ンムヌ」 アタン[kudaka ʔkaja: bo:ko: ʔʃunu ʔna:nu ʔmmunu ʔataŋ] (久高島にはボーコーという名の芋があった)

「ホーブシ」[ʔho:bʃi] (名)

(植) 雑草の一種。力草。「ホーブシヌ」 ミー「トゥーン」 ピ「キグッシャ」ヌ「[ʔho:bʃinu mi: ʔtu:m pi ʔkiguʃʃa ʔnu] (力草が生えている。引き抜きにくい)

「ホーレーグ」スウ「[ʔho:re:gu ʔθu] (名)

(植) とうがらし (唐辛子)。酒に漬けて飲用した。「高麗胡椒」の義。ホーレー「グスオー」 ハラスアン[ho:re: ʔgu θo: ʔhara ʔraŋ] (唐辛子は辛い)

マ「ブツ」チ「[ma ʔbut ʔʃi] (名)

麦の穂祭り。旧暦1月中旬に行われる。麦の収穫祭は3月中旬に行われる祭祀でサ

ン「グワティマティ」[saŋ ʔgwatimati:]という。粟の穂祭は5月中旬にある。久高島の祭りは、ミズノエ（壬）、ミズノト（葵）、キノエ（甲）、キノト（乙）の間に行われる。ひと月の中の「ミンニー」[ʔminni:]（壬、葵）に日取りをする。粟の収穫祭は、6月中旬に行われるルク「グワティマティ」[ruku ʔgwatimati:]（六月祭り）である。

「マ」ミ[ʔma mi]（名）

（植）まめ（豆）の総称。「スオープマ」ミ[ʔθo:puma mi]（大豆。豆腐豆）。「オーマーミー」[ʔo:ma:mi:]（緑豆。萌やしの原料）。アカマー「ミー」[ʔakama:ʔmi:]（小豆「赤豆」の義）。「インドーマーミ」[ʔindo:ma:mi]（豌豆。「豌豆豆」の義）

「マンナーリン」[ʔmanna:riŋ]（動）

呪文を唱えて悪霊を祓う。「マンナ」ティ スウラシン「ショーリバ」[ʔmanna ti θuraʔiŋ ʔfo:riba]（お祓いをしてください）。「スイーンユタ」[ʔθi:njuta]（各家庭の不定期の祭祀祈願を執り行う神女<巫女>で、家庭ごとに定められている）に依頼して悪霊祓いをした。朔日、十五日、祝日などにも依頼して、それぞれの祈願してもらった。

「ミー」[ʔmi:]（名）

め（芽）。「ミーヌ」 ンギ「タン」[ʔmi:nu ʔŋgi taŋ]（芽が出た）。「ミーヌ」 ンギティ 「シューン」[ʔmi:nu ʔŋgiti ʔʃu:ŋ]（芽が出てくる）

ミー「ビンナー」[mi:ʔbinna:]（名）

（植）のびる（野蒜）。「ミー」ビンナー ティリッ「チ」 「シン」チ 「イリリバ」[mi:ʔbinna: tiritʔʃi ʔʃinʔʃi ʔʔiririba]（ノビル<野蒜>を摘んで、お汁に入れなさいよ）

ミー「ン」[mi:ʔŋ]（動）

生える。「ミー」ラン[mi:ʔraŋ]（生えない）。「ミー」トゥー「ン」[mi:ʔtu:ʔŋ]（生えている）。「ミー」タン[mi:ʔtaŋ]（生えた）。「クスアヌ」 ミー「トゥー」ン[ʔkuʔranu mi:ʔtu:ʔŋ]（草が生えている）。「クスアヌ」 「ミーヤー」 ピ「キ」バ「ヤー」[ʔkuʔranu ʔmi:ja:ʔ piʔkiʔbaʔja:]（草が生えたら引き抜きなさいねえ）。「ミー」トゥー「ン」シャコー チャーキチャーキ「ピ」カンバ[mi:ʔtu:ŋʃako: ʔʃa:kiʔʃa:kiʔ piʔkamba]（生えていたら、その都度引き抜きなさい）。「クスア」「ポーボー」 スイミター「ナラン」ドー[kuʔra ʔbo:bo: θimita:ʔ naran ʔdo:]（草ぼうぼうにしたらいけないよ）。「ミー」ン「バー」イヤ[ʔmi:ʔm ba:ʔija]（生えるときは）

「ミンブトゥカー」[ʔmimbutuka:]（名）

（植）野草の一種。食用となる。「ピヒ」ピヤナー[ʔpʰi:pijana:]（屁ひり菜）といって、これを食べると屁がよく出ることから命名されたという。島の何処にでも自生

していた。屋敷内にも自生していた。最近は食べる人もいない。

「ムーティ」[「mu:ti】(数)

六つ。「ムーティミー マリーヤ」 スィラ「スアー」[「mu:timi: mari:ja」 θira「ra:】(六つまでは済んだよ)

「ムジ」[「muʒi】(名)

(植) むぎ(麦)。大麦。久高島では麦は大変重宝された。味噌の原料としても用いられ、久高島の伝統祭祀にはなくてはならない重要な穀物である。昔は神酒も麦で造った。1月の麦の穂祭り、3月の麦の収穫祭には、麦を挽いてマ「ブツ」チ[ma「but」ʒi】(神に供える神饌)にしたり、「ムジアンデー」[「muʒiʔande:】(麦粥。供物の一つ)にして供えた。「アヌ べハノー」 ムジル 「ウイトウール」[「ʔanu pʰa no:」 muʒiru 「ʔuitu:ru】(あの畑には麦をうえてある)。「べハン」チ イ「キーン」[「pʰan」ʒi ʔi「ki:ŋ】(畑へ行く)

「ムジアンデー」[「muʒiʔande:】(名)

麦粥。麦で造ったお粥。供物として神前に供えられた。

ムジ「ジュ」[muʒi「ʒu:】(名)

麦を刈り取った後の畑。

「ムジン アン」デー」[「muʒiŋ ʔan「de:】(連)

麦のお粥。アチビーのような粥。麦を石臼で挽いて粉にし、それを粥状に煮たもの。村の神行事、家庭の祈願行事にも用いた。戦前までは、一般家庭の食事にも主食として供された。ミカ「シャー」 ムジヌ アン「デー」 ユー キ「ラッタン」[mika「ʃa:」 muʒinu ʔan「de:」 ju: ki「rattan】(昔は麦のお粥をよく食べさせられた)。久高島独特の伝統的食事。

ムチュー「グスア」[muʃu:「gura】(名)

野草の一種。

「ムム」[「mu」mu】(名)

(植) 桃。久高島には桃の木は生えていない。首里方言からの借用語であろう。

「ムム」グワーシ」[「mumu」gwa:ʃi】(法事に供える菓子)。「ムムグワーシャー」 ショー「コーンバーイル ウシャギール」[「mumugwa:ʃa:」 ʃo:「ko:mba:iru ʔuʃagi:ru】(桃菓子は法事<焼香>の時にお供えする)

「モーウイ」[「mo:ʔui】(名)

(植) うり(瓜)。瓜の一種。しろうり。キュウリに似た瓜で食用となる。露地栽培をした。

「モクマオー」[「mokumao:】(名)

(植) トキワギョリュウ。明治41年に台湾より導入されたものが防風林として各地

に広がっていったという。久高島では昭和10年以降に植林されたという。

ヤ「グルガー」[ja「guruga:」] (名)

聖泉の名。崖から湧出する水を溜めて井戸にしたところ。「フボ」ーウタキ[「Φubo」: ?utaki] (フボ御嶽) の近くにある。伊敷浜に五穀の種子を入れた壺が流れ寄ってきたとき、最初はその壺を取る事が出来なかったので、このヤグルガーで精進潔斎して再度その壺を取りに行ったところ、それを取る事が出来たという伝説のある聖泉。フボウタキは本来は「フバリカサア」[「Φubarikaṛa」]である。ワ「カリカサア」[wa「karikaṛa」]、「スイリリカサア」[「θiririkara」]、「フバリカサア」[「Φubarikaṛa」]の三つのイベがあり、それにヤグルガーが加わって、『琉球国由来紀』ではフボ御嶽と称している。

「ヤスエー」[「ja θe:」] (名)

野菜。「オーバ」ハ[?o:ɸa] (青葉) ともいう。「ヤスエー」 トウ「クイン」[「ja θe: tu「kuiŋ」] (野菜を作る)。「ヤスエー」 「ケン」[「ja θe: 「ke:ŋ」] (野菜を食べる)

「ヤニ」[「jani」] (名)

松脂。松の樹脂。戦前、久高島には青年団が植林した松林があったが、戦争で伐採され、現在はない。「シェンジェノー」 シェーネン「ダン」ヌ 「チュトウクマカイ ウイトウータヌ」 マティ「ギーヌ」 マン「ドウータスイガ ウヌ イクスアカイ グンヌ」 キヤー「ティ イキヤーマ ナマー」 チュキーン ナー「ン」[「ʃenʒeno:」 ʃe:nen「dan」nu 「ʃutukumakai ?uitu:tanu」 mati「gi:nu」 man「du:ta θi ga ?unu ?ikurakai gunnu」 kja:「ti ?ikja:ma nama:」 ʃuki:n na:「ŋ」] (戦前には青年団が一箇所に植えてあった松の木が沢山あったが、今次大戦で日本軍が伐採してしまって今は一本もない)

ヤマ「ムム」[jama「mumu」] (名)

ヤマモモ (山桃)。久高島にはなかったが四月～五月にかけて、グイー「クマジリ」[g ui:「kumaʒiri」] (越来間切) 方面より、乙女らが「バ」キ[「ba」ki] (竹箒) に山桃を入れ、頭に載せて運んできて、杓で計って売っていた。昔の初夏の風物詩であった。ヤマ「ムモー」 グィーク「マジリヌ」 アングワー「タガ」 キ「シャラ」 ナ「フワチ」 チー「ウイタン」[jama「mumo:」 guji:ku「maʒirinu」 ?angwa:「taga」 ki「ʃara」 na「Φaʃi」 ʃi: 「?uitaŋ」] (山桃は越来間切の娘達が汽車から那覇へ来て売っていた)

「ヤラ」ブ[「jara」bu」] (名)

(植) フクギ (福木)。樹木の成長は遅いが材質は頑強である。防風防潮林に最適で屋敷の周囲に植栽されている。家屋の建材としてもよく利用される。樹皮からは美しい黄色の染料がとれ、紅型などの染料に利用されている。「ヤラブギー」[「jarabug

i:]ともいう。ヤラブ「ギーヤ ボーフーガクイッチ」 ヤシキ「マーイカイ ウイト
 ー」ン[jarabu「gi:ja bo:Φu:gakuitʃi」 jaʃiki「ma:ikai ʔuitu:」ŋ] (フクギ
 は防風林として屋敷の周りに植えてある)。島の周囲にも植えてある。アンダヤラブ
 「ギー」[ʔandajarabu「gi:」] (テリハボク) の実は戦争末期にローソクの代用として利
 用したという。

ユク「ネー」[juku「ne:」] (名)

夕方。午後6時～7時ごろ。ユク「ネームン」[juku「ne:mun」] (夕飯)。ユク「ネール
 」 ハマーロー「エーヌ ウグワノー ウシャギール」[juku「ne:ru」 hama:ro:「j
 e:nu ʔugwano: ʔuʃagi:ru」] (夕方に<ぞ>ハマーロー「エー」の祈願を捧げる)

「ユダ」[「juda」] (名)

枝。木の枝。「ヒーヌ」 「ユダ」 グ「イン グティ」 スアムン 「シユン」[「gi:nu
 」「juda」 gu「in」 guti」 ʃamuŋ 「ʃuŋ] (木の枝を折る。折って薪にする)。オー「
 ギーヤ バハットウ ヤクトウ」 スウラ「ランタン」[ʔo:「gi:ja ʔɸattu jakutu」 θ
 ʊra「rantan」] (青木<生の木>は禁止されていたので採取出来なかった<取れなかつ
 った>)

ユ「ニ」ク[ju「ni」ku] (名)

麦焦がし。麦を煎って石臼で挽いて、粉にし、篩いにかけて作る。これに黒糖を削
 ってまぶし、お湯をかけてユニクにした。

ユンヌ 「バハニ」ー[「junnu」 「ɸani」:] (名)

(植) ゆりの花 (百合花)。3月下旬より4月上旬が百合の花の最盛期。カベール付
 近の原野に群生している。

「ワチャ」[「waʃa」] (名)

わき (腋)。「ワチャ」 ク「スグイン」[「waʃa ku「suguin」] (腋の下をこそぐる)

ワラ「グ」ティ[wara「gu」ti] (名)

わらじ (草鞋)。魚釣や、いさり (漁り) に行く時に履いて足を保護する履物。ワラ
 「グター」 アラ「ナシ シャーマル」 トウク「イタル」[wara「guta:」 ʔara「naʃi
 ʃa:maru」 tuku「itaru」] (草鞋はアラナシ<アダンの気根の繊維>で作った)

「ン」ギ[「ʔŋ」gi] (名)

とげ (刺)。「のぎ (鯁)」 「喉<のみど>にのぎ<鯁>ありて物え食はず」 (『古事
 記 上』) の義か。「アランバハヌ バハーヤ ムル ンギ」 ヤル[「ʔarumɸanu
 ɸa:ja muru ʔŋgi」 jaru] (アダンの葉はみんな刺だらけである)。ミカ「シャー
 アランバハヌ ハリバーヤ」 スアムン 「シュタクトウ ウリ スウイン」チ
 ユナグン「シャー スィーヤ」 スアキトウー「タスアー」[mika「ʃa: ʔaramɸanu
 hariba:ja」 ʃamuŋ 「ʃutakutu ʔuri θuin」ʃi junaguŋ「ʃa: θi:ja」 raki

tu:「tara:」(昔はアダンの枯れ葉は薪にしたので、それを取るために女性達の手はく刺>で擦過傷を受けていたく裂かれていた>)

「ンギャナ[「ŋjana」(名)

(植)ニガナ(苦菜)。ニガナを細かく下ろして、刺身に和えて食した。和え物にする菜。ンギャナ「ルネー[ŋjana「rune:」(ニガナの和え物)は祝い事には必ず出される料理。結婚式の前には、若い女の子(小学生)がンギャナを摘んできて、年配の女性がこれを細かく刻んで「スネー[「sune:」(和え物)を作った。久高島の東海岸べりには野生のンギャナが生えており、その苦味が強かった。親戚縁者が集まり、2、3日かけてバーキー一杯ものンギャナルネーを作った。ンギャナヌ「ニー[nɟjananu「ni:」(ンギャナの根)も酒に漬けて薬用として用いた。ンギャナ「ルネーシャーマ」ウトウ「ムチ スィバ[ŋjana「rune:ʃa:ma」?utu「muʃi θiba」(ニガナの和え物で接待しなさい)。ンギャナ「ズネー[ŋjana「ɬune:」(ニガナの和え物)ともいう。ンギャナ「ティミーガ」イキン[「ŋjana「timi:ga」?ikiŋ」(ニガナを摘みに行く)。ンギャナ「ティリ」チャン「マンドウータスアー[「ŋjana「tiri」ʃam「mandu:tara:」(ニガナを摘んできた。沢山あったよ)

「ンケーハリ[「ŋke:hari」(名)

「迎え風」の義。頭痛や発熱を起こす悪い風。悪霊が乗り移って病気を起こすと信じられている。「バハンラ」ヘー「イ」ー ニージ「ミチカイ ウスアーリヤーマ」ティ「ブンヌ」ヤリ「キヤーン」ナラン[「PΦanra he:「ji: ni:ɕi「miʃikai ?ura:rija:ma」ti「bunnu」jari「kja:n」naraŋ」(畑からの帰り道にニージ道で襲われて、頭痛がしてどうにもならない。「ヤー」チ「チカラ「チャーキ」アトー「ファーファーヤー」チ「ンジ「マンナーディタクトウ」ル「ノー」タル[「ja:ʔʃi「ʃikara「ʃa:ki」?ato:「Φa:Φa:ja:ʔʃi「?nɕi「manna:ditakutu」ru no:「taru」(家に来てすぐアトーファーファー<神人>の家に行ってお祈りをしてもらったく呪文を唱えて悪霊を祓ってもらった>ので治ったよ)

「ンミン[「mmin」(動)

熟れる。熟する。「うむ(膿む)」(『和名抄(3)』)の義か。「ンドウ」ン[「ndu:ʔŋ」(熟れている)。バシャ「ナイヌ」ンドウ「スイガ」ハー「カーンバ[baʃa「nainu」ndu:「θiga」ha:「ka:mba」(バナナが熟れているから、早く食べなさいよ)。バンスイ「ルー」ヌ「ンミ」ハントウ「スイガ[ban θi「ru:ʔnu mmi「hantu:θiga」(蕃石榴が熟れきっているよ)。「ンドウ」ン[「ndu:ʔŋ」(熟れている)。「ンダ」ン[「nda」ŋ」(熟れた)。バシャ「ナイヌ」ンディ[baʃa「nainu」ndi」(バナナが熟れて)。「ンマ」ン[「mma」ŋ」(熟れない)。「ナ」マ「ンマン[「na」ma mmaŋ」(まだ熟れない)。「ンマンクト」ナマー「ムラ」ラン[「mmaŋkutu nama:

「 mura 「raŋ] (熟れていないので、今はもがく挽が>れない)

「ンム[「?mmu] (名)

(植) いも (芋)。さつまいも。「ンム プフィン[「?mmu pʰiŋ] (芋を掘る)。久高島で栽培されていた芋の種類に「パナウティ[「panauti] (美味しい芋であった)。トゥマイ「クルー[tumai 「kuru:] (泊クルー)、ヒャ「クゴー[çaku 「go:] (百号) などがあった。「ンムヌ ユダ[「?mmunu juda] (芋の枝<芋蔓>)。「ハンド[「handa] (かずら<蔓>)。「ハンドバージュシー[「handaba:ʒu:ʃi:] (芋蔓の葉雑炊)。「ンムクリー[「?mmukuri:] (芋くず、芋の澱粉)。芋は輪切りにし、天日乾燥して保存した。これを煮て捏ね、「ンムクリニンジャラ[「?mmukurininçara]を作った。

「ンムクリ[「?mmukuri] (名)

いもくず。芋の澱粉。

「ンムクリニンジャラ[「?mmukurininçara] (名)

さつまいもを輪切りにして天日に干したものを粉にし、煮て捏ねたもの。「ニンジャラ[「ninçara]は「こねたもの」の意。

基礎語彙 第4分野 人体語彙

アカトウキ「ガー」[?akatu:ki「ga:」] (名)

早朝に井戸へ水汲みに行くこと。ミカ「シャー ハーチ ミリクミーガ イキスア
ー」 ユナグヌ 「シグトゥ」 ヤタクトゥ アカトウキ「ガーチ」 イキ「スイン」
ユナ「グンガル」 イキ「タル」[mika「fa: ha:ʃi mirikumi:ga ?ikira:」 juna
gunu「ʃigutu」 jatakutu ?akatu:ki「ga:ʃi」 ?iki「θi」 juna「gungaru」 ?iki
「taru」] (昔は井戸へ水汲みに行くのは女の仕事だからアカトウキガーへ行くのも女
が行ったものだ)

アカトウキ「バン」[?akatu:ki「baŋ」] (名)

暁の畑仕事。早朝の畑仕事。夏の暑いときには早朝に畑仕事をするのが慣わしであ
った。朝の8、9時ごろまでには一仕事を終えて帰宅した。その後に水汲み(ミリ
クミ)にいった。「アカトウキ」[?akatu:ki] (暁)に「バン」[pΦaŋ] (畑)が結合して
複合語(合成語)が形成されたもので、後接語の語頭子音[pΦ]が有声化したもの。

「アクビ」[?akubi] (名)

あくび(欠伸)。「アクビヌ」 ンギーン[?akubinu「 ?ŋgi:ŋ」] (欠伸が出る)。
「アラー」 クタン「ディティガ」 グラ 「アクビビカー」ン 「シュン」ドー[?ara:「
kutan「ditiga」 gura「?akubibika:」ŋ 「ʃun」do:」] (彼<あれ>は疲れているの
か、欠伸ばかりしている)。「アクビ」 シュン[?akubi「 ʃun」] (欠伸をする)

「アザ」[?aʒa] (名)

あざ(痣)。「アザヌ」 アン[?aʒanu「 ?aŋ」] (痣がある)。「ンマリーラヌ アザ
」[?mmari:ranu「 ?aʒa」] (生まれつきの痣)。「アヌツョー」 ンマリーラヌ アザ
ヌ」 アン[?anutʃo:「 ?mmari:ranu「 ?aʒanu」 ?aŋ」] (あの人は生まれつきの
痣がある)。「ドゥゲーリ」 ヤーマ ティンスイ チューク」 ウッチャーマ 「アザヌ」
ンギ「タン」[duge:ri「ja:ma tin θi ʃu:ku」 ?utʃa:ma「 ?aʒanu」 ?ŋgi「ta
ŋ」] (転んで膝を強く打って痣を作ってしまった<痣が出てきた>)

「アスイ」[?a θi] (名)

あせ(汗)。「アスイヌ」 ンギ「タン」[?a θinu「 ?ŋgi「taŋ」] (汗が出た)。「アスイ
ヌ」 ンギ「トゥー」ン[?a θinu「 ?ŋgi「tu:」ŋ」] (汗が出ている)

「アタイン」[?ataiŋ] (動)

当たる。食中毒する。「アタタン」[?atataŋ] (当たった。食中毒した)。「アラー」 ア
カナー」 カヤーマ アタティ ニン「トウースア」[?ara:「 ?akana:」 kaja:ma
?atati nin「tu:ra」] (あれはアカナーを食べて当って<中毒して>寝ているよ)。「
アタラン」[?ataran] (当たらない。食中毒しない)。「ヌー」 カティン」 アタ「ラン」[「

nu: katiŋ¹ ʔata¹raŋ] (何を食べても当らない<食中毒しない>)。「ヌー
カティン¹ ヘー¹ラン¹[¹nu: katiŋ¹ he:¹raŋ] (何を食べても肥えない)

アタ¹レーン¹[ʔata¹re:ŋ] (動)

誂える。「シシ¹ ケーブシャクトウ¹ ユナ¹バン¹チ¹ イキン¹ チュネー¹ シシ¹
「アタレーリバ¹[¹ʃiʃi¹ ke:buʃakutu¹ juna¹ban¹ʃi¹ ʔikin¹ ʃune: ʃiʃi¹
ʔatare:riba] (豚肉を食べたいから与那原へ行く人に肉を誂えなさい)。アタレ
ー¹ラン¹[ʔatare:¹raŋ] (誂えない)。アタレー¹タン¹[ʔatare:¹taŋ] (誂えた)。ア
タレー¹ラン¹キ¹バ¹[ʔatare:¹raŋ¹ki¹ba] (誂えるな)。アタレー¹ブシャ¹ン¹[ʔata
re:¹buʃa¹ŋ] (誂えたい)。アタレー¹イン¹チュ¹[ʔatare:¹in¹ʃu] (誂える人)

アツ¹キン¹[ʔak¹kiŋ] (動)

あるく (歩く)。アツ¹カン¹[ʔak¹kaŋ] (歩かない)。アツ¹チャ¹ン¹[ʔat¹ʃa¹ŋ] (歩
いた)。ナ¹ハラ¹ アラマ¹マリ¹ー¹ アッチ¹ チャン¹[na¹ʔhara¹ ʔarama¹ma
ri¹: ʔatʃi¹ ʃaŋ] (那覇から安座間まで歩いてきた)。「アツチャン¹[ʔatʃaŋ]
(歩いた)。「アツチャー¹ン¹[ʔatʃu:¹ŋ] (歩いている)。「アツキバ¹[ʔak¹kiba] (歩
きなさい)。「アツキ¹クワリバ¹[ʔakki¹kwariba] (歩きやがれ)。「アツ¹チャー¹ ナ¹
ラン¹[ʔat¹ʃa:¹ na¹ra¹ŋ] (歩いてはならない)。「ヤーガ¹ アツ¹キーンシャコ
ー¹ ワヌン¹ アツ¹キ¹スアー¹[ja:ga¹ ʔak¹ki:ŋʃako: wanuŋ¹ ʔakki¹ra:]
(君が歩いたら私も歩くよ)。「ガツ¹コーマリ¹ アツ¹キン¹[gak¹ko:mari¹ ʔak¹ki
ŋ] (学校まで歩く)。「ヤーガ¹ アツ¹キバ¹ ワヌン¹ アツ¹キン¹[ja:ga¹ ʔak¹ki
ba wanuŋ¹ ʔak¹kiŋ] (君が歩けば僕も歩く)。「アツ¹カン¹キ¹バ¹[ʔak¹kaŋ¹ki¹ba]
(歩くな)

ア¹ドゥ¹[ʔadu] (名)

かかと (踵)。「アル¹[ʔaru]ともいう。「ア¹ドゥ¹ ヤマシユン¹[ʔadu¹ jamaʃuŋ]
(踵を痛める)。「ア¹ドゥ¹ ヤマチャン¹[ʔadu¹ jamaʃaŋ] (踵を痛めた)。「ハ¹
チラ¹ イユ¹ クワーシガ¹ ンジュイー¹ ウイ¹ネー¹ ア¹ドゥ¹ ササツ¹ティ¹ ヤ
ミ¹タン¹[ha¹ʃira ʔiju kwa:ʃiga ʔnʃu:i¹ ʔui¹ne:¹ ʔadu¹ sasat¹ti jam
i¹taŋ] (徒で<歩いて>魚を釣りに行ったとき、海栗<ウニ>に踵を刺されて痛か
った)

ア¹ハナキヤー¹ニン¹ジ¹[ʔa¹ʔhanakja:¹nin¹ʃi] (名)

仰向けに寝ること。「ア¹ハナキン¹[ʔa¹ʔhanakiŋ] (仰向けになる)。「ア¹ハナカン¹
キ¹バ¹[ʔa¹ʔhanakaŋ¹ki¹ba] (仰向けになるな)。「イチバン¹ジャーカイ¹ ア¹ハナ
ティ¹ ニン¹トゥーン¹[ʔiʃiban¹ʃa:kai ʔa¹ʔhanati¹ nin¹tu:ŋ] (一番座で仰向
けになって寝ている)。「ユナグワラ¹ビヤー¹ ア¹ハナキヤー¹ニン¹ジャー¹ スァン
キバ¹[junaguwara¹bja:¹ ʔa¹ʔhanakja:¹ninʃa: raŋkiba] (女の子は仰向けにな

ってねるなよ)

「アビーン[「?abi:ŋ] (動)

叫ぶ。マギ「フィシャー マ アビー」ン[magi「?uiʃa:ma ?abi:ŋ] (大声で叫ぶ)。
マギ「アビー シュン[magi「?abi: ʃun] (大声で叫ぶ<大声する>)。マギ「グイ
シャー マ」 アビーン[magi「guiʃa:ma」 ?abi:ŋ] (大声で叫ぶ)。「スウースアラ
スター」ガラ アビー「トゥー」ン[「θu:rara ra:ŋ gara ?abi「tu:ŋ] (遠くで誰
かが大声で叫んでいる)

「アラ[「?ara] (名)

ほくろ (黒子)。「アザ[「?aʔa] (黒子) ともいう。

「アレーガミ[「?are:gami] (名)

女性が洗髪後、髪を解き下げたままにしたもの。「洗い髪」の義。イザイホーの祭り
に初参加する女性はアレーガミ姿で両ノロ家へ行った。久高ムラの方は久高ノロの
家へ、外間ムラの方は外間ノロの家に行った。「イザイホー」ン 「バーイ」ン 「ナンチュ
「ターヤ アレーガミ ッチル」 「フカマ」 「クダカヌ アムトゥ」 「チャー イキタ
ロ[「?iʔaiho:m ba:i」 nanʃu「ta:ja ?are:gami tʃiru」 ʔukama 「kudaka
nu ?amutu「ʃa: ?ikitaro] (イザイホーの時は、ナンチュ達はアレーガミ姿で外
間、久高のアムトゥへ行った)。ユナグン「シャーヤ」 ハリリ 「アラティカラ ハ
ーラカシュン」チ 「ナゲー ハカイタ」 「スター[junaguŋ「ʃa:ja」 hariri
「?aratikara ha:rakaʃun」 ʃi 「nage: hakaita「ra:」] (女性達は髪を洗ってから
乾かすのに長くかかったよ)

アンダー「ギー[「?anda:「gi:] (名)

油揚げ。揚げ菓子。サーターアンダー「ギー[sa:ta:ʔanda:「gi:] (菓子の名。麦粉を
水で捏ね、黒糖を混ぜて油揚げにしたもの)、ハタハラ「ンブー[hatahara「?mbu:]
(片側が大きい、無糖のテンプラ) 等がある。アンダーギーだけを皿に入れて客に出
すものを「ハラザカナ[「haraʔakana] (から肴) という。普通の刺身に対して用い
られた。

「イー[「?i:] (名)

い (胃)。「イー」ヌ 「ヤリ[「?i:ŋ nu 「jari] (胃が痛い)。普通は、「ワタヌ 「ヤ
リ[「watanu 「jari] (腹が痛い) のようにいう。「ワタヌ 「ヤリ 「ビョーイン」
ジ 「ミシティ」 「フー[「watanu 「jari 「bjo:in」 ʔi 「miʃiti 「ʔu:] (腹が痛い
ので、病院で診てもらって来よう<見せて来よう>)

「イキ[「?iki] (名)

息。「イキ」 「チュー」ン[「?iki 「ʃu:ŋ] (生きている<息をしている>)。「アラ
ー」 イキ 「チューイヤ[「?ara:ŋ ?iki 「ʃu:ija] (あれは生きてるか)。「ア

ラー^ㄨ ミカ^ㄨ「シンチュ ナトウースァ」[^ㄨ?ara:^ㄨ mi:kə^ㄨʃinʃu^ㄨ natu:ɾa:] (あれは昔の人になっている<死んでいる>よ)。^ㄨイキ^ㄨ「スウマイン」[^ㄨ?iki^ㄨ ʃumain] (息が止まる。死ぬ)。イキ^ㄨ「ゲースァン」[^ㄨ?iki^ㄨge:ɾaŋ] (息苦しい)。「アラー^ㄨ イキヌ ナガ^ㄨ「スァヌ」 ユー^ㄨ「スイミン」[^ㄨ?ara:^ㄨ ?ikinu naga^ㄨɾanu^ㄨ ju:^ㄨ ʃimin] (あれは息が長くてよく潜ることができる)

イキ^ㄨ「ゲースァン」[^ㄨ?iki^ㄨge:ɾaŋ] (形)

息苦しい。「ジッピル スイミーヤ^ㄨ イキゲー^ㄨ「シャヌ アガ^ㄨティ シュー^ㄨ「スァー」[^ㄨʃippiru ʃimi:ja^ㄨ ?ikige:^ㄨʃanu ?aga^ㄨti ʃu:^ㄨɾa:] (十尋潜ったら息苦しくなって、あがってくるよ)。「スウシ^ㄨ「スウイシンデー」 スイミ^ㄨ「ヨースァン ナ^ㄨティ シューン」[^ㄨθu:ʃi^ㄨ ʃuiʃinde:^ㄨ ʃimi:jo:ɾan na^ㄨti^ㄨ ʃu:ŋ] (年をとるにつれて潜れなくなってくる)

「イキン」[^ㄨ?ikin] (動)

いきる (生きる)。^ㄨビヤーク^ㄨ「マリ」 イキン^ㄨ[^ㄨpɕja:ku^ㄨ ʃari^ㄨ ?ikin] (百歳まで生きる)。^ㄨイ^ㄨ「カン」[^ㄨ?i^ㄨkaŋ] (生きない)。「イキチャン」[^ㄨ?ikiʃaŋ] (生きた)。^ㄨイキ^ㄨ「タン」[^ㄨ?iki^ㄨtaŋ] (生きた)。「アンチュン^ㄨ ビヤーク^ㄨ「マリ」 イキ^ㄨ「タン」[^ㄨ?anʃum^ㄨ pɕja:ku^ㄨ ʃari^ㄨ ?iki^ㄨtaŋ] (あの人も百歳まで生きた)。^ㄨイキー^ㄨ「ヤー」 ウイ^ㄨ「エー シュン」[^ㄨ?iki:^ㄨja:^ㄨ ?ui^ㄨje: ʃuŋ] (生きたらお祝いをする)

イチバン^ㄨ「ドウイ」[^ㄨ?iʃiban^ㄨ ʃui] (名)

一番鳥。夜明けごろ一番に鳴く鶏。一番鶏鳴。暁ごろの鶏鳴。午前四時頃の鶏鳴。時刻を告げる鶏鳴。これによって時刻を知り、起床して夜明けの作業を開始するのが常であった。イチバン^ㄨ「ドウイヌ ウテーバル」 ミカ^ㄨ「シャー ハーチャー ミリ クミーガ イキタロー」[^ㄨ?iʃiban^ㄨ ʃuine^ㄨ ?ute:baru^ㄨ mi:kə^ㄨ ʃa: ha:ʃa: miri kumi:ga ?ikitaro:] (一番鶏が鳴いたら、昔は井戸へ水汲みに行ったよ)。^ㄨニバン^ㄨ「ドウイ」[^ㄨniban^ㄨ ʃui] (二番鶏鳴。朝の五時ごろに鳴く鶏)

「イミ」^ㄨ「ミーン」[^ㄨ?imi^ㄨ ʃmi:ŋ] (連)

夢をみる。「イミ」^ㄨ「ミシラッタン」[^ㄨ?imi^ㄨ ʃmiʃirattaŋ] (夢を見せられた)。「イミ」^ㄨ「ミシラリヤーマ」 ウミ^ㄨ「カイ マーツチャヌ ファーフジヌ クヨーウグワン シミタン」[^ㄨ?imi^ㄨ ʃmiʃirarija:ma^ㄨ ?umi^ㄨ ʃkai ma:tʃanu ʃa:ʃuʃinu kujo:ʃugwan ʃimitaŋ] (夢を見せられて、海で亡くなった先祖の供養をさせた)。「イ^ㄨ「ミ」[^ㄨ?i^ㄨmi] (夢)

イユヌ^ㄨ「ミー」[^ㄨ?ijunu^ㄨ ʃmi:] (名)

うおのめ (魚の目)。足の裏に出来る豆粒状のもの。押すと痛む。ピ^ㄨ「シャヌ ワタカイ」 イユヌ^ㄨ「ミーヌ」^ㄨ「ンギ」^ㄨ「トウーン」[^ㄨpi^ㄨʃanu watakai^ㄨ ?ijunu^ㄨ ʃmi:nu^ㄨ ʃŋgi^ㄨtu:ŋ] (足の裏に魚の目が出ている<魚の目ができている>)

イラ「チャ[?ira ʃa] (名)

ふけ(雲脂)。イラ「チャヌ」 ウブ「スアヌ」 ゴースアヌ」 キャー「ン」 「ナラン[?ira ʃanu ʔupʰu ʔranu go:ʔranu kja:ʔn ʔnaraŋ] (ふけ<雲脂>が多くて、痒くてたまらない<どうにもならない>)。イラ「チャヌ」 マンディ」 ティブン」ヌ」 ゴー「スアヌ」 キャー「ン」 「ナラン[?ira ʃanu mandi tibun ʔnu go:ʔranu kja:ʔn ʔnaraŋ] (ふけ<雲脂>が多く、頭が痒くてたまらない<どうにもならない。仕方がない>)。ティブ「ノー」 イラチャ」ヌ」 マンディ」 ゴー「スアヌ」 キャー「ン」 「ナラン[tibu ʔno: ʔiraʃa ʔnu mandi go:ʔranu kja:ʔn ʔnaraŋ] (頭はふけ<雲脂>が多くて、痒くて困る<どうにもならない>)

「イリガスア」[ʔirigaʔa:] (名)

はしか(麻疹)。5～6才位の幼児に多く感染する病気。発熱と斑点様の赤い発疹がともなう。一度罹患すると免疫が出来るといわれている。「イリガスア」 ハカ」タン[ʔirigaʔa: haka ʔtaŋ] (はしか<麻疹>に罹った)

ウイ「ギン[?ui ʔgin] (動)

泳ぐ。ウイ「ガン[?ui ʔgan] (泳がない)。「ウイジャン[ʔuiʃaŋ] (泳いだ)。「ウイギブシャン[ʔuigibuʃaŋ] (泳ぎたい)。「ウイ「ギーヤー[?ui ʔgi:ja:] (泳いだら)。「ワナー」 ウイ「ギーヨースァン[ʔwana: ʔui ʔgi:jo:ʔraŋ] (私は泳げない)

ウイ「ビ[?ui ʔbi] (名)

指の総称。「ウブフユ」ビ[ʔupʰuju ʔbi] (親指)。「ツ」チュテイキユ」ビ[t ʃutikiju ʔbi] (人差し指。食指)。「ナカ」ユビ[naka ʔjubi] (中指)。「ナーンナーヌ」[na:nna:nu] (名無し指。薬指)。「ウイビ」グワー[ʔuibi ʔgwa:] (小指)。「ウイ「ビヌ」」 スリ」トウ」ン[ʔui ʔbinu ʔsuri ʔtu:ʔŋ] (指が揃っている)

ウイビ「グワー[ʔuibi ʔgwa:] (名)

小指。恋人。「アラー」 ウイビ「グワーヤ」 タイ」 ミツ」チャイ」 グン」ドー[ʔara:ʔ ʔuibi ʔgwa:ja ʔtai mit ʃai ʔgun ʔdo:] (あれは、彼女<恋人>は二、三人いるよ)。「ウイビ「グワーヤ」 アマフマカイ」 グン」ドー[ʔuibi ʔgwa:ja ʔamaʰu makai ʔgun ʔdo:] (彼女<恋人>はあちらこちらにいるよ)

「ウインダカリ[ʔuindakari] (名)

上の村。外間村を指す。「上の村別れ」の義か。外間村の上の方を「ウインダカリ[ʔuindakari]という。「シャンドカリ[ʃandakari] (村の下方。久高村のあるところを指す。「下の村別れ」の義か)

ウキー「ン[?uki:ʔŋ] (動)

起きる。ウキ「ラン[?uki ʔraŋ] (起きない)。「チャッ」スア」 ウクチン」 ウ」キラン[ʃaʔ ʔra ʔukufiŋ ʔu ʔkiran] (いくら起こしても起きない)。「ウキ」タン[?uki

「taŋ] (起きた)。ウキ「トゥーン[ʔuki「tu:ŋ] (起きている)。ウキティ「ギチュー
ー」ン[ʔukiti「giʃu:ŋ] (起きて座っている)。ウキー「ヤー」エーリ「スイバ[ʔ
uki:「ja:ŋ ʔe:ri「θiba] (起きたら合図しなさい)

「ウスイブ[ʔuθibu] (名)

盆の窪。乳幼児の頭髪を盆の窪の所だけ残して魔除けとする習慣があった。「ウス
イボー」マミ「ティリシャーマ ウッチン ヒー」ン「バーン」アッチクトウ
「マーチン フイチン」ムノー「ナギラ」ンカン「バ[ʔuθibo:ŋ mami「tiriʃa:
ma ʔutʃiŋ ʃi:ŋ m「ba:ŋ ʔatʃikutu「ma:ʃiŋ ʃuiʃim」 muno:「nagi
ra」ŋkam「ba] (盆の窪は豆粒で打っても死ぬこともあるので、所かまわずくどこと
もかしこともなく>物を投げるな)。「アンチャー」ウスイ「ブ」ヌ「ハリトウス
イガヤー[ʔanʃo:ŋ ʔuθi「bu」nu「haritu:θigaja:] (あの人は盆の窪が枯れて
浮き上がって生気がない。死期が近づいているよ)

「ウスウンキン[ʔuθuŋkiŋ] (動)

俯いてうづくまる。うつむく。ワラ「ビ」ヌヌ「ラーリガ」チャラ ミチ「バタカ
イ スイク」リ「グタン[wara「bi」nu nu「ra:riga」ʃara miʃi「batakai θi
ku」ri「gutaŋ] (子供が叱られたのか、道端にうづくまっていた)。ウ「スウンチ」
グタン[ʔu「θunʃi」gutaŋ] (うづくまっていた)

「ウッシュュ[ʔuʃʃu] (名)

盆の窪。首の後頭部。「ウスイブ[ʔuθibu]ともいう。「ウッシュュガ」ハリタン[ʔuʃ
ʃuga「haritaŋ] (盆の窪が枯れたく乾いた)。余命いくばくもない。病気の場合、
不元気な場合には「ウッシュュ[ʔuʃʃu] (盆の窪) がはっきりと現れてくるという。

ウッチン「トゥー[ʔutʃin「tu:] (名)

うつむく (俯く) こと。ウッチン「トゥー」ッチ「ニン」トゥーン[ʔutʃin「tu:ʃi
nin「tu:ŋ] (うつぶせになって寝ている)。「ウッチン」トゥー「チュー」ン[ʔutʃint
u:「ʃu:ŋ] (俯いている)。「ハリ」カサガ「アラ」ウッチン」トゥー「チュー」
ン[ʔari「kasaga」ʔara「ʔutʃintu:「ʃu:ŋ] (恥ずかしいのか、俯いている)
ウ「ディ[ʔu「di] (名)

うで (腕)。肩から手首までの間。

「ウティンキン[ʔutiŋkiŋ] (動)

うつむく (俯く)。「ハリ」カサ「ギサ」ウティン「チュー」ン[ʔarikaŋa「gira」
ʔutin「ʃu:ŋ] (恥ずかしそうに俯いている)。

ウトウ「ゲー[ʔutu「ge:] (名)

下あご。おとがい (頤)。ウトウ「ゲー」ナガー[ʔutu「ge:naga:] (下あごの長い人)

ウブフ「ユビ」[ʔupʰu「jubi」] (名)

親指。「イノー」 ムツ「チャー」 ナーン「シャコー」 ウブフ「ユビシャーマ」 パハ
ン「ティキバ」[ʔino:「 mut「ʃa:」 na:ŋ「ʃako:」 ʔupʰu「jubiʃa:ma」 pʰan
「tikiba」] (印鑑を持っていないなら親指で判を突きなさい)

ウミ「スイミヤ」[ʔumi「θimja:」] (名)

潜水の名人。深く潜ることの出来る人。「アラ」 ユー「スイミヤ」 ヤル「ユカ
イ プカルーマリ」 スイミ「スア」[ʔara:「 ju:「 θimja:」 jaru「juk
ai pukaru:mari:n」 θimi:「ra:」] (あれは潜水の名人である。相当くかなり>深
い海<渡>の底までも潜ることができる)

ウル「ミン」[ʔuru「min」] (動)

目覚める。「おぞむ」(目覚める。首里方言ではウズヌン。『物類称呼』に「目をさむ
るといふ事を薩摩及肥前にてをぞむと云」とある。<待ちかねて をれば 思無蔵
が使の にや 来ゆら来ゆら ともて おぞで をたさ>琉歌全集195) (『沖縄古
語大辞典』)。「ユナカ スアキヌミヤ」ターガ「アビティ ウルマサツ」タン「
unaka rakinumja「ta:ga」 ʔabiti ʔurumarat「tan」] (夜中に酔っ払い<酒飲み
>達が大声で叫んで起こされた<目が覚めされた>)。アカン「グワーガ チャッサ
ナチン」 ウル「マンタン」[ʔakan「gwa:ga ʃarra natʃin」 ʔuru「mantan」] (赤
ん坊がいくら泣いても目覚めなかった)。ウル「ラン」[ʔuru「ran」] (目覚めた)

エー「バサミ」[ʔe:「basami」] (名)

相挟み。箸から箸へと物を渡すこと。死者の骨を拾う時に使う箸のこと。エーバサ
「ミヤ」 ウラー「ツチャー」 ナ「ラン」[ʔe:basa「mja: ʔura: tʃa:」 na「ra
ŋ」] (相挟みは、それはしてはならない)。エー「バサミヤ」 カ「ソーツチ」 プフン
「プリー」ン「バー「イ テイククトウ ウラー「ツチャー」 ナ「ラン」[ʔe:「basa
mja:」 ka「so:tʃi」 pʰum「puri:」 m ba:「i tike:kutu ʔura: tʃa:」 na
「ran」] (相箸は火葬して骨を拾うときに使うので、日頃はそれをしてはならない)

「オーバハ」[ʔo:pʰa] (名)

おんぶ。背負うこと。

「オーバハシュ」ン「[ʔo:pʰaʃu」ŋ」] (動)

おんぶする。背負う。「ワラビ」 「オーバハシュ」ン「[warabi「ʔo:pʰaʃu」ŋ」] (子供
を背負う。おんぶする)。オーバハ「スアン」[ʔo:pʰa:「ran」] (背負わない。おんぶし
ない)。「オーバハチャン」[ʔo:pʰaʃan」] (背負った。おんぶした)。「オーバハチュー」
ン「[ʔo:pʰaʃu:」ŋ」] (背負っている。おんぶしている)。ワラ「ビ」 オーバハチュー」
ン「wara「bi ʔo:pʰaʃu:」ŋ」] (子供を背負っている。おんぶしている)

「カッキ」[kakkɨ] (名)

かっけ（脚気）。野菜不足でおきる病気。船員がよく罹患した。シビナー「ブノー」シンカン「シャー」カッキ ハカラスアン「ネー」チ アカマー「ミートウ」ヤ シェーヤ 「ヌシテイ」イキ「タン」[ʃibina: ʔbuno: ʔ ʃiŋkan ʔʃa: kakki ha karʌn ʔne: ʔʃi ʔakama: ʔmi:tu ʔjaʃe:ja ʔnuʃiti ʔiki ʔtan]（マグロ延縄船は、船員達を脚気に罹患させないように赤豆＜小豆＞と野菜を積んで＜載せて＞行った）

「ガッサン」[garʌn]（形）

軽い。「ガッサー」ナーン「ガッ」[garra: ʔna:ŋ]（軽くない）。「ガッサタン」[garʌtan]（軽かった）。「ダン」ダン ガッサナ「テイ」 「イキ」ン[dan ʔdan garʌna ʔti ʔiki ʔŋ]（だんだん軽くなっていく）

ガッ「ティン」[gat ʔtiŋ]（名）

合点。納得すること。了解すること。ガッ「ティン」 シュン[gat ʔtiŋ ʃuŋ]（合点する。納得する）。「ウラー」 ワヌン ガッ「ティン」 チャン「ʔura: ʔ wanuŋ gat ʔtin ʔʃaŋ]（それは私も了解した。納得した）

カン「プー」[kam ʔpu:]（名）

結髪した人。結髪。「かたかしら（結髪）」を結った人。

カン「プープシュー」[kam ʔpu:puʃu:]（名）

結髪した老人。「かたかしら（結髪）」を結った老人。数え年51歳からは「スエーラーガーミー」[ʔθe:ra:ga:mi:]の祭りに参加するから、その人たちをウフ「シュー」[ʔuʔu ʔʃu:]というが、孫の出来た人はそれ以前の年齢でもウフ「シュー」と呼称される。普通は「クンジー」[kunʃi:]（紺地の着物）を着て「スエーラーガーミー」に参加する。

「ギーン」[gi:ŋ]（動）

座る。「居る（上一段活用）」の義。ワ行イ段、エ段、ウ段音は法則的にガ行音に音韻変化する。久高島方言音韻の大きな特徴の一つ。「ギヤン」[gijaŋ]（座らない）。

「ギチャン」[giʃaŋ]（座った）。「ギーバ」[gi:ba]（座れ）。「ギーンショーリバ」[gi:ŋʃo:riba]（お座りください）。「ギーヤー」[gi:ja:]（座ったら）。「ギーブシャン」[gi:buʃaŋ]（座りたい）。「スアタンカイ」 ギーン「raʔtanʃai ʔ gi:ŋ]（畳みに座る）

「キ」ジ「ki ʔʃi]（名）

きず（傷）。「ティラヌ キ」ジ「tiranu ki ʔʃi]（顔の傷）。

「ギシー」ン「giʃi: ʔŋ]（動）

居させる。座らせる。据える。「ティビ ギシー」ン「tibi giʃi: ʔŋ]（腰を下ろす＜尻を据える、座らせる＞）

「グイン」[guiŋ]（動）

食中毒する。「酔う」の義。ア「カナー カ」ティ グイ「タン[ʔa「kana: ka」ti g
ui「tan] (アカナー<魚名>を食べて食中毒した)。グイ「ラン[gui「ran] (中毒しない)。「ウヌ イヨー カティ」ン グイ「ラン[ʔunu ʔijo: kati」ŋ gui「ran] (この魚は食べても中毒しない)。グイ「ランタン[gui「rantan] (中毒しなかった)。「グイティ」 ヨーティ 「ニントゥースア[「guiti」 jo:ti 「nintu:ra] (食中毒して<酔って>弱って寝ているよ)

「グー[「gu:] (名)

(植) 芭蕉。「グー 「キヤーマ」 マッカ トウ「クティ」 ニティ 「スイタン [「gu: 「kija:ma」 makka tu「kuti」 niti 「θuitan] (芭蕉を切って枕に作って熱を取った。芭蕉の幹を一尺ほどの長さに切り、頭に当たる部分を叩いて柔らかくし、一種の水枕にした。芭蕉の水分で頭を冷やす解熱効果があった)

「ク」スウ[「ku」 θu] (名)

くそ(糞)。大便。「ク」スウ 「マイン[「ku」 θu 「main] (大便する。糞まる)

クスウ「ケーバナ[ku θu「ke:bana] (名)

くしゃみの後に唱える言葉。呪文の一種。

クスウ「ピー[ku θu「pi:] (名)

下痢。「糞放り」の義。クスウピ「チャン[ku θupi「ʃan] (下痢をした)。クスウ「ピーン[ku θu「pi:ŋ] (下痢をする。糞放る)。「ヌーガ」 「カタ」ラ キ「ヌーラ」 クスウ「ピチ」 ニン「トゥースア[「nu:ga 「kata」ra ki「nu:ra」 ku θu「piʃi」 nin「tu:ra] (何を食べたのか昨日から下痢をして寝ているよ)

「クスグイン[「ku θuguiŋ] (動)

くすぐる(擦る)。腋の下を擦る。「クスグラン」キ「バ[「ku θuguran」ki「ba] (擦るな)。「クスグタン[「ku θugutan] (擦った)。「クスグイブジャン[「ku θuguibuʃan] (擦りたい)

グタ「イン[guta「iŋ] (動)

疲れる。「ヤーブキ」 「ハーラ」 ハユワシユン」チ グタ「タン[「ja:puki 「ha:ra hajuwaʃun」ʃi guta「tan] (家を葺く瓦を運搬すると疲れた)。「アン」マリ」 バハマ「イヤー」 グタ「インドー[ʔam「mari」 ʔΦama「ija:」 guta「indo:] (あんまり気張って働いたら疲れるよ)。「チャッスア」 バハマ「ティン」 グタヤー」 ナーン(グ「タラン) [「ʃarra」 ʔΦama「tiŋ gutaja:」 na:「ŋ (gu「taran]] (いくら気張って働いても疲れはない<疲れなさい>)。「グタイ[「gutai] (疲れ)。「グタタンシヤコー」 ユク「リバ[「gutatanʃako:」 juku「riba] (疲れたら休みなさい)。「スアタン」 ンギヤ「シャーマ」 グタ」ティナーン[「ɾatan」 ŋgia「ʃa:ma guta」 tina:ŋ] (量を出して疲れてしまった)

「クダミーン[^ʔkudami:ŋ] (動)

踏みつける。「クラミーン[^ʔkurami:ŋ]ともいう。「チュヌ ピシャ クダミタン[^ʔʃunu piʃa kudamitan] (他人の足を踏みつけた)。「チュヌ^ʔ ピシャ クダミラン^ʔカンバ[^ʔʃunu piʃa ^ʔkudamiran^ʔkamba] (他人の足を踏まないでよく踏むな>)

クタン「ディーン[kutan^ʔdi:ŋ] (動)

疲れる。クタンディ「タン[kutandi^ʔtan] (疲れた)。クタン「ダー^ʔ アイ「ビラネー(ナー「ネー) [kutan^ʔda:^ʔ ?ai^ʔbirane:(na:^ʔne:)] (疲れはありませんかくないか>)。クタンディ「ラン[kutandi^ʔran] (疲れしない)

ク「チ[ku^ʔʃi] (名)

口。クチ「マギー[kuʃi^ʔmagi:] (口の大きな人)。クチ「マギーユナグ[kuʃi^ʔmagi:junagu] (口の大きな女)。ク「チャー^ʔ ティティスイ「マンバ^ʔ ムン 「ユマリー^ʔンドー[ku^ʔʃa:^ʔ titiθi^ʔmamba^ʔ muŋ ^ʔjumari:^ʔndo:] (口を慎みなさい。物議をかもすぞ)

ク「チ^ʔハギ[ku^ʔʃi^ʔʔagi] (名)

口角炎。口の両端の炎症。チカ「グロー^ʔ ムンヌ^ʔ マンディ^ʔ ク「チ^ʔハギ チューン^ʔ チュン グ「ラン[ʃika^ʔguro:^ʔ munnu^ʔ mandi ku^ʔʃi^ʔʔagi ʃu:n^ʔʃuŋ gu^ʔran] (最近は物資が豊富で、口角炎を患う人もいない)

クチ「ビ[kuʃi^ʔbi] (名)

いぼ(疣)。クチ「ビヌ^ʔ アン[kuʃi^ʔbinu^ʔ ?an] (疣がある)。ピ「シャヌ^ʔ ク「チビ[pi^ʔʃanu^ʔ ku^ʔʃibi] (足のいぼ)。クチビはお灸をすえて治療した。

「グテー[^ʔgute:] (名)

からだ(体)。五体。体力。^ʔグテーヌ トウクイ「クマツ^ʔティ[^ʔgute:nu tukui^ʔkumat^ʔti] (体づくりが立派である。いい体格をしている)

「グニー[^ʔguni:] (名)

びっこ。^ʔグニ ピ「キン[^ʔguni pi^ʔkiŋ] (びっこを引く)。グニ 「ピチ^ʔ アッキ「グッシャン[^ʔguni^ʔ piʃi^ʔ ?akki^ʔguʃʃan] (びっこを引いて歩きづらい)

「クビ[^ʔkubi] (名)

首。首全体。「クビナガ^ʔリ[^ʔkubinaga^ʔri] (うなじ。首の後部。ウッシュの下方の部位をいう)。「クビカイ^ʔ ハ「キー^ʔン[^ʔkubikai^ʔ ha^ʔki:^ʔŋ] (首にかける)

「クビグリーン[^ʔkubiguri:ŋ] (動)

うなずく(頷く)。首を折る。謝る。詫びる。「クビサギーン[^ʔkubisagi:ŋ] (首を下げる)ともいう。「ウラ^ʔー ワー「ガル^ʔ ワツ「スアイビータル ピシャマンキツ^ʔ グリー 「シャビークトウ^ʔ ユルチ スウラシン「ショーリバ[^ʔ?ura:^ʔ

wa:「garu」 waṛ「raibi:taru piṣamaṅkitʃi」 guri: 「ʃabi:kutu」 juruʃi
 θuraʃiŋ「ʃo:riba」(それは私が悪うございました。正座してお詫び致しますのでお
 許し下さい)

クミ「カ」ン[kumi「ka」ŋ](名)

こめかみ。「ピム」[「pimu」ともいう。

「クミン」[「kumiŋ」](動)

ふむ(踏む)。「クマン」[「kumaŋ」](踏まない)。ワー「ガ」クマンタンミヤー[wa:
 「ga kumantammja:」(私<が>は踏まなかった)。「クダ」ン[「kuda」ŋ](踏んだ)。
 「クマン」キ「バ」[「kumaŋ」ki「ba」](踏むなよ)。「クミン」ムン[「kumim」 muŋ]
 (履くもの)。「クリン」ワリ「ラン」[「kuriŋ」 wari「raŋ」](踏んでも割れない)。
 「クミーヤ」ワ「リーン」ドー[「kumi:ja」 wa「ri:n」do:](踏んだら割れるよ)。
 「アシジャ」クミン[「ʔaʃiʃa」kumiŋ](下駄を履く)。「クミグッシャ」ン[「ku
 miguʃʃa」ŋ](履き辛い)。「チュヌ」ピシャ「クミ」ン[「ʃunu piʃa kumi」ŋ](人
 の足を踏む)

「クワーリー」ン[「kwa:ri:」ŋ](動)

噛まれる。イン「ネー」クワツタン[ʔin「ne: kwa:ttan」](犬に噛まれた)。イン
 「ネー」クワーリー「ンドー」[ʔin「ne: kwa:ri:」ndo:](犬に噛まれるぞ)

「ケー」ン[「ke:ŋ」](動)

食べる。「ムヌ」ケーン[「munu」ke:ŋ](ご飯を食べる)。「ケーバ」[「ke:ba」](食
 べなさい)。「カーン」[「ka:ŋ」](食べない)。「カタン」[「katan」](食べた)。「キリ」カー
 ン[kiri「ka:ŋ」](怒った感情をこめて、食べない)。「ケーブシャ」ン[「ke:buʃa」ŋ]
 (食べたい)。「カティ」ナーン[「kati」na:ŋ](食べてしまった)。「カーン」キ「バ」[「
 ka:ŋ」ki「ba」](食べるなよ)。「ケーバ」スイミ「タン」ムンヌ「ドー」グッシャツ
 「チ」カーンタン[「ke:ba」θimi「tam」munnu du:「guʃʃat」ʃi「ka:ntan」]
 (食べればよかったのに、遠慮して食べなかった)

コー「コー」ヨー「タン」[ko:「ko:」jo:「tan」](連)

非常に疲れた。心身ともに疲れた。疲労困憊した。アン「マリ」シグトゥ「シー」ジ
 ユースァヌ「コー」コー「ヨー」タン[ʔam「mari ʃigutu ʃi:ʃu:raŋu」 ko:「k
 o:」jo:「tan」(あまりにも仕事をし過ぎて<仕事強くて>疲労困憊した)。「ムチン」
 ナラン「ムン」ム「チュン」チューティ「コー」コー「ヨー」タン[「mufin
 naram」mum」mu「ʃun」ʃu:ti ko:「ko:」jo:「tan」(持つことの出来ないも
 のを持とうとして非常に疲れた)

ゴー「スァン」[go:「raŋ」](形)

かゆい(痒い)。くすぐったい。「ゴースァー」ナーン[「go:ra:」na:ŋ](痒くない)。

ワチャヌ ゴー「スアン」[waʃʌnu go:raŋ] (腋の下が痒い。くすぐったい)。
 ゴー「スアタン」[go:raʌtaŋ] (痒かった)。シレー「シレー」 ゴー「スアナ」ティ
 シューン「fire:fire:」 go:raʌnaʌti ʃu:ŋ] (次第に痒くなってくる)

「シシ」[ʃiʃi] (名)

肉。豚肉。「シシヌ ティティ」 チャン「ʃiʃinu titi ʃaŋ] (肉が付いてきた。筋肉が付いて遅しくなってきた)。「ワーン」 「シ」シ「wa:ŋ ʃiʃi] (豚の肉)。昔は、久高島では「シシ」[ʃiʃi]といえは「豚肉」のことを意味した。「ウシヌ」 「シシ」[ʃuʃinu ʃiʃi] (牛の肉)は戦後に出まわるようになった。「シシ」 「ホー」ティ フー「バ」[ʃiʃi ho:ʌti ʃu:ba] (豚肉を買ってきなさい)。ショーガチャ「ワー」[ʃo:gaʃa wa:] (正月用の豚)といつて、「ムチー」[muʃi:] (鬼餅、旧暦12月8日)に親戚同士で組を作って豚を屠殺し、分配した。正月元旦から三日までの三箇日は豚肉を食しなかつた。ノロ (巫女) から「シャク」[ʃaku] (酌<爵>)を拝んだ正月三日の午後からは豚肉を食してもよいとされている。精進潔斎の意味が含まれているという

「シジ」ハタ「ʃiʃi hata」 (名)

血統。血筋。父方。シジ「ハタ」 ウム「ハタ」[ʃiʃi hata ʃumu hata] (父方・母方)のように用いる。

「シバイ」[ʃibai] (名)

小便。「シバイ」 「シュン」[ʃibai ʃuŋ] (小便する)。「シバイツ」チ 「シューン」[ʃibaitʃi ʃu:ŋ] (小便をしてくる)。ユー「シバイ」[ju:ʃibai] (寝小便。夜尿症。夜尿)。クスウ「シバイ」[ku θu ʃibai] (糞尿。排泄物の総称)。クスウ「シバイン」ドゥー「シャーマー シーヨースアン ナトゥーン」[ku θu ʃibain du:ʃa:ma:ʃi:jo:raŋ natu:ŋ] (排便排尿も自分では出来なくなっている)

「シム」[ʃimu] (名)

しも (霜)。標準語からの借用語か。

「シム」クダイ「ʃimu kudai」 (名)

十一月ごろ。この頃のカツオをアキ「ガチュー」[ʃaki gaʃu:] (秋鯉)という。脂がのつていて美味であるといわれている。

「シャー」ビラ「ʃa: bira」 (感)

ご免ください。「来侍らむ」の転訛したもの。シャー「ビラ」[ʃa: bira] (ご免ください)というつと、「スアーガ」[ra:ga] (誰か)、または「スアーヤガ」[ra:jaga] (誰ですか)と答え、イ「モーリ」[ʃi mo:ri] (おいでなさい)、またはイ「モーリバ」[ʃi mo:riba] (お出でなさい<いらっしやい>)と答える。

「シャギ」[ʃagi] (名)

しらが (白髪)。ワナー 「ティブノー ムル」 シャギ 「ナ」ティナーン[「wana: tibuno: muru」 fagi 「na」tina:ŋ] (私の頭はみんな白髪になってしまった)。シャガー「ウブ」シュ[faga:「?upu」ju] (白髪のじいさん)。シャギヌ ミー「トゥーン」[「faginu mi:」tu:ŋ] (白髪が生えている)

「シュガ」イ[「fuga」i] (名)

身なり。すがた (姿)。アヌ チョー「ハーギ」スイガター ウンダ「シュ」ガイ「ン」ギー「シュガイ シンショーチュー」ン[「?anu tjo:」 ha:gi「θigata: ?unda」 ju「gai」ŋ gi:「fugai fiŋʃo:ʃu:」ŋ] (あの人は容姿と、それに身なり装いもいい身なり装いをしていらっしやる)。ギー「ハーギ」スイガタ ヤスイガ[「gi: ha:gi「θigata ja θiga」] (いい姿形<立派な姿格好>だが)。ブン「ラー」スアン「チュー」ヤンシエー「ン」[bun「ra:ran」ju: janʃe:」ŋ] (貫禄のある人<紳士>でいらっしやる)

シル「ブシ」[firu「bu」ʃi] (名)

指の爪の根元にある白い三日月形。ドゥーナ「ヨースァ」ナイヤー「スィーナ」ティミヌ「シル」ブシン「キヤー」ティ「シューン」[「du:nu」jo:ra「naija:」θi:nu「timinu」firu「bu」ʃiŋ kja:」ti「ju:」ŋ] (体力が弱ってくると手の爪の三日月形も消えていく)

スアカ「ディラ」[ra「di」ra] (名)

ほほ (頬)。スアカ「ディラヌ」アカスアン[ra「di」ranu「akaraŋ」] (頬が赤い)

「スァ」キ[「ra」ki] (名)

たけ (丈。長け)。身長。「スァキ」ヌ「スァカ」スアン[「ra」ki「nu」ra「ka」raŋ] (身長が高い)。スウシ「グル」ナティ「アッタ」ニ「スァキ」ヌ「スァカ」スァ「ナタン」[θu:ʃi「guru nati」?atta」ni「ra」ki「nu」ra「ka」ra「nataŋ」] (年頃になって急に背が伸びた)。「アッタ」ニ「フルイタン」[「?atta」ni「Φuruitaŋ」] (急に成長した)。「ルー」ヌ「スァキブノー」ワカラナー「ナー」シャクヌ「ムン」ヌ[「ru:nu」ra「kibuno:」wakarana:「na:」ʃakunu mun」nu] (己の<自分の>身の程もわきまえずに<己の能力も知らず>でしゃばって、己ごときが)

「スァク」イ[「ra」ku「i」] (名)

せき (咳)。「ハナシキ」ガラ「スァ」クイヌ「ン」ギー「ン」[「Φanaʃiki」gara ra「kui」nu」?ŋgi:ŋ] (風邪を引いたのか<風邪なのか>、咳がでる)。「スァ」クイ「シュ」ン[ra「kui」ju」ŋ] (咳をする)

スァスィカ「ブ」ク[ra θika「bu」ku] (名)

足の甲にできるたこ (胼胝)。ミカ「シャー」サバ「ナー」ピ「シャマンキ」ツチ「ル」フギ「クトウ」ピ「シャカイ」ンギーヌ「マ」ミヤー「スァ」スィカ「ブク」チ「ル」

「イータル[mika ʃa: ʔ saba ʃa: ʔ pi ʃamaŋki tʃi ru ʃugi ʃkutu pi ʃa kai ʔ ŋgi: nu ʔ mamja: ʃa ʃika ʃbukuʃi ru ʃi: taru] (昔はサバニはひざまずい<て跪い>て漕ぐので、足の甲に出るまめ<肉刺>はスアスィカ「ブク」といった)

スアタ[ʃrata] (名)

①うわさ (噂)。評判。「沙汰」の義。スウイ「スアタ[ʃui ʃrata] (取り沙汰)。「ゲーマカイヤー ヤー」 スアタ 「スウシン」 グタン「ドー[ge: makaija: ja: ʃrata ʃuʃiŋ gutan do:] (八重山では君の噂をする人もいたよ)。「イティマリーン」 スアタ 「スアッティヤー[ʃitimari: n ʃrata ʃrattija:] (いつまでも人に沙汰されてねえ)。「アラー スアビチ ンジカラ ウトゥスアター」 ナーン「スィガ」 スー 「ナトゥーガヤー[ʃara: ʃabiʃi ʃŋʃikara ʃuturata: ʃ na: n ʃiga nu: ʃnatu: gaja:] (あれは旅に行つて音沙汰<音信>がないが、どうなっているのかなあ)

スア「チー」マジクイ[ʃa ʃʃi: ʃmaʃikui] (名)

他血統 (婿養子) が混じること。他系交錯。スアチー「マジクヤー クワンマガネー」 ハ「カイ」ン バーン 「アクトウ 「ウラー ッチャ」ー ナ「ラン[ʃaʃi: ʃmaʃikuja: kwammagane: ʃ ha ʃkai m ba: ŋ ʃakutu ʃura: tʃa: ʃ na ʃraŋ] (他系交錯 (婿養子をとること) は子孫に祟ることがあるから、それはやってはならない)

スア「チュン」[ʃa ʃʃu ŋ] (動)

立つ。「ッチュヌ」 スア「チュン[ʃtʃunu ʃa ʃʃuŋ] (人が立つ)。スア「タン[ʃa ʃtan] (立たない)。スアッ「チャン[ʃat ʃʃaŋ] (立った)。「スアチブシヤン[ʃaʃibuʃaŋ] (立ちたい)。スア「チーヤ[ʃa ʃʃi: ja] (立ったら)。「スアッ「タンシヤコー[ʃat ʃtanʃako:] (立ったならば)。「スア「チーヤ チャー」キ アッ「キン」 パリ「ロー[ʃa ʃʃi: ja ʃʃa: ʃki ʃak ʃki m pari ro:] (立ったらすぐ歩くはずだよ)。「スアッチ 「グ」ン[ʃratʃi ʃgu ŋ] (立っている)

「スアッキー」[ʃrakki:] (名)

血統。親戚。「アマ」ン ワッ「ター スアッキー」 ヤル[ʃama ŋ wat ta: ʃrakki: ʃ jaru] (あそこも私達の血統<一門>だ)。「アヌ ヤーヤ」 ディキヤー 「スアッキー」 ヤル[ʃanu ja: ja dikija: ʃrakki: ʃ jaru] (あの家は頭のいい、よくできる血統だ)。「アマー」 イシヤダッ「キー」 ヤル[ʃama: ʃiʃadak ki: ʃ jaru] (あそこの家は医者の血統だ)

スアバ「キン」[ʃaba ʃkiŋ] (動)

髪を梳かす。梳る。「ハリリ」 「スアバキン[ʃhariri ʃrabakiŋ] (髪を梳かす)。「ス

- アバ「カン[rǎba kǎŋ] (梳かさない)。スアバ「チャン[rǎba t͡ʃǎŋ] (梳かした)。「ハリリ「スアバキブシャン[hariri rǎbakibuʃǎŋ] (髪を梳かしたい)
- 「スイー「[θi:] (名)
手。腕から指先までの総称。「スイー ナガ「スァン[θi: naga rǎŋ] (手が長い。転じて、盗癖がある)。「スイー 「スアタキン[θi: rǎtakiŋ] (手を叩く。拍手する)。「スイーヌ 「ヤミン[θi:nu jamiŋ] (手が痛む)
- 「スイー「[θi:] (名)
す (巢)。鳥の巢。
- 「スイー「[θi:] (名)
とい (樋)。軒に掛けた樋。
- 「スイーナガー「[θi:naga:] (名)
手の長い人。手長。泥棒。盗人の比喻表現。
- スイー「ビキ[θi: biki] (名)
ゆびぶえ (指笛)。スイー「ビキ プキン[θi: biki pukiŋ] (指笛を吹く)。嬉しいとき、祝いの座などで一座を賑やかにするために指笛を吹く。歓声をあげる時にも指笛を吹き鳴らす。
- スイー「ピシャ[θi: piʃa] (名)
てあし (手足)。スイー「ピシャン ンダスァナ「 スウラティ「ラッ「ティ[θi: piʃan ʔndaʃana θurati rǎt ti] (非常に大切に育てられた娘、深窓の娘<手足を濡らさずに育てられて>)
- スイー「ベー「[θi: be:] (名)
手の甲。「手の表」かという。スイー「ベーカイ ベヘーヌ「 スウマトウン「[θi: be:kai p̄he:nu θumatu:ŋ] (手の甲に蠅がとまっている)
- スイー「マミ「[θi: mami] (名)
たこ (胼胝)。足にできた胼胝をスァスィカ「ブク[rǎ θika buku] (サバニ床板の胼胝) という。
- スイー「クビ「[θi:ŋ kubi] (名)
手首。スイー「クビヌ「 ヤミン「[θi:ŋ kubinu jamiŋ] (手首が痛む)
- スイー「ワタ「[θi:ŋ wata] (名)
手のひら (掌)。スイー「ワタカイ ウチュキティ「[θi:ŋ wata kai ʔuʃukiti] (大切に育てられて<手のひらに載せて>)。スイーヌ「ワタカイ ウチュキティ プフルワーサリヤーマ ショーヌ「 イ「ヤン ッチュ「 ナ「タン「[θi:nu wata kai ʔuʃukiti p̄furuwa:sarija:ma ʃo:nu ʔi jan t͡ʃu na taŋ] (手のひら<掌>に載せて育てられて、真人間にならなかった<根性のない人になった>)。イナグン「シ

ヤーヤ¹ スアムン 「シュン¹チ ア¹ラン¹バ¹ハ¹ プ¹リー¹タク¹トウ¹ ア¹ラン¹バ¹ハ¹
ヌ¹ ンギ¹シャー¹マ¹ スィー¹ヌ¹「ワ¹ター¹ ス¹ア¹キー¹「タン¹[jinaguŋ]「ʃa:ja¹ ɾamu
ŋ 「ʃun¹ʃi¹ ʔa¹「ram¹ʔa¹ pu¹「ri:takutu¹ ʔa¹「ram¹ʔanu¹ ʔŋgiʃa:ma¹
θi:nu¹「wata:¹ ɾaki:¹taŋ] (女達は、薪にしよとしてアダンの枯葉を拾っていた
たので、アダン葉の刺で手のひらく²掌³は引⁴っ搔⁵いた⁶く裂⁷いた⁸)

スィ¹「ク¹ミン¹[θi¹「kumiŋ] (動)

うずくまる。すくむ¹く²竦³む⁴。スィ¹「ク¹リ¹ ㄱ¹ギ¹チ¹ ㄱ¹バ¹ハ¹ナ¹シー¹ 「シュン¹[θi¹「ku¹「r
i¹ ㄱ¹gijfi¹ ㄱ¹ʔanaʃi:¹ 「ʃun] (うずくまって座って話をする)

スィ¹「クル¹ー¹ン¹[θi¹「kuru:¹ŋ] (動)

すくんでいる。うずくまっている。ワラ¹「ビ¹ヌ¹ スィ¹「クリ¹ ギ¹チュー¹ー¹ン¹[wara
「bi¹nu¹ θi¹「kuri¹ gijfu:¹ŋ] (子供がうずくまって座っている)。「フ¹マ¹カ¹ヤ¹ー¹ ス
ィ¹「クラ¹ー¹ ギ¹ヤ¹ン¹キ¹「バ¹「ʔumakaja:¹ θi¹「kura:¹ gijaŋ¹ki¹ba] (ここではう
ずくまって座るな)。スィ¹「ク¹リ¹ ㄱ¹ギ¹チュー¹ー¹ン¹[θi¹「ku¹「ri¹ 「gijfu:¹ŋ] (うずくまっ
て座っている)

「スィ¹ニ¹「[θi¹ni] (名)

すね (脛)。向う脛。ㄱ¹スィ¹ニ¹ 「ウ¹ツ¹チ¹ ヤ¹リ¹ 「キ¹ヤ¹ン¹ ナ¹ラン¹[θini
「ʔutʃi¹ jari¹ 「kja:n¹ naraŋ] (脛を打って、痛くてたまらない¹く²どう³にも⁴なら
ない⁵)

スィ¹リ¹「ク¹ン¹[θiri¹「kuŋ] (名)

こぶし (拳)。スィ¹リ¹「ク¹ン¹ ク¹ワ¹ー¹シュ¹ン¹[θiri¹「kuŋ kwa:ʃun] (拳骨で殴る¹く²拳
骨³を⁴喰⁵ら⁶わ⁷せる⁸)

「スィ¹リ¹ダ¹チ¹[θirida¹ʃi] (名)

やけど (火傷)。「イ¹ユ¹ ヤ¹キン¹チ¹ュー¹ティ¹ ㄱ¹スィ¹ー¹ 「スィ¹リ¹ダ¹チ¹ヤ¹ン¹[ʔiju j
akin¹ʃu:ti ㄱ¹θi:¹ 「θiridaʃaŋ] (魚を焼こうとして、手を火傷した)。ア¹ン¹ダ¹「ギ¹ー
ア¹ギ¹ー¹ン¹ ㄱ¹チ¹ュー¹ティ¹ ㄱ¹スィ¹ー¹ 「スィ¹リ¹ラ¹チ¹ヤ¹ン¹[ʔanda¹gi:¹ ʔagi:¹n
ʃu:ti ㄱ¹θi:¹ 「θiriraʃaŋ] (テンプラを揚げようとして手を火傷してしまった)

スィ¹ウ¹ム¹ン¹「デー¹ク¹[θuimun¹de:ku] (名)

「盗りもの細工」の義。泥棒。盗人の比喻表現。

スィ¹ス¹ウ¹イ¹「ミー¹[θu¹θui¹mi:] (名)

老眼。「年寄り目」の義。「ナ¹ー¹ スィ¹ス¹ウ¹イ¹「ミー¹ ナ¹ティ¹ ㄱ¹ナ¹ー¹ ガ¹ン
「チ¹ョ¹ー¹ ハ¹キ¹ラン¹バー¹ シ¹ン¹「ブ¹ヌ¹ン¹ ユ¹ミ¹「ヨ¹ー¹ス¹ア¹ン¹[na:¹ θu¹θui¹mi:
na¹ti¹ ㄱ¹na:ŋ gan¹ʃo: hakiramba:¹ ʃim¹「bunuŋ¹ jumi¹「jo:raŋ] (老眼
になってしまった。眼鏡をかけないと新聞も読めない)

「スウバ[^ɾθuba] (名)

唇。みつくち (三つ口)。「ワースウバー[^ɾwa: θ uba:] (上唇、唇の大きな人)。

「シヤスウバ[^ɾʃa θuba] (下唇)

スウバ「マギー[^ɾθuba^ɾmagi:] (名)

唇の大きな人。

スウンチャチャー「ギー[^ɾθunʃaʃa:^ɾgi:] (名)

しゃがむこと。しゃがんで座ること。そんきょ<蹲踞>の義か。ミチ「バタカイ」 スウンチャチャー「ギーツ」チ バハナ「シー シュン[^ɾmiʃi^ɾbatakai^ɾ θunʃaʃa:^ɾgi:^ɾtʃi^ɾɸana^ɾʃi:^ɾʃun] (道端でしゃがんで話をする)

スオーキ「ブン[^ɾθo:ki^ɾbuŋ] (名)

あばらぼね (肋骨)。オー「エー シャーマ」 スオーキ「ブン グラッタン[^ɾ?o:^ɾʃe:^ɾʃa:ma^ɾ θo:ki^ɾbuŋ gurattan] (喧嘩して肋骨を折られた)。スオーキ「ブンヌ
フスウク」チューン[^ɾθo:ki^ɾbunnu^ɾɸuθu^ɾku^ɾʃu:^ɾŋ] (肋骨が不足している。転じて、女遊びをして家庭を顧みない男をいう。遊蕩に耽る男)

スオー「ハ」キ[^ɾθo:^ɾha^ɾki] (名)

米寿の祝い。八十八歳の生年祝い。戦前までは、久高島ではスオー「ハ」キを迎えると、各家の「スィーンユ」タ[^ɾθi:^ɾŋju^ɾta]が、当該者を「イリマッカ[^ɾ?irimakka] (西枕、死に装束)させて、「ここにスオー「ハ」キ[^ɾθo:^ɾha^ɾki] (米寿)を迎えた人 (干支で唱える) がいるということを唱え、天へ通して祈願した」という。従って久高島では、「ウイエーシャービラ[^ɾ?uije:^ɾʃa:bira] (お祝いします) と挨拶するが、「アイカーラ[^ɾ?aika:^ɾra] (肖りましょう) とは言わなかったという。

スオー「ミー[^ɾθo:^ɾmi:] (名)

やぶにらみ。斜視。スオー「マー[^ɾθo:^ɾma:] (斜視) ともいう。久高島では斜視の人はいなかったので喧嘩の際、他人を罵っている時以外にはあまり使わなかった。「アラー」 スオー「マー」 ヤル[^ɾ?ara:^ɾ θo:^ɾma:^ɾ jaru] (あの人は斜視だ)

スオー「ロー」ル[^ɾθo:^ɾro:^ɾru] (名)

滑って転ぶこと。転倒。「ミチ」ヌ ナンドウル「スアナ」ティ スオー「ロー」ルー チヤン[^ɾmiʃi^ɾnu nanduru^ɾʃana^ɾti θo:^ɾro:ru:^ɾʃan] (道がすべっこくなって転んでしまった<転倒した>)。スオー「ロー」ル シーガター ヤスイガ」 ドウゲー「ランタン[^ɾθo:^ɾro:ru^ɾʃi:gata:^ɾja θiga^ɾ duge:^ɾrantan] (滑って転倒しそうだったが、転ばなかった)

「ダキン[^ɾdakiŋ] (動)

抱く。「ダカ」ン[^ɾdaka^ɾŋ] (抱かない)。「ダチャ」ン[^ɾdaʃa^ɾŋ] (抱いた)。「ダキブシャ」ン[^ɾdakibuʃa^ɾŋ] (抱きたい)。「ダキバ[^ɾdakiba] (抱きなさい)。「ヤー

ガ ダキーヤ^ㄱ ワヌン 「ダキシア」[^ㄱja:ga daki:ja^ㄱ wanun 「dakira」(君が抱いたら私も抱くさ)。「ヤーガ スアビンカイ グ^ㄱンバーイ 「ンマッタスア^ㄱ ハー 「ダキバ」[^ㄱja:ga ɾabin̄kai gu^ㄱmba:i 「?mmattara:^ㄱ ha: 「dakiba」(君が旅に居った時に生まれたよ。早く抱きなさい)。「ウヌ アカングワー^ㄱ ワン^ㄱネー ダカラン^ㄱバー シュ^ㄱン ムンヌ」[^ㄱ?unu ?akangwa:^ㄱ wan^ㄱne: dakaram^ㄱΦa: ju^ㄱm munnu] (この赤ん坊は私に抱かれたがらないよ)

「チー」[^ㄱʃi:] (名)

血。血液。「チーヌ^ㄱ ンギ^ㄱタン」[^ㄱʃi:nu^ㄱ ?ŋgi^ㄱtaŋ] (血が出た)。「^ㄱハナジーヌ^ㄱ ンギティ ナカ^ㄱナカ スウマランタン」[^ㄱΦanaʃi:nu^ㄱ ?ŋgiti naka^ㄱnaka θumarantaŋ] (鼻血が出てなかなか止まらなかった)

「チ^ㄱー」[^ㄱʃi^ㄱ:] (名)

ちち(乳)。乳房。「チー 「マギー」[^ㄱʃi: 「magi:] (乳房の大きな人)。「チー 「グマー」[^ㄱʃi: 「guma:] (乳房の小さい人)。「チー 「ヌマシュン」[^ㄱʃi: 「numaʃuŋ] (乳を飲ませる)。「チー 「ギーン」[^ㄱʃi: 「gi:ŋ] (乳を貰う。貰い乳する)。乳の出ないときに貰い乳をしたり、お粥の「ワーユー」[^ㄱwa:ju:] (重湯)を飲ませて育てた。

チー「チー」[^ㄱʃi: 「ʃi:] (名)

牛乳。「ウシヌ チー」[^ㄱ?uʃinu ʃi:] (牛の乳)ともいう。シマ「カヤー ウシャー^ㄱ グラントゥ 「ウシヌ チーヤ^ㄱ ヌマン^ㄱタン」[ʃima^ㄱkaja: ?uʃa:^ㄱ guraŋkutu 「?uʃinu ʃi:ja^ㄱ numan^ㄱtaŋ] (久高島には牛はいないので牛の乳は飲まなかった)

「チーブックワ」[^ㄱʃi:bukkwa] (名)

乳房。「チー」[^ㄱʃi:] (乳房)ともいう。

チール「バー」[^ㄱʃi:ru^ㄱba:] (名)

犬歯。チール「バーヌ^ㄱ アン^ㄱマリ メーチ^ㄱ ンギティ」[^ㄱʃi:ru^ㄱba:nu^ㄱ ?am^ㄱmari me:ʃi^ㄱ ?ŋgiti] (犬歯があまりに前に出すぎている)。チール「バー シャーマ^ㄱ クイ^ㄱキリバ」[^ㄱʃi:ru^ㄱba: ʃa:ma^ㄱ kù^ㄱkiriba] (犬歯で噛みきりなさい)

チカ「ミー」[^ㄱʃika^ㄱmi:] (名)

近視。近視眼。「アラー^ㄱ チカ^ㄱミー^ㄱ ヤル」[^ㄱ?ara:^ㄱ ʃika^ㄱmi:^ㄱ jaru] (あの人は近視眼だ)

チ「カラー」[^ㄱʃi^ㄱkara:] (名)

ちから(力)。チ「カラヌ^ㄱ アン」[^ㄱʃi^ㄱkaranu^ㄱ ?aŋ] (力がある)。「アラー^ㄱ チ^ㄱカラー^ㄱ ヤル」[^ㄱ?ara:^ㄱ ʃi^ㄱkara:^ㄱ jaru] (あれは強力である。力が強い)。チ「カラヌ^ㄱ チュー^ㄱスアン」[^ㄱʃi^ㄱkaranu^ㄱ ʃu:^ㄱɾaŋ] (力が強い)

チ「キン」[ʃiˈkiŋ] (動)

聞く。「ミミヌ クジ「リティ ッチュヌ バハナシーヤ」 チ「カランナ」ティ 「ナ
ーン」[ˈmiminu kuʃiˈriti tʃunu ʔʰanaʃiːjaˈ ʃiˈkarannaˈti ˈnaːŋ] (耳を
痛めて<崩れて>人の話は聞こえなくなってしまう)。チ「カン」[ʃiˈkaŋ] (聞かない)。
チ「チャン」[ʃiˈʃaŋ] (聞いた)。チ「キバハン」ティー「 シュン」[ʃikiʔʰanˈtiːˈʃ
uŋ] (聞き取りにくい)。「バハナ「シー」 チ「キン」[ʔʰanaˈʃiːˈ ʃiˈkiˈŋ] (話を聞
く)。「チ「チャサー」[ʃiˈʃaːaː] (聞いたよ)。「アヌ ッチュヌ バハナシーヤ」
ユー チ「キバ」[ˈʔanu tʃunu ʔʰanaʃiːjaˈ juː ʃiˈkiba] (あの人の話はよく
聞きなさい)。「チ「キバ」 スィミ「タンムンヌ」[ʃiˈkibaˈ θimiˈtammunnu] (聞け
ば良かったのに)。「ウヤヌ 「ユスイグトー」 ユー チ「キ」ヨー」[ˈʔujanu ˈju θi
gutoːˈ juː ʃiˈkiˈjoː] (親の教え諭し<言うこと>はよく聞きなさいよ)。「
ミミヤ ハン「スウイ」 ヤル」[ˈmimija hanˈθuiˈ jaru] (耳はよく聞こえる<
耳は剃刀だ>)。「チュネー」 ムン チ「キン」[ˈʃuneːˈ mun ʃiˈkiŋ] (他人にも
のを尋ねる<聞く>)

「チジマ」キ」[ʃiʃimaˈki] (名)

つむじ(旋毛)。「チジターティー」[ˈʃiʃitaːtiː] (二つ旋毛。頭に旋毛が二つある人)。
「アヌ ッチョー」 ター「ティーチ」ジ 「ヤロ」[ˈʔanu tʃoːˈ taːˈtiːʃiˈji
ˈjaro] (あの人は旋毛が二つある人だ<二つ旋毛の人だ>)。「ミーティ「チジンチュ
ン」 グタン」[miːtiˈʃiʃinʃuŋˈ gutaŋ] (三つ旋毛の人もいた)

「チム」[ʃimu] (名)

心。胸の内。「肝」の義。「チムグクル」[ʃimugukuru] (心。気持ち。情け。「肝心」
の義)と同じ。「アラー」 ギー 「チムグクル ムッチュー」ン」[ˈʔaraːˈ giː ˈ
ʃimugukuru mutʃuːˈŋ] (あれは優しい心を持っている。心の美しい人だ)。「スラ
「グクル」[suraˈgukuru] (美しい心)。「スラ「チム ムッチュー」ン」[suraˈʃimu
mutʃuːˈŋ] (美しい心を持っている)。「アラー チムチン イカ」ン 「ムン」ヤル
[ˈʔaraː ʃimuʃiŋ ʔikaˈm ˈmuŋˈjaru] (あれは心がけの悪い奴だ)。「チムヌ」
ダク「ミキン」[ʃimunuˈ dakuˈmikiŋ] (心がどきどきする)。「チムヌ」 ダク「
ミチ」[ʃimunuˈ dakuˈmiʃi] (胸がどきどきする。気分が悪い)。「チムヌ」
ウティ「ティカン」[ʃimunuˈ ʔutiˈtikan] (心がときめく。心が落ち着かない)

「チムグ」チ」[ʃimuguˈʃi] (名)

みぞおち(鳩尾)。胸の中央のくぼんだところ。「チム「グチャー」 デー「ジナ」 ト
ウ「クマ ヤ」クトウ ティ「カスアン」キ「バ」[ʃimuˈguʃaːˈ deːˈʃinaˈ tuˈku
maˈjaˈkutuˈtiˈkaʃaŋˈkiˈba] (みぞおちは大事なところだから突かすなよ)

「チャー」[ʃaː] (名)

した(舌)。¹チャー 「ンギヤシユン[¹ʃa: ¹?ŋjaʃuŋ] (舌を出す)。¹チャーヌ
「インクスア¹ン[¹ʃa:nu ¹?iŋkɪra¹ŋ] (舌が短い)

¹チャーキ[¹ʃa:ki] (副)

すぐ。「ンマリテイ¹ チャーキラ フツチャギ「スアタン[¹?mmariti¹ ʃa:kira
ʔutʃagi¹ʃatan] (生まれつき<生まれてすぐから>可愛いかった)

チュツ「ペー[ʃup¹ʔe:] (名)

つば(唾)。チュツ「ペー シユン[ʃup¹ʔe: ʃuŋ] (唾を吐く<する>)。チュツ「
ペー ハキー¹ン[ʃup¹ʔe: haki:¹ŋ] (喧嘩して相手に唾を吐きかける<唾をかける>)

チュナ「ガ¹トウ[ʃuna¹ga¹tu] (名)

一晩中。終夜。よじゅう(夜中)。「ウヌ ックウヌ¹ ニティヌ ン「ギャーマ チ
ユナガ¹トウ ウク「スアッタン[¹?unu kkwanu¹ nitinu ʔŋ¹gja:ma ʃunag
a¹tu ʔuku¹ʃattan] (この子の熱が出て一晩中起こされた)。「スウナイヌ¹ ウブ
フ「シュガ¹ グイッティ 「シャーマ ユナ「ガ¹トウ ウク「スアッティエ[¹θun
ainu¹ ʔupʔu¹ʃuga¹ guitti ¹ʃa:ma juna¹ga¹tu ʔuku¹ʃatti:] (隣のおじ
いさんが酔っ払ってやって来て一晩中起こされた)。グイ「チャー[gui¹ʃa:] (酔っ
払い)

チョーデーハスア「バイ[ʃo:de:hara¹bai] (名)

位牌に兄弟が重なること。イ「フェーカイ¹ チョーデーハスア「バヤー キラトウ
ー¹ン[ʔi¹ʃe:kai¹ ʃo:de:hara¹baja: kiratu:¹ŋ] (位牌には兄弟重なりは嫌わ
れている)

¹チン¹ハラ[¹ʃim¹ʔara] (名)

着物。衣類。「チン¹ハラムチャー[¹ʃim¹ʔaramuʃa:] (着物を沢山持っている人)。
「アヌ ッチュヌ チン¹ハラー¹ ビヒ「ティヌ ミー¹ アスア[¹?anu tʃunu
ʃim¹ʔara:¹ ʔʃi¹tinu mi:¹ ʔara] (あの人の衣類<着物>はひつ<櫃>のいっ
ぱいあるよ)

ツチュ「ティキユビ[tʃu¹tikijubi] (名)

人差指。食指。ツチュ「ティキユビシャーマ アンチュ¹ スア「チュータン[tʃu¹tik
ijubiʃa:ma ʔanʃu¹ ʃa¹ʃu:tan] (人差指であの人を指していた)。ツチュ「ティ
キユビシャーマ ツチュ¹ スア「シュン ムノ¹ア 「ラ¹ン[tʃu¹tikijubiʃa:m
a tʃu¹ ʃa¹ʃum muno:¹ ʔa¹ra¹ŋ] (人差指で人を指すものではない)

ティカ「ミン[tika¹miŋ] (動)

つかむ(掴む)。ティ「カマン[ti¹kaman] (掴まない)。ティ「カラン[ti¹karan] (掴
んだ)。ティカ「ミバ[tika¹miba] (掴みなさい)。ティカ「ミブシヤン[tika¹mibuʃan]

(掴みたい)。ティカ「マン」キ「バ」[tika「maŋ」ki「ba】(掴むな)。ティカ「ミーヤ」[tika「mi:ja:】(掴んだら)。アティ「ムン」 ティカ「ミーヤー」 ユ「ゲーインドー」[ati「mun」 tika「mi:ja:」 ju「ge:indo:】(熱いものを掴むと火傷するよ)

ティキ「スイラ」[tiki「θira】(名)

同じ年で、生まれた月の早い人。「月兄者」の義か。

ティキヌ「ムン」[tikinu「mun】(名)

月経。「月のもの」の義。ティキヌ「ムン」ヌ「ンギ」タン」[tikinu「mun」nu「ŋgi「taŋ】(月経が出た)。ティキヌ「ムン」ヌ「バ」ハジマタン」[tikinu「mun」nu「pʰaʒi matan】(月経が始まった)

ティ「グー」[ti「gu:】(名)

おし(唾者)。口のきけない人。「ティグー」 「ナヤーマ」 「バ」ハナ「シーヤ」 シーヨー スェン」[ti「gu:」 「naja:ma」 pʰana「ʃi:ja ʃi:jo:raŋ】(唾者になって話ができない)。「ティーヨー」 「ピサヨー」 チューティル」 シュール」[ti:jo:「pisajo: ʃu: tiru」 ʃu:ru】(身振り手振りをしてする<話す>のだ)

「ティビ」[「tibi】(名)

しり(尻)。「ティビ」 スェン」キ「ン」[「tibi」 r̥ata「kiŋ】(尻をたたく)。「テビイ」 ギ「シーン」[「tibi」 gi「ʃi:ŋ】(腰をおろすく尻を据える>。

「ティブン」[「tibuŋ】(名)

頭。「ティブン」ヌ」 マギ「スェン」[「tibunnu」 magi「raŋ】(頭が大きい)。ウフ「ティブル」[ʔupʰu「tiburu】(大きな頭)。ウフティブ「ラー」[ʔupʰutibu「ra:】(生まれつき巨大頭の人)。「ティブン」ヌ」 ヤミン」[「tibun」nu「jamiŋ】(頭が痛い)。「ヌーガラ」 キ「ヌーラ」 ティブン」ヌ」 ヤリ」[「nu:gara」 ki「nu:ra tibun」nu jari】(なぜか昨日から頭が痛い)。シケー「ハラー」 アラ「ニーヤ」[ʔŋke:「hara:」 ʔara「ni:ja:】(悪霊がついた<向かい風に当たった>のではないか)。「ディン」ヌ」 ナーン」 ティブン」 「ウスウトウースァー」[「dinnu」 「na:n」 「tibuŋ」 「ʔuθutu:ra:】(金がなくて頭を押さえている)

ティブン「ヤミヤ」[tibuŋ「jamja:】(名)

頭痛持ち。頭痛の持病がある人

ティブン「ヤンメー」[tibuŋ「jamme:】(名)

頭痛。「頭の病」の義。「アラー」 ティブンヤンメー「ムチ」 ヤロ」[「ʔara:」 tibun jamme:「muʃi」 jaro】(あれ<あの人>は頭痛持ちだ)

「ティミ」[「timi】(名)

つめ(爪)。「ティミ」 キー」ン」[「timi ki:」ŋ】(爪を切る)

ティミ「スァ」キ」[timi「ra」ki】(名)

つまさき (爪先)。「ティミスアキシャーマ」 スア「チュン」[「timirakiʃa:ma」
ra「ʃu」ŋ] (爪先で立つ)。「ピ」シヤヌスアキシャーマ」 スア「チュン」[pi「ʃanuʃa
kiʃa:ma」 ra「ʃu」ŋ] (足の爪先で立つ) ともいう。

「ティラ」[「tira」] (名)

つら (面。顔)。「ティラ」 「スグイン」[「tira」 「θuguiŋ」] (顔を殴る)。「ティラ」
「スグラタン」[「tira」 「θugurattan」] (顔を殴られた)。「ティラ」 「アレ
ン」[「tira」 「ʔare:ŋ」] (顔<面、つら>を洗う)。「ティラヌ」 「アカサン」[「tiranu
ʔakarəŋ」] (顔が赤い)。「ティラヌ」 ピル「スアン」[「tiranu」 pɪru「raŋ」] (顔が広
い)

「ティンスイ」[「tin θi」] (名)

ひざ (膝)。ひざがしら<膝頭>。「ティンスイ」 ウッチ」 ヤリ 「キヤ」ン 「ナ
ラン」[「tin θi」 ʔutʃi」 jari 「kja:」n 「naraŋ」] (膝を打って、痛くてたまらない
<どうにもならない>)。「ワラビ」 「ティンスイチ」 ギシー」ン[「warabi」 「tin θiʃ
i」 giʃi:」ŋ] (子供を膝に座らせる)。「ワラビ」 「ティンスイチ」 ヌシー」ン[「wara
bi」 「tin θiʃi」 nuʃi:」ŋ] (子供を膝に乗せる)

「ティンスイブク」[「tin θibuku」] (名)

ひざがしら (膝頭、膝蓋)。膝こぞう。

ディン「ブン」[dim「buŋ」] (名)

才能。思慮分別。存念。「存分」 zombunno yoi fito<存分の良い人>『日葡辞書』
の義か。「アヌ」 ックワー」 ディン「ブン」ヌ 「スグリトゥーン」[「ʔanu」 kkwa
:」 dim「bun」nu 「θuguritu:」ŋ] (あの子は才能が優れている)。「アヌ」 ックワ
ー」 ディンブン「ムチ」 ヤロ」[「ʔanu」 kkwa:」 dimbum「muʃi」 jaro] (あの
子は才能に恵まれた子だ<才能持ちだ>)。「ディンブン」 「ナーヌ」[「dimbun」 「
na:nu:」] (才能の無い者、才能なし)

「ドゥ」ー[「du」:] (名)

どう (胴)。からだ。胴体。身体。「ル」ー[「ru」:] (からだ) ともいう。ドゥー「
ドゥクイ」[du:「dukui」] (体つき。体格)。「ドゥーマギー」[「du:magi:」] (体の大きい
人)。「グテー」マギー」[gute:「migi:」] (体格の大きな人)と同じ。「アラー」 ドゥー
「マギー」 ヤル」[「ʔara:」 du:「migi:」 jaru] (あれは体の大きい人だ)

ドゥー「ガンジューサア」[du:「ganʃu:ra」] (名)

体が頑丈であること。頑健な体。「スアビチ」 ンジン」 ドゥー「ガンジューサア」
チ」 バハ「タラキョーヤー」[「rabifi」 ʔnʃin du:「ganʃu:ratʃi」 pʰa「tarakijo
:ja:」] (旅に行っても健康で働きなさいよ)。「ワーナー」 「スアビチ」 イキャビーク
トウ」 ドゥー「ガンジューサア」 チュッキンショー」リョー」[「wa:na:」 「rabifi

ʔikjabi:kutu^ɾ du:ganɕu:ra ʃukkiŋjo:rijo:] (私は旅に出ますから体を健康にしてい<体頑丈さしてい<くださいね)

ドゥー「グッシャ[du:guʃʃa] (名)

心苦しいこと。遠慮。「胴苦しさ」の義。ドゥー「グッシャ スァンキバ[du:guʃʃa raŋkiba] (遠慮するなよ)。「スゥマリヨ スゥマリヨ^ɾ スウ「タスイガ^ɾ ドゥーグッ「シャ^ɾヌ 「スゥマランタン[ʔθumarijo θumarijo^ɾ θu「ta θiga^ɾ du:guʃʃa^ɾnu 「θumarantaŋ] (「泊まれよ、泊まれよ」といったけれど、迷惑を掛けることが申し訳なくて<心苦しくて>泊まらなかったよ)

ドゥートゥ「クイ[du:tu「kui] (名)

体格。体付き。「胴作り」の義。ドゥートゥ「クイヤー^ɾ ユー トゥ「クラットゥー^ɾン[du:tu「kuija:ri ju: tu「kurattu:riŋ] (体つきは、よく作られている。体格がいい)

「ナーンナーヌ[na:nna:nu] (名)

くすりゆび (薬指)。紅差し指。「名無し指」(ななしゆび『和名抄』)の義。「ナラシウイビ[「naraʃiʔuibi] (鳴らし指)ともいう。「指笛を吹いて鳴らす指」の義。「ナラシユビシャーマ^ɾ スィー「ビキ プキン[「naraʃijubiʃa:ma^ɾ θi:「biki pukiŋ] (薬指で指笛を吹き鳴らす)

ナ「ガニブ^ɾシ[na「ganibu^ɾʃi] (名)

背骨。脊椎

ナカ「ユビ[naka「jubi] (名)

中指。ナカ「ユビシャーマ^ɾ ハタヌ 「ティブ^ɾ スァチ^ɾ ヲヤーチュー 「シミー^ɾン[naka「jubiʃa:ma^ɾ hatanu 「tibu^ɾ raʃi^ɾ ja:ʃu: 「ʃimi:riŋ] (中指で肩のツボをさして、お灸を据えさせる<やいと (焼処) させる『文明本節用集』>)

ナキ「ジョーグ[naki「ɕo:gu] (名)

泣き上戸

「ナキヤー[「nakja:] (名)

泣き虫。よく泣く人

「ナキ^ɾン[「naki^ɾriŋ] (動)

泣く。「ナカ^ɾン[「naka^ɾriŋ] (泣かない)。「ナチャ^ɾン[「naʃa^ɾriŋ] (泣いた)。「ナカ^ɾン^ɾキ「バ[「naka^ɾriŋ ki「ba] (泣くなよ)。「ナキブシャー^ɾ ナー^ɾン[「nakibuʃa:ri na:riŋ] (泣きたくはない)。「ナチューン[「naʃu:riŋ] (泣いている)。「ヤーガ ナキーンシャコー^ɾ ワヌン 「ナキースァー[「ja:ga naki:riʃako:ri wanun 「naki:ra:] (君が泣いたら、私も泣くよ)。ユクッチ「ナキヤー スァンキバ[jukutʃi「nakja: raŋkiba] (うそ泣きはするな)。「ウラー^ɾ イフィ「グワース フトゥシ

ヤーマン¹ ヌー「ガラ チャー」キ ナキ「スイガヤー」[¹?ura:¹ ?iΦi¹gwa:nu
Φutuʃa:man¹ nu:¹gara ʃa:¹ki naki¹θigaja:] (あれはちょっとしたことでも、
どういう訳かすぐ泣くよ)

「ナダ」[¹nada] (名)

なみだ (涙)。「ナダヌ」ンギー¹ン[¹nada ?ngi:ŋ] (涙が出る)。「ナダヌ」ンギ¹
ラン[¹nadanu¹ ?ngi¹raŋ] (涙が出ない)。「ナダヌ」ンギ¹タン[¹nadanu¹ ?ngi¹
taŋ] (涙が出た)。ウ¹フ「シュガ ヒジヤ」ン 「バーイン」 「ナダー」ンギ¹ラ
ンタン[¹?upΦu¹ʃuga çiʃa¹m¹ ʔba:in¹ ʔnada:¹?ngi¹rantaŋ] (おじいさんが死
んだ時も涙は出なかった)。「チャッピ」 「ナチン」 ヌー「ガラ」 ナダー」ンギ¹ラ
ン[¹ʃappi¹ ʔnaʃin¹ nu:¹gara¹ nada:¹ ŋgi¹raŋ] (いくら泣いても、何故か
涙が出ない)。ハラ「ナキー」 ヤタル[hara¹naki:¹ jataru] (から泣きであった)

「ナナティ」 「ナイビタイヤ」[¹nanati¹ ʔnaibitaija] (連)

七つになりましたか (七歳になりましたか)

ナビン「ガスア」[nabiŋ¹gara] (名)

梅毒。ユナ「グアスイビ シャーマ」 ヌナ「グ」ラ ナビン「ガスア」 ウトゥ「スア
ッタ スイン グスアー」[juna¹guʔa θibi ʃa:ma¹ juna¹gu¹ra nabiŋ¹gara¹
ʔutu¹ra¹tta θiŋ gura:] (女遊びをして、女から梅毒を移された者もいるよ)

「ニギー¹ン」[¹nigi:ŋ] (動)

にぎる (握る)。「メー」ニギー¹ン[¹me:¹ nigi:ŋ] (ご飯を握る)。「ニギラン」[¹ni
giraŋ] (握らない)。「メー」ニギ¹チ 「ニギリメー」 トウクイン[¹me:¹ nigi¹ʃi
ʔnigirime:¹ tukuin] (ご飯を握って握り飯を作る)。「ニギチャン」[¹nigiʃaŋ] (握
った)。「ニギラン」キ「バ」[¹nigiraŋ¹ki¹ba] (握るな)

「ニティ」[¹niti] (名)

ねつ (熱)。「ニティヌ」ンギー¹ン[¹nitinu¹ ?ngi:ŋ] (熱が出る)。「ニティヌ」
ンギ¹タン[¹nitinu¹ ?ngi¹taŋ] (熱が出た)。ミカ「シャー」 ニティヌ」ンギー¹
ヤー」 ハン「スウイシャーマ」 ピ「チャ」イ スア「クイタン」 (「バ」ハンキタン) [mik
a¹ʃa:¹ nitinu¹ ?ngi:¹ja:¹ han¹θuiʃa:ma¹ pi¹ʃa¹i ra¹kuitaŋ] (「バ」Φaŋki
tan)] (昔は発熱したらカミソリ<剃刀>の刃で額を軽く切った<はじいた>)

ニバン「ドゥイ」[niban¹dui] (名)

二番鶏。朝の5時頃に鳴く鶏。二番鶏鳴。ニバン「ドゥイヌ」 ウテーヤ」 アカトウキ
「バンチ」 イ「クスイン グタスアー」[niban¹duinu¹ ʔute:ja¹ ʔakatuki¹banʃi
ʔi¹ki θiŋ guta:ra:] (二番鶏が鳴いたら朝の畑仕事に行く人もいたよ)

ニラ「ミン」[nira¹min] (動)

にらむ (睨む)。「アンネ」ー ニラ「マ」ティ 「シグトウツチン」 イキブシャ」ー

「ナーン[「?anne」: nira「ma」ti 「figututʃiŋ ?ikibuʃa」: 「na:ŋ] (あれに睨まれて仕事にも行きたくない)

「ニンジュン[「ninɕuŋ] (動)

ねむる (眠る)。「ニンラン」キ「バ[「ninraŋ」ki「ba] (眠るな)。「ニンタン[「nintaŋ] (眠ってしまった)。「ワラ」ビヤー ニンタスアー[wara「bja: nintara:] (子供はねむったよ)。「ナ」マ 「ニンダネー[「na」ma 「nindane:] (まだ眠らないか)。「ナー」 「ニントウースアー[「na: 「nintu:ra:] (もう眠っているよ)。「ユー」 「ニンダラン[「ju: 「nindaraŋ] (よく眠れない)。「ニンジュン」 メー「カイ」 ハタチャー ヌミーヤ「 ミー フ「ハ」ティ 「ニンダラン[「ninɕum」 me:「kai hataʃa: numi:ja」 mi: ʃu「pʃa」ti 「nindaraŋ] (眠る前に濃いお茶を飲むと目が冴えて眠れない)。「ユー」 「ニンジュン[「ju: 「ninɕuŋ] (よく眠る)。「シワッチ」 ニンダラン[「ʃiwatʃi nindaraŋ] (心配で眠れない)。

「ヌ」チ[「nu」ʃi] (名)

いのち (命)。「ヌチヌ」 「アタラスアヌ[「nuʃinu 「?atararānu] (命が惜しい)。「ヌチヌ」 アリ「バル」 「ナニグトウ」ン ウムティ 「ウルグトウ」 ハナワユル [「nuʃinu ?ari」baru 「nanigutu」ŋ ?umuti 「?urugutu」 hanawajuru] (命があればこそ何事も思っているように叶えられるのだ) (歌謡「十番口説)

「ヌミン[「numiŋ] (動)

のむ (飲む)。「ヌマン[「numaŋ] (飲まない)。「ナマ」ミラー「 ワタ」 「ヤンジユクトウ」 ヌマン「カンバ[「nama「mira:」 wata 「janɕukutu」 numaŋ「kamba] (生水は腹をこわすから飲むなよ)。「ヌラ」ン[「nura」ŋ] (飲んだ)。「ヌリナーン[「nurina:ŋ] (飲んでしまった)。「ワタ」グスヤー ム「ル」 ヌリ「ナーン[wata「gusuja: mu」ru nuri「na:ŋ] (腹薬はみんな飲んでしまった)。「ヌミバ」 スイミ「タン」ムンヌ[「numiba θimi「tam」munnu] (飲めばよかったのに)。「ヌン」バ[「num「ba] (飲めよ)。「ミリ」 ヌミ「ン[「miri numi」ŋ] (水を飲む)。「ステキ」 ヌミ「ン[「raki numi」ŋ] (酒を飲む)

ヌ「リー[「nu「ri:] (名)

のど (喉)。「ヌ」リーヌ ヤミ「ン[「nu「ri:nu jami」ŋ] (喉が痛い)。「ヌ」リー「ヌ」ハ「キーン[「nu「ri:」nu ha:「ki:ŋ] (喉が渴く)。「ハ」エー シーヤ「 ヌリーヌハ「キーン[「pʃa「je: ʃi:ja」 nuri:nu ha:「ki:ŋ] (走ったら喉が渴く)

ヌ「リーヌ」ワ「グ「ワ「[「nuri:nu「wa:gwa:] (名)

のどひこ。「喉の子豚」の義か。「クチ」 アキーヤー「 ヌリーヌ」ワ「グ「ワ「ヤ「 ミヤ「リースアー[「kuʃi ?aki:ja:」 nu:ri:nu「wa:gwa:ja」 mija「ri:ra:] (口を開けるとのどひこが見えるよ)

ヌリー「ブク」[^ㇿnuri: ^ㇿbuku] (名)

のどぼとけ (喉仏)。ユキ「ガー ム」ル ヌリー「ブクヌ」 アスア (ンギ「トウースア」 [juki ^ㇿga: mu^ㇿru nuri: ^ㇿbukunu^ㇿ ?ara (ʔngi^ㇿtu:ra)]) (男はみんな喉仏があるよ<出ているよ>)

「ハー」[^ㇿha:] (名)

かわ (皮)。皮膚。肌。^ㇿスイヌ 「ハー」[^ㇿθi:nu ^ㇿha:] (手の皮。皮膚)。スイー「ベー」[^ㇿθi: ^ㇿbe:] (手の甲)。^ㇿスイヌ 「ハーヌ」^ㇿバギーン「[^ㇿθi:nu ^ㇿha:n u^ㇿ ʔɸagi:ŋ] (手の皮がむける<剥げる>)

ハー「キーン」[^ㇿha: ^ㇿki:ŋ] (動)

乾く。「スイラヌ」 スイトウー「クトウ」 ミヤー「カイ」 リキン プフ「シーヤチャーキ ハーラキースアー」[^ㇿθiranu^ㇿ θitu: ^ㇿkutu^ㇿ mja: ^ㇿkai^ㇿ rikim ʔɸu^ㇿʃi:ja ʃa:ki ha:raki:ra:] (太陽が照っているので庭に着物を干すとすぐ乾くよ)。「ナマ」 ハーラカン「[^ㇿnama^ㇿ ha:rakan] (まだ乾かない)。「ハーラチューーイヤ」[^ㇿha:raʃu:ija] (乾いているか)。「ハーラチューンシャコー」 スウリ「バ」[^ㇿha:raʃu:ŋʃako: ^ㇿθuri ^ㇿba] (乾いていたら取り入れなさい<取りなさい>)。「リキン」ヌ 「ハーラチャン」[^ㇿrikin^ㇿnu ^ㇿha:raʃaŋ] (着物が乾いた)

ハーギ「スイガタ」[^ㇿha:gi ^ㇿθigata] (名)

容姿。姿形。「影姿」の義か。ハーギ「スイガタ チュネー マサ」ティ「[^ㇿha:gi ^ㇿθigata ʃune: masa^ㇿti] (容姿が人並み優れて)。「シュラハー「ギー」[^ㇿʃuraha: ^ㇿgi:] (美人)。「ヤナハー「ギー」[^ㇿjanaha: ^ㇿgi:] (不美人)

「ハーラカシュ」ン「[^ㇿha:rakaʃuŋ] (動)

乾かす。^ㇿリキン 「ハーラカシュ」ン「[^ㇿrikin^ㇿ ^ㇿha:rakaʃu^ㇿŋ] (着物を乾かす)

ハイ「マター」[^ㇿhai ^ㇿmata:] (名)

がにまた (蟹股)。「ハイ「マターアッキ シュ」ン「[^ㇿhai ^ㇿmata:ʔakki ʃu^ㇿŋ] (蟹股歩きをする)。「アラー」 ハイマタアッキ 「シュ」ン「[^ㇿ?ara: ^ㇿhaimataʔakki ^ㇿʃu^ㇿŋ] (あれは蟹股歩きをする)

ハ「キン」[^ㇿha ^ㇿki^ㇿŋ] (動)

かく (搔く)。「ティミシャー」マ^ㇿハキン「[^ㇿtimiʃa: ^ㇿma ^ㇿhakin] (爪で搔く)。「ハカン「キバ」[^ㇿhakan^ㇿkiba] (搔くな)。「ハ「キバ」[^ㇿha ^ㇿkiba] (搔けよ)。「ワー」フシ「ハチ」 スウラ「シバ」[^ㇿwa: ^ㇿɸuʃi ^ㇿhaʃi^ㇿ θura ^ㇿʃiba] (私の背中を搔いてくれないか)。「ハチャ」ン「[^ㇿhaʃa^ㇿŋ] (搔いた)。「ハキ」ブشان「[^ㇿhaki ^ㇿbuʃaŋ] (掻きたい)。「ハキ」ブشان「シャコー」 ハキ「バ」[^ㇿhaki ^ㇿbuʃaŋʃako: ^ㇿhaki ^ㇿba] (掻きたければ掻きなさい)。「ムシネー」 スア「スアツタン トウクマー」 ハチャン「[^ㇿmuʃine: ^ㇿra ^ㇿrattan ^ㇿtukuma: ^ㇿhaʃaŋ] (虫に刺されたところを搔いた)。「

アスイ 「ハキン」[ʔa θi ʰakiŋ] (汗を掻く)。「ナビヌ」[ʰiŋgu ʰakiŋ] (鍋の墨<竈黒>を掻き落とす)

「ハクリ」[ʰakuri] (名)

あご(顎)。「ハクリ ティ」[ʰakuri ti ʰkari:ŋ] (顎を突かれるぞ。喧嘩の時に使うことば)。「ハクリヌ」[ʰakurinu ʰʔanritaŋ] (顎がはずれた)。「グ」[ʔa ʰgu ʰnu naga ʰraŋ] (顎が長い)

ハジ「マヤー」[haʃi ʰmaja:] (名)

九十七歳の誕生祝い。戦前までは、久高島では八十八歳の誕生祝いのソー「ハ」キ [θo: ʰa ʰki]からは西枕をさせたといわれている。スイーンユタ [θi: ŋjuta]から、「ここにソー「ハ」キ [θo: ʰa ʰki]の人がいる」と天へお通しの祈願をしたが、八十八歳までの長寿者はほとんどいなかった。今日では島を挙げて祝賀パレードをして祝う。

「ハサア」[ʰasa] (名)

湿疹。発疹。「ハサア」[ʰasa]「ヌ」[ŋgi ʰtaŋ] (湿疹がでた)

「ハ」タ [ʰa ʰta] (名)

かた(肩)。「ハ」タチ「ヌ」スイーン [ha ʰtaʃi ʰnuʃi:ŋ] (肩に乗せる)。「ハ」タ「ヌ」フ「バ」イン [ha ʰta ʰnu ʰʔu ʰʔaiŋ] (肩が凝る)。「ハ」タ「ヌ」フ「ハ」トウ「ク」トウ「ム」リ「ス」ウラ「ス」イバ [ʰhatanu ʰʔu ʰʔa ʰtu:kutu mu ʰri θura ʰθiba] (肩が凝っている)。「ハ」タ「ヌ」フ「シ」ヌ「バ」ハンリタン [ʰhatanu ʰʔu ʰʃinu ʰʔanritaŋ] (肩関節が脱臼した<外れた>)。「ヤ」リ「キ」ャーン「ナ」ラン [ʰjari ʰkja:n ʰnaraŋ] (痛くてたまらない<痛くて仕方がない。たまらない>)

ハタグーマン「キヤー」[hatagu:maŋ ʰkja:] (名)

不揃いの履物。草履と下駄。ハタグーマン「キヤー」チ「ア」ッキ「ヤ」グ「ニ」ーガ「ア」ッキ「ネ」ール「ス」タル [hatagu:maŋ ʰkja:tʃi ʰakki:ja ʰguni:ga ʰʔakkinne:ru ʰsutaru] (不揃いの履物<草履と下駄>を履いて歩くと、びっこが歩いているようだった<歩いているようにぞした>)

ハタ「ミーン」[hata ʰmi:ŋ] (動)

かつぐ(担ぐ)。「ワ」ナー「ハ」タ「ミ」ラン [ʰwana: hata ʰmiraŋ] (私は担がない)。「ハ」タ「ミ」ラン「キ」バ [hata ʰmiraŋ ki ʰba] (担ぐなよ)。「ハ」タ「ミ」タン [hata ʰmitaŋ] (担いだ)。「ハ」タ「ミ」ティ「フ」ー「バ」 [hata ʰmi ti ʰʔu: ʰba] (担いで来いよ)

バッタクー「ギー」[battaku: ʰgi:] (名)

女性があぐら(胡坐)をかくこと。「ア」ヌ「ユ」ナ「ゴ」ー「バ」ッタクー「ギー」チュー「ン」 [ʰanu ʰjunago: ʰbattaku: ʰgi: ʰʃu: ʰŋ] (あの女は胡坐をかいている)。「男」性「の」場「合」は、「ピ」ラク「ナ」リ「バ」 [ʰpiraku ʰnariba] (楽にしなさい。平にしなさい<

同等、または目下に対して>)。「ピラク ナインショーリバ」[piraku naiŋʃoriba]
 (崩して<楽に>お座りください<目上に対して>)のよういう。「アラー」
 ㇰハ「ジミーラ」ピ「シャマンキヤー」サナー バッター「ギー」チューン「ʔa
 ra:」 ㇰΦa「ʃimi:ra」 pi「ʃamanʃja:」 sana: battaku:「gi:」 ʃu:ŋ] (あれは
 最初から正座をしないで胡坐を搔いている)

ㇰハ「ㇰΦa:」(名)

は(歯)。「ㇰハース ヤミン」[ㇰΦa:nu jamiŋ] (歯が痛い)。「ㇰハース ヲヤリ ユ
 ナ「ガ」トゥ 「ニンダランタン」[ㇰΦa:nu ʔjari juna「ga」tu 「nindarantaŋ] (歯
 が痛くて<病みて>一晩中、眠れなかった)。「ㇰハース ヤリ ヌガチ」チャン「ㇰ
 Φa:nu jari nugaʃi」 ʃaŋ] (歯が痛くて抜歯した<抜かしてきた>)。メー「バー
 [me:「ba:」(前歯)。ウク「バー」[ʔuku「ba:」(奥歯)。「ムシバー」[「muʃiba:」(虫歯)。「
 ムシバーヌ」マン「ドゥーン」[「muʃiba:nu」 man「du:ŋ] (虫歯が沢山ある)

ㇰハエー「シュー」ブ「ㇰΦaje:」ʃu:「bu」(名)

走り競争

ㇰハエー「シュン」ㇰΦaje:「ʃuŋ」(動)

走る。「ㇰハエー「スアン」ㇰΦaje:「raŋ」(走らない)。「ㇰハエー「チャン」ㇰΦaje:「ʃaŋ」(走
 った)。「ㇰハエーツ」チ 「フーバ」[ㇰΦaje:tʃi 「Φu:ba] (走って来い)。「ヤー」
 ガ ㇰハエー「シュンシャコー」 ワヌン ㇰハエー「ススアー」[「ja:」ga ㇰΦaje:「ʃuŋ
 ʃako:」 wanum ㇰΦaje:「su:ra:」(君が走ったら私も走るよ)。(註)車は走るとは
 言わない。「クルマ」ヌ スウー「イン」[「kuruma」nu θu:「iŋ] (車が通る)という。

ㇰハギーン「ㇰΦagi:ŋ」(動)

はげる(禿げる)。「ティブンヌ」ㇰハギーン「tibunnu」 ㇰΦagi:ŋ] (頭が禿げる)。
 ㇰハギ「ラン」ㇰΦagi「raŋ」(禿げない)。「ㇰハギティ」 チャン「ムン」ヌ「ㇰΦagiti」
 ʃam「mun」nu] (禿げてきたよ)。「ㇰハギティ」ナーン「ㇰΦagiti」na:ŋ] (禿げてし
 まった)。「ㇰハギーヤ」 ㇰハリ「カスアヌ」[ㇰΦagi:ja」 ㇰΦari「kaʃanu] (禿げたら
 恥ずかしい)。「ムルㇰハギ ナ」ティ 「ナーン」[「muruʃagi na」ti 「na:ŋ] (丸
 禿げになってしまった)。「アラー ムルㇰハギ」[ʔara: muruʃagi] (あれは丸禿げ
 だ)。「ティブンヌ」 ㇰハギ「トゥーン」[「tibunnu」 ㇰΦagi「tu:ŋ] (頭が禿げている)

ㇰハギ「ティブン」[pagi「tibuŋ」(名)

禿げ頭。「ㇰハ「ギー」ㇰΦa「gi:」(頭髪の薄くなった人)ともいう

ㇰハ「キン」ㇰΦa「kiŋ」(動)

はく(吐く)。「ムン ㇰハ「キン」[「mum ㇰΦa「kiŋ」(ものを吐く。謳吐する)。「ㇰハ
 「カン」ㇰΦa「kaŋ」(吐かない)。「ムン ㇰハ「チャン」[「mum pa「ʃaŋ」(謳吐した。
 ものを吐いた)。「ㇰハ「チューン」ㇰΦa「ʃu:ŋ」(吐いている)。「ㇰハチ「グン」ㇰΦaʃi「guŋ」

(吐いている)。^バハカン「キバ」[^ɸakana̠ ^ɸkiba] (吐くな)。^ムムン 「^バハキブシャ」又「^ムmum 「^ɸakibuʃa」nu] (ものを吐きたい。嘔吐しそうだ)。「ワーティキ ワッサアヌ」^フ「ネーツ」チ ^ムムン ^バハ「チャ」ン[^{wa:tiki warʃanu} ^ɸu「ne:tʃi」^ɸmum ^ɸa「ʃa」ŋ] (天候が悪くて船酔いをして嘔吐したくものを吐いた)。^ナナー イフィ「グワー シーヤ」 シ「マ」チ ティキ「クトウ」 ニリティ ^バハカン「キバ」[^{na: ʔiʃi}「gwa: ʃi:ja」 ʃi「ma」ʃi tiki「kutu」 niriti ^ɸakana̠ ^ɸkiba] (もう少ししたら島に着くから、我慢して吐くなく嘔吐するな)

^バハ「シシ」[^ɸa ^ɸiʃi] (名)

歯茎。^バハ「シシーラ チーヌ」 ^ンギ「タン」[^ɸa ^ɸiʃi:ra ʃi:nu ^ʔŋgi「tan】 (歯茎から血が出た)。「チーヌ」 ^ンギーン[^{ʃi:nu} ^ʔŋgi:ŋ] (血が出る)。^バハ「シシヌ」 ヤリ ^ユビヤー 「ニンダランタン」[^ɸa ^ɸiʃinu jari ^ʔjubja: ^ɸnindaraŋ] (歯茎が痛くて昨夜は眠れなかった)

「ハバシヤン」[^ɸabaʃaŋ] (形)

香ばしい。いい香りがする。「ハバシャウコー」[^ɸabaʃaʔuko:] (香ばしい線香)。^アンダー「ギー」ヌ 「ハラヌ ハバシャ」ヌ[^ʔanda: ^ɸgi: nu ^ɸharanu ^ɸabaʃa nu] (油揚げの匂いが香ばしくてたまらない)。「ハバシャヌ ハラヌ」 シュン[^ɸabaʃanu ^ɸharanu ʃuŋ] (香ばしい匂いがする)

^バハ「ナ」[^ɸana̠] (名)

鼻。先端。^バハナヌ」 スアカ「スアン」[^ɸananu ^ɸraka ^ɸraŋ] (鼻が高い)。^バハナ「スアカ」[^ɸana ^ɸraka:] (鼻の高い人。鼻高)。^バハナ「スアカ」チュ「^ɸana ^ɸra katʃu] (鼻の高い人)。「^バハナ スウイン」[^ɸana ^θuiŋ] (涙をかむ。<涙をとる>)。「^バハナビラー」[^ɸanabira:] (鼻の低い人。男のあだ名)。^バハナピ「ク」[^ɸana pi ^ɸku:] (鼻の低い人)。「スイバナ」[^θibana] (岩の先端。岩の突き出たところ)

^バハナイ「キ」[^ɸanai ki] (名)

いびき (鼾)。「ニーイ」キ[^{ni: ʔi} ki] (鼾「寢息」の義か) という人もいる。「ウラー」デー「ジ」ナ 「^バハナイキシャー」 ヤル[^ʔura: ^{de: ʃi} na ^ɸanaiki ʃa: ^{jaru}] (この人はとても鼾をかく人だ<鼾かきだ>)。「ウリガ」^バハナイキシャー「マ」 チュナ「ガ」トウ 「ニンダランタン」[^ʔuriga ^ɸanaikiʃa:ma ʃuna ^ɸga tu ^ɸnindaraŋ] (この人の鼾で一晩中眠られなかった)

^バハナ「シー シュン」[^ɸana ^ɸi: ʃu ŋ] (連)

話をする。

ai¹ jataru] (今日は安良村の外海を回ったがカツオ鳥の鳥巻に一度も当たらないで、空船で帰ってきたよ。^バハライであった。まんく間。運>が悪かった)

^バハンダイ [「^ɸɸandai] (名)

はなだれ (洩垂)。「^バハンダイ」 スウイン [「^ɸɸandai θuin] (洩をかむ。洩を取る)。「^バハナ」 スィ「^ɸプイン [「^ɸɸana θi¹puin] (母親が乳児の洩を吸い取る)。

^バハン「^ɸダヤー [「^ɸɸan¹daja:] (名)

洩を垂らした子供。洩垂れ小僧。昔は洩を垂らした子供が多かった。

「^ɸハビン [「^ɸhabin] (動)

かぐ (嗅ぐ)。「ハラ ハビン [「hara habin] (匂いを嗅ぐ)。「^ɸビヒーヌ 「ハラツチ」 ^ɸビヒー 「^ɸビヒヤンタイヤ [「^ɸɸi:nu 「haratʃi¹ ɸɸi: 「^ɸɸijantaija] (屁の匂いがするが、屁をへく放>なかったか。放屁しなかったか)。「^ɸハバン [「^ɸhaban] (嗅がない)。「ヌーン ハバン スアン [「nu:n haban ran] (何の匂いもしない)。「ハラー ハバン [「hara: haban] (匂いを嗅がない)。「ハラー ハバン」キ「^ɸバ [「hara: haban¹ki¹ba] (匂いを嗅ぐなよ)。「ハラー」 ハ「^ɸラ「^ɸン [「hara: ɸ¹ ha¹ra¹n] (匂いを嗅いだ)。「ハラー ハ「^ɸリナー「^ɸン [「hara: ha¹rina: ɸ¹n] (匂いを嗅いでしまった)。「ハラー ハラ「^ɸン 「^ɸムンヌ [「hara: hara¹m ɸ¹munnu] (匂いを嗅いでしまった)。

ハ「^ɸミン [ha¹mi¹n] (動)

かむ (噛む)。「ハ「^ɸマン [ha¹man] (噛まない)。「ユー 「^ɸハンバ [ɸju: 「hama mba] (よく噛みなさい)。「ユー 「^ɸハン [ɸju: 「haran] (よく噛んだ)。「ハミ「^ɸブジャン [hami¹buʃan] (噛みたい)。「ユー ハ「^ɸミーヤ「^ɸウジニー 「^ɸナイン [ɸju: ha¹mi:ja¹ ɸ¹uʃini: 「nain] (よく噛むと滋養になる)。「ハミ「^ɸキーン [hami¹ki:n] (噛み切る)。「ハミ「^ɸキチャン [hami¹kifan] (噛み切った)

「^ɸハラ [「hara] (名)

匂い。「ハラヌ シュン [「haranu ʃun] (匂いがする)。「ヌー「^ɸガラヌ ハラヌ「^ɸシュン [nu: ɸ¹garanu haranu¹ ʃun] (何かの匂いがする)。「^ɸハバシャヌ ハラヌ「^ɸシュン [「habaʃanu haranu¹ ʃun] (香ばしい匂いがする)

「^ɸハラタニゲー [「haratanige:] (名)

健康祈願。「体願い」の義。「ハラタル」 デー「^ɸイチ ヤル [「harataru¹ de: ɸ¹ifjaru] (体が第一である)。正月元旦の日に、外間ノロと外間ニーツチュ (外間根人)が村民の健康祈願をする。各家庭では旧暦の一日 (朔日)、十五日に「スィーンユ「^ɸタ [「^ɸθi: nju¹ ta]が健康祈願をした。久高島の祈願は、健康祈願、豊作祈願、大漁祈願の三つが基本になっている。旧暦二月にウプヌシガナシのウガンダティがある。その時にイシキ浜での祈願もなされる。その祭、男子の十六歳から七十歳までの人

に、マーイシ（真石）を一人宛て三個ずつ拾って持ち帰り、各家の床の間に置く。シワーシ（十二月）のウブクイ（願解き）には、この石をイシキ浜に返す。この石を拾って崇めるのは、健康祈願のためである。久高島のカツオ漁船の船主は、イシキ浜の海水を三合瓶に入れて船霊に供えた。カツオの群れに寄り付けないときには、その海水を舐先に少量ずつ垂らしたり、船に付着した海苔を落として船を清潔にしたりして、お祓いをした。

「ハリトゥー」ン[^hharitu: ^ŋ]（動）

腫れている。顔が腫れている。むくんでいる。

「ハリリ」[^hhariri]（名）

頭髮。女性の頭髮。「ハリリギー」[^hharirigi:]（髪の毛）。「ハリリ」^h「ユーイン」[^hhariri ^{ju:iŋ}]（髪を結う。女性が頭髮を結び上げる）。「ハリリ」^h「アレー」ン[^hhariri ^{ʔare:ŋ}]（髪を洗う）。ミカ「シャー」^h「アガリ」^h「ワキノ」^h「ンチャ」^h「シャーマル」^h「ユナグン」^h「シャーヤ」^h「ハリ」^h「ラー」^h「アレータロ」[mika ^{ʃa:} ^{ʔagari} ^{wakinu} ^{nʃa} ^{ʃa:maru} ^{junaguŋ} ^{ʃa:ja} ^{hari} ^{ra: ʔare:taro}]（昔はアガリワキノ地名の粘土で女性達は髪を洗っていた）。「アレーガミ」[^{ʔare:gami}]（洗い髪）。「ティブル」^h「アレー」ン[^htiburu ^{ʔare:ŋ}]（頭を洗う。男性が頭髮を洗う際にいうことば）。「ハリリ」^h「スアバキ」ン[^hhariri ^{rabaki}ŋ]（髪を梳かす。梳る）

「ハンジュン」[^hhanʃuŋ]（動）

かぶる（被る）。「ハン」^h「ダン」[han ^{daŋ}~ han ^{raŋ}]（被らない）。「ハンタン」[^hhantaŋ]（被った）。「ハンディバ」[^hhandiba]（被れ）。「ハンジ」^h「ブシャン」[hanʃi ^{buʃaŋ}]（被りたい）。「ハン」^h「リバ」^h「スイミン」^h「ムン」^hヌ[han ^{riba} ^{θimim} ^{mun} ^{nu}]（被ればよいのに）。「フバガスタ」^h「ハンジュン」[^hʔubagara ^{hanʃuŋ}]（クバ笠をかぶる）

ハン「マ」キ[ham ^{ma} ^{ki}]（名）

しもやけ。あかぎれ（皸）。「寒負け」の義。「スイヌ」^h「ハン」^h「マキ」^h「ツチャー」ン^h「バー」^h「イ」^h「アランパ」^h「プリー」^h「ガ」^h「イ」^h「キーヤ」^h「ヤリ」^h「キヤー」ン^h「ナラン」[^hθi:nu ham ^{maki} ^{tʃu:} ^m ^{ba:i ʔarampa} ^{puri:ga} ^{ʔi} ^{ki:ja} ^{jari} ^{kja:n} ^{naraŋ}]（手が皸<あかぎれ>しているときにアダン葉を採りに行くと、手が痛くてたまらない）

ハン「ルー」[han ^{ru:}]（名）

寒露（太陽暦の10月9日頃）。

「ヒー」ン[^hçi:ŋ]（動）

死ぬ。「ヒヤン」[^hçijaŋ]（死なない）。「ヒーブシャン」[^hçi:buʃaŋ]（死にたい）。「ナマ」^h「ヒヤネー」^h「ナマ」^h「çijane:」[^hnama ^{çijane:}]（まだ死なないか）。「ヒヤン」^h「キ」^h「バ」[^hçijaŋ ^{ki}]

「ba】(死ぬなよ)。「ヒジャン」[「çiɕaŋ】(死んだ)

ピ「ケーイン」[pi「ke:iŋ】(動)

かかえる(抱える)。「ワチャ「カイ」ピ「ケーイン」[waɕʃa「kai pi「ke:iŋ】(腋に抱える)。「ピ「ケートン」[pi「ke:taŋ】(抱えた)。「ピ「ケーラン」キ「バ」[pi「ke:raŋ ki「ba】(抱えるな)。「ピ「ケートン」[pi「ke:taŋ】(抱えた)。「ピ「ケーリバ」[pi「ke:riba】(抱えなさい)

「ピジ」[「piɕi】(名)

ひげ(髭)。「ピジ」スウイン」[「piɕi θuiŋ】(髭を剃る)。「ワーピジ」[「wa:piɕi】(上髭)。「ワー「ピ」ジ「ミーラチューン」[wa:「piɕi「mi:raɕu:ŋ】(上髭をたくわえている<生やしている>)。「ワーピジャー」[「wa:piɕa:](上髭をたくわえた人)

「ピジ」[「piɕi】(名)

ひじ(肘)。「ピジヌ」ヤ「ミン」[「piɕinu ja「miŋ】(肘が痛い)。「ピジシャーマティキ」[「piɕiɕa:ma tikiŋ】(肘で突く)。「ピジシャーマクワーシュン」[「piɕiɕa:ma kwa:ɕuŋ】(肘で喰らわす)

ピ「シャ」[pi「ɕa】(名)

足。足首より下の部分。「ピ「シャヌ」ピャー「スアン」[pi「ɕanu pja:「raŋ】(足が速い)。「アッキピャー「スアン」[ʔakkibja:「raŋ】(歩き早い)。「ピ「シャヌ」ンブスア「ナ」ティ「アッキ」ハンティ「シュン」[pi「ɕanu ʔmbura na ti ʔakki「hantiɕuŋ】(足が重くなって歩きにくくなった)

ピ「シャガタ」[pi「ɕagata】(名)

足跡。「ピ「シャガタヌ」ミーン」[pi「ɕagatanu mi:ŋ】(足跡が見える)。「ピ「シャガタシャーマ「スアー」チュー「スアー」スエー「ゲー」ワカ「イスアー」[pi「ɕagataɕa:ma ra:ɕ fu:「ra:θe:「ge: waka「ira:](足跡で、誰だということとは大概わかるよ)

ピ「シャクビ」[pi「ɕakubi】(名)

あしくび(足首)。「ピ「シャクビヌ」グマ「スアン」[pi「ɕakubinu guma「raŋ】(足首が小さい)

ピ「シャヌワタ」[pi「ɕanuwata】(名)

足の裏。「足の腹」の義か。「ワラ「グター」クマンヨーマ「イユ」クワーシーガ「イキヤーマ」ウイ「クリ」ピ「シャヌワタ」スアスアツティ「ヤリ」キヤーン「ナラン」タン」[wara「guta: kumaŋjo:ma ʔiju kwa:ɕi:ga ʔikja:ma ʔui「kuri pi「ɕanuwata raɕatti jari「kja:n naran「taŋ】(わらじ<草鞋>を履かないで魚釣りに行って、ウニ<海栗>を踏んで、足の裏に刺さって痛くてたまらなかった<どうにもならなかった>)。「ミカ「シャー」ガッコーチン」

ハラ「ピシャル イキタル[mikaʔʃa: gakko:ʃiŋʔ haraʔpiʃaru ʔikitaru] (昔は学校にも裸足で行った)

ピ「シャブク[piʔʃabuku] (名)

くるぶし (踝)。漁師はサバニ (くり舟) のスアシカ[raʃika] (床板) に正座して漕ぐので踝が大きくなったという。

ピ「シャベール[piʔʃabe:] (名)

足の甲。ティー「ベールピシャベール[ti:ʔbe:piʃabe:] (手の甲、足の甲)。「フシ」ヌ「ヤミンチョー」 ピ「シャベール」チ スア「ガティ プッキー」ン[ʔʃuʃiʔnu ʔjaminʃo:ʔ piʔʃabe:ʔʃi raʔgati pukki:ŋ] (腰の痛い人は、足の甲に下がって足の甲が腫れる)

ピ「シャマンキ[piʔʃamanʔki] (名)

正座。ひざまずき<跪き>。「チュヌ メーカーヤ」 ピ「シャマンキッチ ギーン」[ʔʃunu me:kaja:ʔ piʔʃamanʔkitʃi gi:ŋ] (人の前では正座する<跪いて座る>)。「キヌーヤ」ブリー「シャビタンツ」チ ピ「シャマン」キ「ハキティ」ワビシーガ「チュー」タサー「kinu:ja ʔburi: ʔʃabitantʔʃi piʔʃamanʔki ʔhakiti ʔwabi ʃi:ga ʃu:ʔtara:] (昨日はご無礼いたしましたといつて、正座して詫びをしに来ていたよ)。ピ「シャマンキ シュン」[piʔʃamanʔki ʃuŋ] (正座する)

ピ「ジル」アスイ[piʃiruʔʔa ʔi] (名)

冷や汗。寝汗。ピ「ジル」アスイ「ハ」キン[piʃiruʔʔa ʔi haʔkiŋ] (寝汗をかく)。「アンネー」ウルルカ「サリヤーマ」ピ「ジュル」アスイ「ハ」チャン[ʔanne:ʔʔururukaʔsarija:maʔ piʃuruʔʔa ʔi haʃaŋ] (あれに驚かされて冷や汗をかいた)

ピ「スウ」ルシ[piʔuʔruʃi] (名)

ひよめき (しん門)。ピ「スウ」ルシヌ「ウイ」チューン[piʔuʔruʃinuʔ ʔuiʔʃu:ŋ] (ひよめきが動いている。生後六ヶ月ごろまでには、ひよめきの動きは止まる)。「タンカーマリーカヤ」ハタマイガ「シュラ」[ʔtaŋka:mari:kaja: hatamaigaʔʃura] (誕生日までには固まるかなあ)

ピ「チャイ」[piʔʃai] (名)

ひたい (額)。ピ「チャイ」ヌ「マジ」スアン[piʔʃaiʔnu magiʔraŋ] (額が大きい)。「スウジ」ナヤ「グラン」[ʔuʃiʔnaja: guraŋ] (妻になる人はいない)

ピ「チャイン」[piʔʃain] (動)

光る。ピ「チャティ」[piʔʃati] (光って。まぶしくて。光線が強くて目が開けられない)。「スイラヌ」ピ「チャ」イ「ジュースアヌ」ミーヌ「ア」キララ「ン」バー「イ

ン¹ アン[¹ θiranu pi¹ʃa¹i ʃu:ɾanu¹ mi:nu ʔa¹kirara¹m ba:¹iŋ¹ ʔaŋ] (太陽光線が強くて目が開けられないときもある)。ピ¹「チャ¹ティ¹」¹シューン[p i¹ʃa¹ti¹ ʃu:ŋ] (まぶしくなる<光ってくる>)。ピ¹チャ¹「タン」[pi¹ʃa¹taŋ] (まぶしかった<光った>)。ピ¹チャ¹「トゥータン」[pi¹ʃa¹tu:taŋ] (まぶしかった<光っていた>)。ピ¹「チャ¹ティ¹」¹「キヤー¹」¹ン¹「ナラン」[¹pi¹ʃati¹ ʃja:¹n¹ ʔnaraŋ] (まぶしくてたまらない<光ってどうにもならない>)

「ヒッ¹「チャ¹キ」」[¹ʃit¹ʃaki] (名)

つまずき (躓き)。「ヒッ¹「チャ¹キ」¹「チャン」」[¹ʃit¹ʃakiʃaŋ] (躓いた)。「ヒッ¹「チャ¹キヤー¹」¹「スアン」」[¹ʃit¹ʃakja:¹ ʃaŋ] (躓きはしない)。「ヒッ¹「チャ¹キ」¹「スアン」」[¹ʃit¹ʃaki ʃaŋ] (躓かない)。「ヒッ¹「チャ¹キ」¹「シャーマ¹」¹「ドゥゲーッ¹」¹「タン」」[¹ʃit¹ʃakiʃa:ma¹ duge:t ʃtaŋ] (躓いて転んだ)。

「ヒッ¹「チャ¹キ」¹「ピッ¹「チャ¹キ」」」[¹ʃit¹ʃaki ʃpit¹ʃaki] (名)

躓くこと。「ヒッ¹「チャ¹キ」」[¹ʃit¹ʃaki] (躓き)のABCDEBCD型重言。

「ビ¹「ヒー¹」」[¹ʔʃi:¹] (名)

へ (屁)。おなら。「ビ¹「ヒー¹」¹「ン」」[¹ʔʃi:¹ ʃʃi:¹ŋ] (屁をへる<放る>。放屁する)。「ビ¹「ヒー¹」¹「ビヤーンキバ¹」¹「クサアスア¹」¹「ナイ¹」¹「クトウ」」[¹ʔʃi:¹ ʃʃi:ja:ŋkiba¹ kuɾaɾa ʃnai¹ kutu] (放屁するなよ。臭くなるから)。「ビ¹「ヒー¹」¹「ビヤン¹」」[¹ʔʃi:¹ ʃʃi:ʃaŋ] (屁をへった。放屁した)。「ビ¹「ヒー¹」¹「ンバーイ」」[¹ʔʃi:¹ ʃʃi:¹m ʃba:i] (放屁するとき)

「ビ¹「ヒング」」[¹ʔʃiŋgu] (名)

あか (垢)。体の汚れ。鍋墨。黒い煤煙。「竈黒<へぐろ>」の義か。「フィン¹「グ」」[ʃiŋgu] (垢)ともいう。「ビ¹「ヒング」¹「ウトウシュン」」[¹ʔʃiŋgu ʔutuʃu¹ŋ] (垢を落とす。体の汚れを落とす)。「ドゥーヌ¹」¹「アカ¹」¹「ウトウシュン」」[¹du:nu ʃʔaka ʔutuʃu¹ŋ] (体の垢を落とす)ともいう。

「ピ¹「ミ¹「キ」」」[¹ʔʃimi¹ki] (名)

ぜんそく (喘息)。「ピ¹「ミ¹「キ」¹「シュン」」」[¹ʔʃimiki ʃuŋ] (喘息の発作が起きる<喘息する>)。「ピ¹「ミ¹「キヤー」」」[¹ʔʃimikja:] (喘息持ち)。

「ピ¹「ム」」[¹ʔʃimu] (名)

こめかみ。「ティ¹「ブンヌ¹」¹「ヤリ」¹「ピ¹「ムカイ」¹」¹「ホー」¹「ヤク¹」¹「ハタン」」[¹ʃtibunnu¹ ʃjari ʃpimukai¹ ho:ʃjaku ʃʔataŋ] (頭痛がして、こめかみに膏薬を貼った)

「ピ¹「ルグミン」」[¹ʔʃirugumiŋ] (動)

しびれる (痺れる)。「ピ¹「ルグマン」」[¹ʔʃiruguman] (痺れない)。「ピ¹「ルグ」¹「ラン」」[¹ʔʃiru¹gu¹raŋ] (痺れた)。「ピ¹「ルグリ」¹「ナー」¹「ン」」[¹ʔʃiruguri¹ na:ŋ] (痺れてしまった)。「ピ¹「シャヌ¹」¹「ピ¹「ルグリ」¹」¹「スアタ¹」¹「ラン」」[¹ʃpiʃanu ʔʃiruguri¹ ʃata¹raŋ]

(足が痺れて立てない)。スィー「ピシヤヌ ピルグミン[θi:「piʃanu p̄rugumiŋ] (手足が痺れる)。「ピルグルーン[「p̄ruguru:ŋ] (痺れている)

「ファイ[「Φui] (名)

こえ (声)。「ファイヌ」 マギ「スァン[「Φuinu magi「raŋ] (声が大きい)。「ファイチキタン[「Φui ʃikitaŋ] (安否を確認した<声を聞いた>)。「ヤー ファイ チキタン[「ja: Φui ʃikitaŋ] (君の安否を尋ねていたよ)。「ファイ 「ンギャシュン[「Φui 「ŋgjaʃuŋ] (声を出す)。「ファイヌ 「ハリーン[「Φuinu 「hari:ŋ] (声がかかる)。「マギ「ファイ[magi「Φui] (大声)

フィー「フィーグワー[Φi:「Φi:gwa:] (名)

口笛。フィー「フィーグワー」 プキン[Φi:「Φi:gwa:」 p̄kiŋ] (口笛を吹く)

「フガ[「Φuga] (名)

睾丸。ヤツ「クァン[jak「kwaŋ] (睾丸) ともいう。ヤツ「クワナー[jak「kwana:] (睾丸の大きな人) ともいう。

「フギ[「Φu「gi] (名)

陰毛。「フギヌ」 ミー「タン[「Φuginu mi:「taŋ] (陰毛が生えた)

「プキン[「p̄kiŋ] (動)

吹く。吸う。「スァバク 「プキン[「raʃaku 「p̄kiŋ] (煙草を吸う)。「スァバ「クル」 プチ ギ「チュール[raʃa「kuru puʃi gi「ʃu:ru] (煙草を吸って座っている)

「プキン[「p̄kiŋ] (動)

吹く。「プカン[「p̄kaŋ] (吹かない)。「プチャン[「puʃaŋ] (吹いた)。「スァバク 「プキン[「raʃaku 「p̄kiŋ] (煙草を吸う<吹く>)。

「ブク[「buku] (名)

こぶ (瘤)。「膨れているもの」の義。kobu→bukuのように[k]と[b]が音位転倒したものである。「ブクヌ」 ンギーン[「bukunu ʔŋgi:ŋ] (瘤がでる)。「ハ「シラ」チ 「ティブン ウ「チャーマ」 ブクヌ ンギ「タン[「p̄ʃa「ʃira「ʃi 「tibuŋ ʔu「ʃa: ma「 bukunu ʔŋgi「taŋ] (柱に頭を打って瘤をこしらえた<瘤が出た>)

フ「クミン[Φu「kumiŋ] (名)

芯のあるテンプラ。アンダー「ギー[ʔanda:「gi:] (油あげ。芯のないテンプラ) に対していう。「ウヌ イユシャーマ」 フク「ミン アギリバ[「ʔunu ʔijuʃa:ma「 Φuku「miŋ ʔagiriba] (この魚でフクミン<芯のある、魚芯テンプラ>を揚げなさい)。「ウヌ イユ スァバ」チ フク「ミンヌ シン スィバ[「ʔunu ʔiju raʃa「ʃi Φuku「minnu ʃin θiba] (この魚をさばい<捌い>てフクミンの芯にしなさい)

「フシ」[「Φuʃi」] (名)

こし (腰)。「フシヌ」 ヤミン 「ナマー」 ノー「トゥーヤビーン」[「Φuʃinu」 ja min 「nama:」 no:「tu:jabi:ŋ」] (腰の痛みも今は治っておりますよ)。フ「シヌ」 ヤリ アッキ「ハンティ シュン」[Φuʃinu」 jari ʔakki「hanti ʃuŋ」] (腰が痛くて歩きにくくなった<歩き兼ねする。歩くのが困難になる>)

フ「シナガリ」[Φuʃinagari] (名)

せなか (背中)。背筋。「スアキヌ スアカ」スアクトウ」 スア「キブントウ」 ウ「チャー」ティ フ「シナガリン」 シュラ「スアン」[「rakinu raka「rakutu」 ra「kibuntu」 ʔu「ʃa:」ti Φuʃinagariŋ」 ʃura「raŋ」] (背が高いので身長と似合って背筋が見事だ<美しい>)。「フシ」[「Φuʃi」] (腰) ともいう。

フ「シブン」[Φuʃibuŋ] (名)

腰骨。フ「シブンヌ」 ヤミン[Φuʃibunnu」 jamiŋ] (腰骨が痛い)。フ「シブンヌ」 グリ「タン」[Φuʃibunnu」 guri「taŋ」] (腰骨が折れた)。フ「シブン」 グ「タン」[Φuʃibuŋ」 gu「taŋ」] (腰骨を折った) ともいう。

プ「シングワーン」[puʃingwa:ŋ] (名)

健康祈願。昔は毎月の初め (朔日)、15日に、「スィーンユ」タが健康祈願をした。

「プッキーン」[「pʊkki:ŋ」] (動)

はれる (腫)。「プッキタン」[「pʊkkitaŋ」] (腫れた)。「プッキトゥーン」[「pʊkkitu:」ŋ] (腫れている)。ガジャー「ネー」 スアスアリ「ヤーマ プッキトゥーン」[gaʒa:「ne:」 rʌrari「ja:ma pʊkkitu:ŋ」] (蚊に刺されて腫れている)。「ティラヌ」 「プッキトゥーン」[「tiranu」 「pʊkkitu:ŋ」] (顔をふくらま<膨らま>せている。立腹している)。

プッチャギ「スアン」[putʃagi「raŋ」] (形)

可愛い。「アラー」 デー「ジナ」 プフッチャギ「スアヌ」 ワラビ 「ヤル」[「ʔara:」 de:「ʒina」 pʰutʃagi「raŋu」 warabi 「jaru」] (あれはとても可愛い子だ)。「アヌ」 ックワー ヌーン「ン」 プッチャギ「スアー」 ナーン[「ʔanu kkwa: nu:」 m putʃagi「ra:」 na:ŋ」] (あの子はちっとも<何も>可愛くない)。ミカ「シャー」 プッチャギ「スアタン」 ドー[mika「ʃa:」 putʃagi「ratan」 do:] (昔は可愛かったよ)。「ンナシャーマ」 プッチャギ「スアンチ」 イチュータスアー[「nnaʃa:ma」 putʃagi「raŋʃi ʔiʃu:ta:ra:」] (みんなで可愛いと言っていたよ)

プフープフー「グワー」[pʰu:pʰu:「gwa:」] (名)

こうもん (肛門)。「ジー」ヌ 「ンギティ」 「ヤリ」 「ギチャー」 グララン[「ʒi:」nu ʔŋgiti ʔjari 「giʃa: guraraŋ」] (痔病が出て痛くて座っておれない)。「ティビ」ヌ 「ヤミン」[「tibi」nu ʔjamiŋ」] (尻が痛い) ともいう。

「プフスウ」[「pʰu θu」] (名)

へそ (臍)。「ティンブ」スウ[^{ti}mbu^θu] (出べそ)。「フソー」デー「ジナ ト
ウクマ」ドー[^pΦu^θo:^θ de:^θina tukuma^θdo:] (お臍は大切なところだよ)
「フフン」[^pΦu^η] (名)

骨。「フフンヌ」グリ「タン」[^pΦunnu^θ guri^θtaŋ] (骨が折れた)。「フフンヌ」ア
ラスアン[^pΦunnu^θ ^θaraŋ] (骨が太い)。「アラブニー」[^θarabuni:] (骨太の
人)。

「ブン」[^pu^η] (船)

「フンダ」[^θunda] (名)

ふくらはぎ (脛脛)。脛の後ろの筋肉。

フンダ「アガイ」[^θunda^θagai] (名)

こむら返り。「コムラカヘリ『和名類聚抄』(3)」。「ニントウーティ」ン フンダ「
アガイッチ」ヤリ 「ウクスアリー」ン 「バーン」アスアー[ⁿintu:^{ti}^η Φun
da^θagait^θi^θ jari ^θukurari:^θm^θba:^η ^θara:] (寝ていても、こむら返り
をして、痛くて起こされることもあるよ)

へー「イン」[he:^θiŋ] (動)

ふとる (太る)。肥える。へー「トゥー」ン[he:^θtu:^θiŋ] (肥えている)。へー「ラン」[h
e:^θraŋ] (肥えない)。「チャッピ」カティ」ン へー「ラン」[^θɕappi kati^θiŋ he:^θ
raŋ] (いくら食べても肥えない)。へー「ター」グラン[he:^θta:^θguraŋ] (肥えて
はいない)。へー「トゥーンシャコー」ドゥー 「プリバ」[he:^θtu:^ηɕako:^θ du:
^θpuriba] (肥えていたら体を動かしなさい)。「へーヤー」[^θhe:^θja:] (肥えた人)。へ
ー「トゥーヌ」アカングワ[he:^θtu:^{nu} ^θakangwa] (肥えている赤ちゃん)。「へー
ヤーアカングワ」[^θhe:^θja:^θakangwa] (肥えた赤子)

「へーナ」[^θhe:^θna] (名)

かいな (肩から肘までの間)。上腕部。「へーナヌ」ヤリ[^θhe:^θnanu^θ jari] (上腕
部が痛い)。「カラシグトゥ」シミラリヤーマ」へー「ナ」ヌ 「ヤリ」「キヤー」ン
ナ「ラ」ン[^θi^θkaraɕigutu ɕimirarija:^{ma} he:^θna^θnu^θ jari ^θkja:^θiŋ n
a^θra^θiŋ] (力仕事をさせられて腕が痛くてたまらないく仕方がない)

ホーガー「キー」[ho:^θga:^θki:] (名)

頬被り。「頬掛け」の義か。寒い時にタオルで頬被りをする。ホーガー「キー」シュ
ン[ho:^θga:^θki:^θju^θiŋ] (頬被りをする)。

「ホー」ウカイン[^pΦo:^θ ^θukaiŋ] (連)

性交する。「ウカイン」[^θukaiŋ] (性交する)。「ウカ」タン[^θuka^θtaŋ] (性交した)。
ウカ「ランタン」[^θuka^θrantaŋ] (性交しなかった)。「ウカ」ラン[^θuka^θraŋ] (性交し
ない)。動物の交尾は、ティル「ビン」[tiru^θbiŋ] (交尾する)という。「インヌ」ティ

ル「ルー」ン[¹ʔinnu tiru¹ru:¹ŋ] (犬が交尾している)

「ホー」[¹pʰo:] (名)

いんもん (陰門)

ホー「イン」[¹pʰo:¹iŋ] (動)

はう (這う)。ホー「ラン」[¹pʰo:¹raŋ] (這わない)。ホー「タン」[¹pʰo:¹taŋ] (這った)。

ホー「トゥーン」[¹pʰo:¹tu:¹ŋ] (這っている)。「アカングワン」¹ pʰo:¹inne:¹ʃi¹ na¹taŋ] (赤ん坊が這うようになった)

「マーチャン」[¹ma:¹ʃaŋ] (動)

亡くなられた。「死ぬ」の敬語。ウフ「シューヤ マーツチャン」[¹uʔʰu¹ʃu:¹ja ma a:¹tʃaŋ] (お祖父さんは亡くなられた)。「マーツ」チ ナー「ン」[¹ma:¹tʃi¹ na:¹ŋ] (亡くなられてしまった)。「ナマ マースァン」[¹nama ma:¹raŋ] (まだ亡くならない)。「マースァン」キ「バ」[¹ma:¹raŋ¹ki¹ba] (亡くなられるな)

「マガイン」[¹magaiŋ] (動)

かがむ (屈む)。「フシ マガ」ティ 「ムン」¹「スウイン」[¹ʰuʃi maga¹ti¹ mun¹ θuiŋ] (腰が曲って、<かがんで>物を取る)。「スウシ」¹「スウヤーマ フシヌ マガトウー」ン[¹θuʃi¹ θuja:¹ma ʰuʃinu magatu:¹ŋ] (年をとって腰が曲がっている)。「スウシ」¹「スウヤーマ ホーグ マガ」ティ ナー「ン」[¹θuʃi¹ θuja:¹ma ho:¹gu maga¹ti na:¹ŋ] (年をとって腰が曲がってしまった)。「マガ」ティ 「ギチューン」[¹maga¹ti¹ giʃu:¹ŋ] (うずくまっている)

マジ「ヤマシ」[magi¹jama:ʃi] (名)

大怪我。マジ「ヤマシ」チャ「ン」[magi¹jama:ʃi ʃa¹ŋ] (大怪我をした)

「マ」ク[¹ma¹ku] (名)

陰茎。「マクヌ」¹ ナガ「スァン」[¹makunu¹ naga¹raŋ] (陰茎が長い)

「マグイ」[¹magui] (名)

しわ (皺)。マグ「トウー」ン[¹magu¹tu:¹ŋ] (皺になっている)。「マグリティ」[¹maguriti] (皺になっている)。「アリガ ティラー」¹ アン「チ マグリトウー」ン¹ ムノー[¹ʔariga tira:¹ ʔan¹ʃi maguritu:¹m¹ muno:] (あの人の顔は、あんなに皺だらけになっていることよ)。「マ」グティ「¹ ナー」ン[¹ma¹guti¹ na:¹ŋ] (皺がよってきた)。「マグイ」¹「ナ」ティ 「チャン」[¹magui¹ na¹ti¹ ʃaŋ] (皺がよってきた)

マタ「バスィ」[mata¹ba θi] (名)

また (股)。「マタ」[¹mata] (股)ともいう。「マタ」¹「スイーン」[¹mata¹ θi:¹ŋ] (股ずれする)。「アツ」¹「キーヤ」¹ マタ「バスィヌ スィティ」¹ ヤミン[¹ʔak¹ki:¹ja¹

mata「ba θinu θiti」jamiŋ] (歩くと股ずれして痛む)。「スィー」ン[「θi:」ŋ] (擦る)。スィリ「ラン[θiri「raŋ] (擦れない)。「スィリ」ン[「θiri:」ŋ] (擦れる)
 マタ「バスィ」ゴージャク[mata「ba θigo:ja」ku] (名)

あっち付き、こっち付きする者。信用できない人。

「マユ」[「maju」] (名)

まゆ(眉)。アカ「マユ」[?aka「maju:」] (眉の赤い人)。「マユ」ヌ マギ「スァ」ン[「majunu」 magi「raŋ」] (眉が大きい)。「マギ」マユ[「magimaju」] (眉の大きな人)。ピスィ「マ」ユ[pi θi「ma」ju] (眉の薄い人)。「マユ」ヌ 「ピッサ」スィ」ン グ「ヤ」ースァネー[「majunu」 「pirra θi」ŋ gu「ja:ra:ne:」] (眉の薄い人もいるのではないか)

「マンタ」[「manta」] (名)

まぶた(瞼)。チュカー「ミー」[ʃuka:「mi:」] (ひとえまぶたく単瞼)。タカー「ミー」[taka:「mi:」] (二重瞼)。マンタ「カイ」 ミン「デー」ヌ 「ンギ」トウ」ン[man「takai」 mi:n「de:nu」 ?ŋgi「tu:」ŋ] (瞼にもものもらいが出来ている)。「アラー」チュカー「ミー」 ヤロ[「?ara:」 ʃuka:「mi:」 jaro] (あれはひとえまぶたく単瞼だ)

「マンタギ」ー[「mantagi」:] (名)

まつげ(睫)。マンタ「ギー」ヌ ナガ「スァ」ン[manta「gi:」nu naga「raŋ」] (睫が長い)。「ヒラ」マー ミー「スィガ」 マンタ「ギーヤ」 ミー「ラン」[「çirama:」 mi:「θiga」 manta「gi:ja」 mi:「raŋ」] (慶良間島は見えるが睫は見えない。灯台下くもと暗し)

「ミー」[「mi:」] (名)

目。「スウ」シ 「スウ」ティ 「ミー」ン ミー「ラン」 ナ「ティ」 「チャン」 「ムン」ヌ [「θu:ʃi」 「θu:ti」 「mi:m mi:」ran na「ti」 ʃam「mun」nu] (年をとって目も見えなくなってきたよ)。「アラー」 ミーヌ マギ「スァ」ヌ[「?ara:」 mi:nu magi「ra:nu」] (あれは目が大きい)。ミンタ「マー」[minta「ma:」] (目の大きい人)。ウブ「ミー」[?uβu「mi:」] (大きな目。大きな目の人)。「ミー」ヌ 「ヨースァ」 「ナタン」 [「mi:nu」 「jo:ra」 「nataŋ」] (視力が弱くなったく目が弱くなった)。「アラー」 ミー「マギー」 ヤロ[「?ara:」 mi:「magi:」 jaro] (あの人は目が大きい)

「ミーウチ」[「mi:ʔuʃi」] (名)

まばたき(瞬き)。「ミーウチ」 シュ」ン[「mi:ʔuʃi」 ʃu」ŋ] (瞬きする)。「アラー」チャー ミーウチ シュ」ン[「?ara:」 ʃa: mi:ʔuʃi ʃu」ŋ] (あの人はいつも瞬きする)。「ミーウチ」 チュー」ン[「mi:ʔuʃi」 ʃu:」ŋ] (瞬きしている)

ミークラ「ガン」[mi:kura「gaŋ」] (名)

めまい (眩暈)。「アラー」 ユー ミークラ「ガン シュ」ン[ʔara: ʔ ju: mi:kura ʔgan ʔu ʔŋ] (あの人はくあれは>よく眩暈をする)。ミークラ「ガン チャ」ン[mi:kura ʔgan ʔa ʔŋ] (眩暈をした)

ミー「ティキーン」[mi: ʔtiki:ŋ] (動)

見つめる。睨む。ミーティ「キラン」キ「バ」[mi:ti ʔkiran ʔki ʔba] (見つめるなよ。睨むなよ)。ミーティキ「タン」[mi:tiki ʔtan] (見つめた。睨んだ)。ミーティキ「トゥーン」[mi:tiki ʔtu:ŋ] (見つめている)。「アヌ ッチョー」 ワン「ビカーン」 ミーティキ「トゥースィガヤー」[ʔanu tʃo: ʔ wam ʔbika:m ʔ mi:tiki ʔtu: θigaja:] (あの人は私だけを見つめているよ)。ミーティ「キリバ」[mi:ti ʔkiriba] (見つめなさい。睨みなさい)

「ミーヌ ク」チ「」[mi:nu ku ʔʃi] (連)

めがしら (目頭)。「目の口」の義か。「ミーヌ ク」チカイ「 ナダヌ 「スアマトゥーン」[mi:nu ku ʔʃikai ʔ nadanu ʔramatu:ŋ] (目頭に涙がたまっている)。「ミーヌ ク」チカイ「 ミーク」スウヌ「 スアマトゥーン」[mi:nu ku ʔʃikai ʔ mi:ku ʔθunu ʔ ramatu:ŋ] (目頭に目やにく目くそ>がたまっている)

ミーヌ「シン」[mi:nu ʔʃin] (名)

ひとみ (瞳)。「目の芯」の義か。ミーヌ「シンヌ」 ヤリ「[mi:nu ʔʃinnu ʔ jari] (瞳が痛む)。ドゥゲー「リヤー」マ ミーヌ「シン」 ダキグシネー スァスァツ「ティ」ムノー ミー「ラン ナ」タン[duge: ʔrija: ʔma mi:nu ʔʃin dakiguʃine: ʔra:rat ʔti ʔmuno: ʔ mi: ʔran na ʔtan] (転んで、竹<竹串>で瞳を刺されて、ものが見えなくなった)

ミーピ「チャイン」[mi:pi ʔʃain] (動)

怒る。目を剥く。「目を光らせる」の義。ミーピ「チャラン」キ「バ」[mi:pi ʔʃaran ʔki ʔba] (怒るなよ)。ミーピ「チャタン」[mi:pi ʔʃatan] (怒った)。ミーピ「チャトゥーン」[mi:pi ʔʃatu:ŋ] (怒っている)。ミーピ「チャ」ティ「グン」[mi:pi ʔʃa ʔti ʔgun] (目を光らせている。怒っている)

「ミーフパヤー」[mi: ʔʃupaja:] (名)

おめざ。目覚ましに与える菓子や食物。「スウイヌ ナキグイシャーマ」 ミーヤフバハ「タン」[θuinu nakiguiʃa:ma ʔ mi:ja ʔʃuʔʃa ʔtan] (鶏の鳴き声で目が覚めた)。「シワ シャーマ」 ユナ「ガ」トゥ ミーフバハティ 「ニンダランタン」[ʃiwa ʃa:ma ʔ juna ʔga ʔtu ʔ mi: ʔʃuʔʃati ʔnindarantan] (心配して夜通し目が覚めて<目が冴えて>眠れなかった)

「ミーミンコー[「mi:miŋko:] (名)

びく (魚籠)。女性が用いる魚籠

「ミーン[「mi:ŋ] (動)

①見る。読む。「シンブン」 ミーン[「ʃimbum」 mi:ŋ] (新聞を見る<読む>)。
「シバ」イ 「ミーン[「ʃiba」i 「mi:ŋ] (芝居を見る)。「ミヤン[「mijaŋ] (見ない)。
「ミーチャー ナラン」ムン ミチャー「ン[「mi:ʃa: naram」mum miʃa」ŋ] (見
てはならないものを見た)。「ミチャー」ンバーイ[「miʃa」mba:i] (見たとき)。ミー「
バ[mi:「ba] (見なさい)。「マー」ン ミヤン「ヨー」マ 「フマ」 「ミーバ[「ma:」m
mijaŋ「jo:」ma 「Φuma」 「mi:ba] (何処も見ないでここを見なさい)。「ミーバ
スイミ」タン」 ムンヌ ミー「ハン」チ 「ナーン[「mi:ba θimi」tam」
munnu mi:「Φan」ʃi 「na:ŋ] (見ればよかったのに、見損なって<見はずして>
しまった)。「ミー」ブ」シャン[mi:「bu」ʃaŋ] (見たい)。「ミー」ブ」シャタスイガ」 ミ
ヤ「ランタン[mi:「buʃata θiga」 mija「rantaŋ] (見たかったが見れなかった)。「
シバイ」 ミー」ガ 「イキン[「ʃibai mi:」ga 「?ikiŋ] (芝居を見に行く)。「シン
ブドゥ」 ミチュール[「ʃimbundu」 miʃu:ru] (新聞を<ぞ>見ている<読んで
いる>)。②世話する。「ワナー」 「アンネ」ー ミ「ヤットウーン[「wana:
「?anne」: mi「jattu:ŋ] (私はあれの<あの人の>世話になっている)

ミーン「デー[mi:n「de:] (名)

ものもらい (麦粒腫)。「ミーン」デー」ヌ 「ンギ」タン[mi:n「de:」nu 「ŋgi」taŋ] (も
のもらい<麦粒腫>が出来た)。「ミーン」デー」ヤ 「キヤー」チ 「ノー」チャガヤー[mi
:n「de:ja kja:」ʃi no:「ʃagaja:] (ものもらい<麦粒腫>はどうやって治したか
なあ)

ミツ「カー[mik「ka:] (名)

盲人。「ビョー」キ 「ハカヤー」マ」 ミツカ 「ナ」ティナーン「ムン」ヌ[bjo:「ki hak
aja:ma」 mikka 「na」tina:m「mun」nu] (病気に罹って盲人になってしまった
よ)。「ティブンチ」 ニティヌ 「アガイックワシャー」マ」 ミーヤ ミー「ラン
ナ」ティナーン[「tibunʃi」 nitinu 「?agaikkwaʃa:ma」 mi:ja mi:「ran na」
tina:ŋ] (頭に熱が上がりすぎて、目が見えなくなってしまった)

「ミミ[「mimi] (名)

みみ (耳)。「ミミ」マギー[mimi「magi:] (耳の大きい人)。「ミミ」ヌ 「スウースァ
ン[「miminu」 「θu:raŋ] (難聴である<耳が遠い>)。「ミミ」クジラー[mimi「kuʃi
ra:] (難聴の人。「耳崩れ」の義か)。「ツチュグトゥヌ」 ミ「ミチ」 イーン[「tʃu
gutunu」 mi「miʃi」 ?i:ŋ] (うわさ<ひとごと。「人言」の義か>が耳に入る)

「ミリ」ハンダイ[「miri」Φandai] (名)

- みずばな (水っ漬)。「^バハナシキ ハカ^カティ ミリ^バハン「ダイヌ」 ンギーン[^ΦΦa naʃiki haka^{ti} miri^Φan^{da}inu^ʔ ŋgi:ŋ] (風邪をひいて水っ漬が出る)
- ミン「カー[miŋ^{ka}:] (名)
- 聾者。ミミクジ「ラー[mimikuʃi^{ra}:] (聾者。「耳崩れ」の義)ともいう。「^ミミヌ クジ「リティ ッチュヌ イーヌ」 パナ「シーヤ チカラン[^ミmiminu kuʃi^r iti tʃunu ʔi:nu^ʔ pana^{ʃi}:ja ʃikaraŋ] (耳が潰れて他人のいうことが聞けない)
- 「ムキーン[^μmuki:ŋ] (動)
- 剥ける。「^Φハギーン[^ΦΦagi:ŋ] (剥げる)ともいう。
- 「ムクルー^ン[^μmukuru:ʔŋ] (動)
- むく (浮腫) んでいる。「^ティラヌ 「ムクルー^ン[^{ti}ranu^ʔ ^μmukuru:ʔŋ] (顔が浮腫んでいる)。
- 「ムシバー[^μmuʃiba:] (名)
- 虫歯。「^アマム^ン「ビカー^ン ケーヤー 「ムシバー ナイン^ド」^ド[^ʔamamum^b ika:ŋ ^{ke}:ja: ^{mu}ʃiba: nain^{do}:] (甘いものばかり食べたら虫歯になるよ)。「^ムシバーヌ^ウ プ「スアン[^μmuʃiba:nu^ʔ ʔupu^{ra}ŋ] (虫歯が多い)。「^ムシバーヌ^{マン}「ドゥー^ン[^μmuʃiba:nu^ʔ man^{du}:ʔŋ] (虫歯が沢山ある)ともいう。
- 「ム^ム[^μmu^{mu}] (名)
- もも (腿)。「^ムムヌ マギ「スアン[^μmumunu magi^{ra}ŋ] (腿が大きい)。「^アンマリ^ヘーイジュー「スアヌ^マタヌ 「スイティ^ア ヲッキ「ハンティ シュン[^ʔammari^{he}:iʃu:^{ra}nu^{ma}tanu ^θiti^ʔ akki^{hanti} ʃuŋ] (あまりにも肥え過ぎて股が擦れて歩きにくい)
- 「ム^ン 「イー^ン[^μmuŋ ^ʔi:ŋ] (連)
- ものをいう。「^ムノー 「イヤ^ン[^μmuno: ^ʔijaŋ] (ものは言わない)。「^ムン 「イチヤ^ン[^μmuŋ ^ʔiʃaŋ] (ものを言った)。「^イチ^スウラ「スイバ[^ʔiʃi^θura^θiba] (言ってくれよ)。「^イヤ^ンキ「バ[^ʔijaŋ^{ki}ba] (言うな)。「^イーブシャ^ン[^ʔi:buʃaŋ] (言いたい)。「^イースィ^チキバ[^ʔi:θi^{ʃi}kiba] (言う事を聞きなさいよ)。「^イースァー^チカンバ[^ʔi:ra:^{ʃi}kamba] (言う事は聞きなさい)
- ムンユ「ミヤ^ー[muŋju^{mja}:] (名)
- おしゃべり。「ものよみ」の義か。「^アラー^ムン「ユミヤ^ー ヤクトウ アンネーヤヌ^ンチ「カスアラン[^ʔara:^μŋjumja: jakutu ʔanne:ja nu:ⁿ ʃi^{ka}raŋ] (あれはお喋りだから、あれには何も話せない<聞かされない>。話して聞かされない)。「^アラー^ムン「ユミヤ^ー ヤル[^ʔara:^μŋjumja:^ʔ

jaru] (あれはお喋りだ)

「ヤキバイ」[「jakibai】(名)

「焼き針」の義。針を焼いて腫物に刺し、膿を出す民間医療器具。針を四、五本焼いて、それを使って悪性の腫れ物を治療した。「クビカイ」 ブクヌ ンギ「ヤーマ ヤキバイ スアッタン チュン ヲグスアー[「kúbikai」 bukunu ʔngi「ja:ma jakibai rattan ʃuʔŋ ʔgura:](首に瘤ができて、焼き針をされた人もいるよ)。「ヤキバイ スアシャーマ」 ンミヤー ンギヤ「シュル[「jakibai raʃa:ma」 ʔmmja: ʔngja「ʃuru】(焼き針を刺して膿は出すのだ)

「ヤチュー」[「jaʃu:](名)

やいと(お灸)。「ヤチュー」 「シュン[「jaʃu:」 ʃuŋ】(お灸をすえる)。「ヤチュー」 「スアリー」[「jaʃu:」 ʔrari:ŋ】(お灸される)。「ティブ」ヌ ヲヤリ ヲヤチュー 「ツチャクトウ」 ノータ「スア」[「tibun」nu ʔjari ʔjaʃu: 「tʃakutu」 no:ta「ra:](頭痛がしてお灸をしたら治ったよ)

「ヤナハラ」[「janahara】(名)

臭い匂い。「ヤナハラ」 ツチ[「janahara tʃi】(いやな匂いがして)。「ヤナハラ」 ツチ フシ「ガラン」[「janahara tʃi」 ʔuʃi「garan】(臭い匂いがしてたまらない)

「ヤミン」[「jamin】(動)

痛む。痛い。「ヤマン」[「jaman】(痛まない。痛くない)。「マー」ン 「ヤマ」ン[「ma:」ŋ ʔjamaʔŋ】(何処も痛くない)。「マー」ヌ 「ヤミガ」[「ma:nu」 ʔjamiga】(何処が痛いか)。「ヤミ」タン[jamiʔtaŋ】(痛かった)。「ヤリン」 ニリ「リバ」[「jarin niriʔri ba】(痛くても我慢く念じ>しなさい)。「ハ」ヌ ヲヤミン[「ʔa:」nu ʔjamin】(歯が痛い。痛む)。「ティブ」ヌ ヲヤミン[「tibunnu」 jamin】(頭が痛い)。「ヤダ」ン[「jada」ŋ】(痛んだ)。「シレー」 「シレー」 ヤリ 「シュー」ン[ʃi:ʔre:ʔ ʔjari ʔʃu:ʔŋ】(次第に痛くなってくる)。「キジ」ヌ ヲヤミン[「kiʃinu」 jamin】(傷が痛む)。「ヤミ」ン バー「イ」ー[「jami」m ba:ʔi:](痛いとき、痛むとき)。「ヤリ」 フシ「ガラン」[「jari ʔuʃi「garan】(痛くてたまらない)。「フシ」ガラン アタイ」 ヤミン[ʔuʃi「garan ʔataʔi ʔjamin】(我慢できないほど痛い。痛む)。「ティブ」ヌ ワリ」ンネー」チ ヲヤリ フシ「ガラン」[「tibunnu wari:nne:ʔʃi ʔjari ʔuʃi「garan】(頭が割れるように痛くてたまらない<我慢できない>)

ヤン「メー」[jam「me:](名)

病気。「やまい(病)」の義。「ヤン」メー ハカ」ティ[jam「me: hakaʔti】(病気に罹って)。「ヤン」メー」ムン ナ」ティ[jam「me:mun naʔti】(病人になって)。「ヤン」メー」ヌ ノー」タン[jam「me:」nu no:ʔtaŋ】(病気が治った)。「ティブ」ルヤン「メー」[tiburujam「me:](頭痛。「頭の病」の義)。

ユキ「ガムン」[juki ɾgamuŋ] (名)

男もの (男用の衣類)。ユキガ「ムンヌ ディキンヌ」 イキラ「スアン」[jukiga ɾmu nnu dikinnu ʔikira ɾraŋ] (男用の衣類が少ない)

ユク「イン」[juku ɾiŋ] (動)

寝る。休む。ユク「リバ」[juku ɾriba] (寝なさい。休みなさい)。ユクイン「ショーリバ」[jukuin ɾʃoriba] (お休みなさいまし)。「ユク」チ「ナイン」[juku ʔʃi ɾnain] (横になる。休む) ユク「チャン」[juku ʔʃaŋ] (横になった)。ユク「チャンニン」ジ[juku ʔʃannin ʔʃi] (横になって寝ること)

ユク「チャン」[juku ʔʃa ɾŋ] (動)

横になった。休んだ。ユク「チャン ナ」ティ「ニンジュン」[juku ʔʃan na ʔti ɾninʃuŋ] (横になって寝る)

ユ「ゲーティ」[ju ɾge:ti] (名)

熱湯で火傷すること。ユゲー「タン」[juge: ɾtaŋ] (熱湯で火傷した)。ユ「ゲーランネー」チ「ユーヤ」イリランバ[ju ɾge:ranne: ʔʃi ɾju:ja ʔiriramba] (火傷しないようにお湯は入れなさいよ)。「ユー」ハキラリヤーマ「スィー」ユ「ゲーラ」スアタン「[ju: ɾhakirarija:ma ʔi: ju ɾge:raʔattan] (お湯をかけられて、手を火傷した)。ユゲー「リーヤ チャーキ」ンシュ「ダカスアンバ」(「ヌランバ」[juge: ɾri:ja ʃa:ki ɾŋʃu ɾdakaramba (ɾnuramba)] (火傷したらすぐ味噌を抱かせなさい<塗りなさい>)

ユ「ダ」イ「[juda ɾi] (名)

よだれ (涎)。「ユダイ」スアラシュン「[judai ɾaraʃuŋ] (涎を垂らす)。グイ「チャーヤ」ユー「ユダイ」スアラシュン「ミヤ」[gui ʔʃa:ja ɾju: ɾjudai ɾaraʃuŋ ɾmja:] (酔っ払いは、よく涎をたらすよ)。ワラビ「チューイヌ ユダヤーヤ」ウフツチュ「ナティン ユダヤーツチ イヤリ」ン「ミヤ」[warabi ʔʃu:inu ju daja:ja ʔuʔʃuʔʃu ɾnatiŋ judaja:tʃi ʔijari:m ɾmja:] (子供のときの涎垂らしは大人になっても涎垂らしと言われるよ)

ユン「タク」[jun ɾtaku] (名)

お喋り。無駄口。ユン「タク」シュン「[jun ɾtaku ʃuŋ] (お喋りする)。「アラー」ユン「タクツチ」ギチュータン「[ʔara: ɾ jun ɾtakutʃi gifu:taŋ] (あれはお喋りして座っていた)。「アラー」ユンタク「シャー」ヤル「[ʔara: ɾ juntaku ʃa: ɾ jaru] (あれはお喋りだ)。

「ヨーガラー」[jo:gara:] (名)

痩せている人。

「ヨーガリトウ」ン「[jo:garitu: ɾŋ] (動)

痩せている。「ヨーガラン」キ「バ」[jo:garaŋ ki ba] (痩せるな)。「ヨーガリティ」
ナーン[jo:gariti na:ŋ] (痩せてしまった)。「シレー」シレー ヨーガリ「ティ」
イキン[fire: fire: jo:gari ti ikin] (次第次第に痩せていく)。「アン」ツチ
ヨー「ビョー」キガ「ム」チュウ「ラ」ダン「ダ」ŋ 「ヨーガリトウ」ŋ[ʔan
tʃo: bjo: kiga mut ʃu:ra dan da ŋ jo:garitu:ŋ] (あの人は病気を
持っているのか、だんだん痩せてくる)

ヨー「ラー」[jo: ra:] (名)

わきばら (脇腹)。「ヨー」ラーヌ「ヤリ」キヤー「ン」ナラン[jo: ra:nu jari
kja: n naraŋ] (脇腹が痛くてたまらない<どうにもならない>)。「アリ」トウ
オー「ヤー」マ ヨー「ラー」ティカ「ッ」ティ「ナマ」ŋ ヤミ「スア」ŋ[ʔari tu
o: ja: ma jo: ra: tika ti nama ŋ jami ra:] (あれと喧嘩して脇腹
を突かれて、今でも痛むよ)

ワーバ「グ」トウ[wa:ba gu tu] (名)

余計なこと。必要以上の無用なこと。無益なこと。「ワーバ」グトウ「ツ」チ[wa:ba
gutu tʃi] (余計なことをして)。「ワーバ」グトウ「イヤ」ンカンバ[wa:ba guto:
ija ŋkamba] (余計なことは言うなよ)。「ワーバ」グトウ「ユマ」ンカン「バ」[wa:
ba guto: jumaŋ kam ba] (余計なことは喋るな)。「ユリ」アッカ「ン」カン
バ[juri ʔakka ŋ kamba] (触れ回るな。言いふらすな)

ワー「ブン」[wa: puŋ] (名)

豚舎。豚小屋。戦前は各家庭で豚を飼育していた。伝統的な豚舎は屋敷の北西の隅
に設置されていた。砂岩で囲い、屋根をかけ、床面は平石を敷きつめ、糞尿が流れ
出す溝にかけて緩やかな勾配をかけ、その前に人糞を落とすための便器を供えた構
造であった。便器の前には目隠しとなる石垣が約1メートルの高さに積み囲われて
いた。

「ワタ」[wata] (名)

はら (腹)。「内臓」全体。「はら」わた。「内臓」。「ワタ」ヤマ「チャン」ツ「クワ」[wata
jamaʃaŋ k kwa] (腹を痛めて生んだ子)。「ワタ」ヤマ「チ」ナ「チャヌ」ツ「クワ」
ヤスイガ「フル」イタ「クトウ」ゲー「ッチ」キヤー「ン」ナラン[wata jamafi
naʃanu k kwa ja θiga ʔuruitakutu ge:tʃi kja: n naraŋ] (腹を痛めて
生んだ子だが、成長したら反抗してどうにもならない)。「ワタヌ」ヤミ「ン」[watan
u jamiŋ] (腹が痛む。腹痛がする)。「ワタ」ム「ゲー」ティ「キヤー」ン「ナラン」
[wata mu ge:ti kja: n naraŋ] (腹が立って<腸が煮えたぎって>仕方が
ない)

「ワチャ」[waʃa] (名)

わき (腋)。「ワチャグイン」[*wafʃaguin*] (腋の下をこそぐる。くすぐる)。ワチャ「グラン」キ「バ」[*wafʃa ʃguran ki ba*] (くすぐるな)。ワチャ「グトーン」[*wafʃa ʃguto:n*] (くすぐっている)。「ワナー」ワチャ「グラン」[*wana: wafʃa ʃguran*] (私はくすぐらない)。「ワチャヌ」ツ「シャー」バハゴ「スアン」[*wafʃanu ʃʃa: ʃʃag o: ʃran*] (腋の下は痒いくこそばゆい)。「ワチャヌ」ゴ「シャーヌ」ハキ「ブシャ」ン[*wafʃanu go: ʃʃanu haki buʃan*] (腋が痒くて搔きたくなった)

ワラ「グ」ティ[*wara ʃgu ti*] (名)

わらじ (草鞋)。「アラン」[*ʃaran*] (あだん) の気根の繊維を裂いて草鞋を編んだ。ミカ「シャー」ハ「チラ」イユ「クラーシガ」ンジャイ「ユナグン」シャーガ「イライ」シーガ「イキーヤ」ワラ「グティ」クリル「ウミ」チャー「イキタル」[*mika ʃa: ha ʃfira ʃiju kwa: ʃiga ʃnʃai junagun ʃa:ga ʃirai ʃi:ga ʃiki:ja wara ʃguti kuriru ʃumi ʃfa: ʃikitaru*] (昔は徒で魚釣りに行ったり、女達がいさり<漁り>しに行くときは、草鞋を履いて<ぞ>、海へは行ったものである)

「ワレー」ブク[*ware: buku*] (名)

えくぼ (笑窪)。「ワレーブク」ヌ「フツチャギ」スアン[*ware:buku nu ʃutʃagi ʃran*] (えくぼ<笑窪>が可愛らしい)

「ンギャナー」[*ʃngjana:*] (名)

どもり (吃音)。「アラ」ンギャナー「ヤル」[*ʃara: ʃngjana: ʃjaru*] (あれはどもり<吃音者>だ)。「アラ」ンギャナー「ヤスイガ」スアンシン「ピチウテーヤ」ンギャナー「ハカラスアン」[*ʃara: ʃngjana: ʃja ʃiga ʃranʃim piʃi ʃute:ja ʃngjana: hakaraʃan*] (あれはどもり<吃音者>だが三味線を弾いて歌う時にはどもらない)。「ユー」ンギャニ「シュン」[*ju: ʃngjani ʃun*] (良くどもる)。「ナマ」ンギャナー「ノーティ」スアン[*nama ʃngjana: no:ti ʃran*] (今はどもり<吃音>は治って、どもらない<しない>)。ミカ「シャー」ユー「ンギャニ」シュ「タ」ン[*mika ʃa: ju: ʃngjani ʃu ta n*] (昔はよくどもった<吃音した>)

「ンニ」[*nni*] (名)

胸。「ンニ」ヌ「マギ」スアン[*nni nu magi ʃran*] (胸が大きい)。「ンニ」ヌ「グマ」スアン[*nni nu guma ʃran*] (胸が小さい)

「ンブキーン」[*ʃmbuki:n*] (動)

おぼれる (溺)。「ンブキタン」[*ʃmbukitan*] (溺れた)。「ンブキラン」[*ʃmbukiran*] (溺れない)。「ンブキヤー」スアタキ「ムトゥミリバ」[*ʃmbuki:ja ʃratak i mutumiriba*] (溺れたら助けをもとめなさい)。「ンブキトゥ」ン「ワラビ」スア

タキタン[ʔmbukitu:ŋ ʔwarabi ʔratakitaŋ] (溺れている子供を助けた)。「
ンブキギスアー ナイヤー」 スアタキ 「ムトゥミリバ[ʔmbukigira: naija:ʔ
ratakiki ʔmutumiriba] (溺れそうになったら助けを求めなさい)

ンブスアン[ʔmburaŋ] (形)

重い。「ンブスアー」ナーン[ʔmbura:na:ŋ] (重くない)。「ンブスアイヤ[ʔmbur
aija] (重いか)。「ンブスアタン[ʔmburataŋ] (重かった)。「ンブスアナ」ティ
「シューン[ʔmburanaʔti ʔʃu:ŋ] (重くなってくる)。「ウヌ バキヤー」ヌー
ヌ 「イチチューラ ンブスア」ヌ 「ムチ 「アギララン[ʔunu bakja:ʔ nu:nu
ʔitʃu:ra ʔmburaʔnu ʔmuʃi ʔagiraraŋ] (このざる<箒>には何が入って
いるのか、重くて持ち上げられない)。「ンブスアナイン[ʔmburanaiŋ] (重くなる)

ンブ」トゥ[mbuʔtu] (名)

できもの(出来物)。「ねぶと(根太)」の義か。背部、大腿部、臀部などに生ずる腫
れ物。ンブ」トゥ」ヌ ンギ」タン[mbuʔtuʔnu ʔŋgiʔtaŋ] (出来物<根太>が出来
た)

ン」マリーン[ʔmʔmari:ŋ] (動)

生まれる。ン」マリタン[ʔmʔmaritaŋ] (生まれた)。「ン」マッタン[ʔmʔmattaŋ] (生
まれた)ともいう。「ナマ」 ン」マリラン[ʔnamaʔ ʔmʔmariraŋ] (まだ生まれな
い)。「ナマ」 ン」マリラネー[ʔnamaʔ ʔmʔmarirane:] (まだ生まれないか)。「ン
」マリタイヤ[ʔmʔmaritaija] (生まれたか)

ンミ[ʔmmi] (名)

うみ(膿)。「ンミ」ヌ ンギーン[ʔmminuʔ ʔŋgi:ŋ] (膿が出る)。「ンミ ンギ
ヤ」シューン[ʔʔmmi ʔŋgiaʔʃuŋ] (膿を出す)。「ニブ」トゥ ンミ ンギヤシューン[ni
buʔtu ʔmmi ʔŋgiaʃuŋ] (出来物<根太>の膿を出す)